



ながくて幸せ実感調査隊メンバー

ながくて幸せ実感アンケート 報告書

～みんなで作ろう 幸せのモノサシ～

平成26年12月

長久手市

ごあいさつ

日頃から、市政の推進につきまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

長久手市では現在、「幸福度の高いまち＝日本一の福祉のまち」の実現に向けて、「つながり」「あんしん」「みどり」の3つのフラッグを基本理念に、様々なプロジェクトに取り組んでいます。その中の「つながり」に関するプロジェクトの一つが、「ながくて幸せのモノサシづくり」です。

これまでの右肩上がりの時代では、GNPやGDPなど経済成長を示す指標や、満足度、重要度のように行政ニーズを推し量る指標など、発展やサービスの拡充を尺度としていました。ところが、誰も経験したことのない人口減少社会を迎え、今までの価値観だけでは判断することができない新たな時代が到来しました。「人々は発展するために生まれてきたのではなく、幸せになるためにこの地球にやってきたのです。」という南米ウルグアイ大統領の有名なスピーチにあるように、これからの時代には、「幸せ」という大きな概念や価値観に立って物事を考え、そのための尺度が必要なのではないかと考えました。

その新しい尺度の設定に向けた取組が「ながくて幸せのモノサシづくり」です。このモノサシは、従来の指標や統計データの背景に隠れていた市民の生活実感や地域の状態を把握し、地域や暮らしの中にある本当の課題を見つけ、みんなで解決策を考えて行動していくことを目指すために必要な道具と考えています。

ながくて幸せ実感アンケートは、ながくて幸せのモノサシづくりを進めるにあたり、「今の長久手の幸せを測る」をテーマに、市民の皆様の暮らしの状況や地域の状態などを確認することを目的として実施しました。この取組では、有志の市民と若手の市職員による「ながくて幸せ実感調査隊」を結成し、地域生活指標開発の専門家である関西大学の草郷孝好教授の力をお借りして、市民と市職員が主体となり、調査票の作成から調査結果の分析まで一緒になって取組みました。私が拝見したワークショップでは、市民と市職員が同じ立場で互いの意見に耳を傾け、活発な議論を交わし、急がず、柔軟に、丁寧に結論を導き出す姿がありました。その姿はまさに、「長久手方式」の新しいまちづくりの第一歩であると、思わず笑みがこぼれました。この場を借りて、市民メンバーの皆様に厚くお礼を申し上げます。

「ながくて幸せのモノサシづくり」は、これからも市民と一緒に取組んでいきますが、まずは、ぜひこのアンケート結果を積極的に活用してください。の中には、きっと何かのヒントがあるはずです。皆様に多くの発見をもたらし、議論し、新たな取組を考えるきっかけになればと切に願います。

平成26年11月

長久手市長
吉田一平

ながくて幸せ実感調査隊の取組を終えて

「未来に向けた新しいまちづくりとは、何から始めればよいのか。」このテーマに向かって、長久手市では市民と行政、議会の関係を変えていく新たな取組がなされました。市民は何でも役所頼みではなく、自分たちにできることは自分たちで実行していくという地道な活動を始めました。議会は、市民の声を直接聞く機会として議会報告会を設けました。また、行政は、市政まなび舎の開催、まちづくりに関する講演会の企画、職員と市民とが意見交換する数々のワークショップの開催など、積極的な情報公開、市民が学ぶ機会の提供、市民の声を聞く姿勢を鮮明に打ち出しました。

このような、市民と行政による新しいまちづくりのための取組の中で、特徴的であったのが、「市民目線で幸せを測る長久手独自のモノサシづくり」を目指した「ながくて幸せ実感調査隊」でした。それは、今の長久手の幸せを測ることを目的として、「ながくて幸せ実感アンケート」を実施することを当面の目標とする、市民と若手職員、事務局、専門家（行政コンサルタント）、学識経験者（草郷先生）から成るメンバーの集まりでした。

この取組では、平成25年10月から平成26年8月までの10か月に渡り、延べ10回のミーティングを重ね、市民と職員が中心となつてのアンケート票づくりとその結果をまとめたことの意義はありましたが、それ以上に「新しいまちづくりのために、もっと『大切なこと』を準備してきた！」ということに気づきました。従来こうした取組では、事務局や専門家、学識経験者が中心になるのですが、事務局はあえて細かな段取りを示さず、当初から市民と職員が議論し、アンケートの内容からアンケートの分析結果のまとめまで、いつも同じ目線で話し合ってきた。アドバイザーである草郷先生の人柄に魅せられ、お互いをニックネームで呼び合い、参加した市民メンバーと若い職員が緊張しないように、自由にリラックスした雰囲気の中で、いつも活発な話ことができました。それは、同じテーマに向かい、組織や立場を超えて、市民と「胸襟を開いて」話し合うことの大切さを知る機会となりました。また、市民と行政が知恵を出し合うための場づくりであり、市民と行政がまちづくりのためのパートナーとして、信頼関係を築いていくための一つの試みであったのではないかと思います。

今後は、私たち市民が当事者感覚を持って、地域でどのように主体性を発揮した活動ができるかが問われており、さらに、従来の関係性を変えていく試みが求められているということでもあります。

ながくて幸せ実感調査隊一同

目 次

序章 調査の概要.....	1
(1) 調査の目的	1
(2) ながくて幸せ実感調査隊ミーティング開催経過.....	1
(3) 活動の特徴	2
(4) 調査対象及び調査方法	2
(5) 調査票の回収状況	2
(6) グラフの見方等	3
(7) 本文のコメントについて	3
(8) 問3 (P. 24) 及び 問8～問16 (P. 44～97) の評点の算出方法.....	3
第1章 回答者の属性.....	4
(1) 性別 (問19 (1))	4
(2) 年齢 (問19 (2))	4
(3) 職業 (問19 (3))	5
(4) 年収 (問19 (4))	6
(5) 通勤先・通学先 (問19 (5))	7
(6) 住まい (問19 (6))	8
(7) 配偶者の有無 (問19 (7))	8
(8) 家族形態 (問19 (8))	9
(9) 同居の家族 (問19 (9))	10
(10) 小学校区 (問19 (10))	11
(11) 居住歴 (問19 (11))	11
第2章 幸せ感について.....	12
(1) 幸せ感の点数とその点数を選んだ理由 (問1)	12
(2) 大事だと思う分野 (問2)	22
(3) 生活の満足度 (問3)	24
第3章 住み心地について.....	28
(1) 住みよいまちだと思いか (問4)	28
(2) 愛着を感じているか (問5)	31
(3) 今後も住み続けたいか (問6)	33
(4) 魅力的な点・魅力的でない点 (問7)	36
第4章 暮らしやお住まいの地域(生活実感) について.....	44
4-1 健康について.....	45
(1) 健康的な暮らし (問8 (1))	48
(2) 居住地域の運動環境 (問8 (2))	48
(3) 健康的な食生活 (問8 (3))	49
(4) 精神的安らぎ (問8 (4))	49
(5) 心豊かな生活 (問8 (5))	50
(6) 病院等の充実度 (問8 (6))	50
4-2 子育て・教育について.....	51
(1) 出産・育児 (問9 (1))	54
(2) 地域における子どもの成長 (問9 (2))	54
(3) 地域における子育て環境 (問9 (3))	55
(4) 子育て・教育に関する相談 (問9 (4))	55
(5) 家庭内における子どもとのコミュニケーション (問9 (5) -1)	56
(6) 地域における子どもとのコミュニケーション (問9 (5) -2)	56

4-3	自然やごみなどの環境について	57
(1)	豊かな自然環境 (問 10 (1))	60
(2)	公園や遊び場 (問 10 (2))	60
(3)	まち並み (景観・風景) (問 10 (3))	61
(4)	ごみの分別 (問 10 (4))	61
(5)	環境に配慮した生活 (問 10 (5))	62
4-4	人や地域のつながりについて	63
(1)	地域を盛り上げていく活動や行事への参加-1 (問 11 (1) -1)	66
(2)	地域を盛り上げていく活動や行事への参加-2 (問 11 (1) -2)	66
(3)	あいさつや近所づきあい-1 (問 11 (2) -1)	67
(4)	あいさつや近所づきあい-2 (問 11 (2) -2)	67
(5)	あいさつや近所づきあい-3 (問 11 (2) -3)	67
(6)	自宅以外の居場所 (問 11 (3))	68
(7)	「たつせ」があるか (問 11 (4))	68
(8)	困ったときに頼りになる相談相手-1 (問 11 (5) -1)	69
(9)	困ったときに頼りになる相談相手-2 (問 11 (5) -2)	69
(10)	困ったときに頼りになる相談相手-3 (問 11 (5) -3)	69
(11)	国籍・文化の異なる人にとっての住みやすさ (問 11 (6))	70
4-5	防災・防犯について	71
(1)	災害に備えた話し合いや防災訓練への参加 (問 12 (1))	74
(2)	家庭内での災害に対する自主的備え (問 12 (2))	74
(3)	災害時における避難場所、避難方法の周知 (問 12 (3))	75
(4)	地域における治安 (問 12 (4))	75
(5)	地域における安全安心の取り組み (問 12 (5))	76
4-6	福祉について	77
(1)	地域の助け合い (問 13 (1))	80
(2)	市・事業者による福祉サービスの周知 (問 13 (2))	80
(3)	高齢者や障がい者を手助けできるか (問 13 (3))	81
(4)	自分または家族の介護についての不安 (問 13 (4))	81
(5)	地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいか-1 (問 13 (5) -1)	82
(6)	地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいか-2 (問 13 (5) -2)	82
4-7	文化・生涯学習について	83
(1)	伝統・文化への関心 (問 14 (1))	85
(2)	芸術文化に接する機会 (問 14 (2))	85
(3)	知識・能力を伸ばす機会 (問 14 (3))	86
(4)	地域における自慢すべき「宝」の有無 (問 14 (4))	86
4-8	生活インフラについて	89
(1)	買い物、通院の便 (問 15 (1))	92
(2)	出かける際の移動の便 (問 15 (2))	92
(3)	出かける際の移動の安全 (問 15 (3))	93
(4)	就業環境 (問 15 (4))	93
(5)	インターネットや電子メールの利用 (問 15 (5))	94
4-9	まちづくりにおける地域の役割について	95
(1)	地域における社会貢献の意思 (問 16)	97
(2)	課題解決におけるコミュニティの重要性 (問 17)	97
(3)	地域コミュニティへの参加の意思 (問 18)	98

第5章 総括.....	101
(1) 今後に向けて.....	101
(2) 総括（ながくて幸せのモノサシづくりアドバイザー）.....	102

資料編

1. ながくて幸せ実感調査隊の活動の歩み.....	108
2. 評点算出結果一覧表（年齢別、小学校区別）.....	190
3. 担当職員による深読み分析.....	200
4. アドバイザーによる一考察.....	208
5. ながくて幸せ実感アンケート調査票.....	235

序章 調査の概要

(1) 調査の目的

本市では、「つながり」、「あんしん」、「みどり」を基本的なキーワードに、市民と行政がともに課題を見つけ、考え、解決していくために様々な取組を積み重ねていくことができるまち、「一人ひとりの幸福度の高いまち＝日本一の福祉のまち」を目指して、だれもが地域で役割や居場所を持ち、互いに助け合うことができ、生きがいを持って充実した日々を過ごすことができるまちづくりを小学校区単位で推進するなど、新たなまちのかたちづくりに向けて様々な取組を開始しました。

そして、こうした地域自治の構築に向けた仕組みづくりの一環として、①まちづくりは目指す方向に向かって上手く進んでいるのか、②市民生活や地域社会の状況を把握できているのかについて、市民とともに確認していく「尺度＝道具」としてのモノサシが必要ではないかと考え、市民目線による「ながくて幸せのモノサシづくり」に取り組むことになりました。

そこで、本調査では、「ながくて幸せのモノサシづくり」を進めるにあたって、その基礎的な知見を得るために、まずは市民の皆様のご日常生活や地域生活の実感をお聞きする「ながくて幸せ実感アンケート」の実施を通じて、長久手の姿や市民の皆様のご暮らしの状況等を確認することを目的として実施しました。

調査の実施にあたっては、有志の市民と市職員による「ながくて幸せ実感調査隊」（以下「調査隊」という。）を結成し、『今の「ながくての幸せ」を測ってみよう！』をキャッチフレーズに、計10回のミーティングの開催を通じて、「幸せ」に欠かせないことや大切なこと、確認すべきことについて、何度も議論を重ねてアンケート調査票を作成しました。また、調査結果の分析においても、調査隊のメンバー参加型で進めました。



(2) ながくて幸せ実感調査隊ミーティング開催経過

回	日時	検討テーマ
第1回	平成25年 10月28日(月)	「将来の望ましい長久手の姿を考えよう！」
(市民まつり)	11月10日(日)	市民インタビュー「ながくて市民の幸せ集め」
第2回	11月25日(月)	「幸せ実感アンケートづくりに入ろう！」
第3回	12月9日(月)	「今日もアンケートをつくろう！」
第4回	12月20日(金)	「質問項目を選ぼう！」

回	日時	検討テーマ
第5回	平成26年 1月29日(水)	「みんなでアンケート票を直そう！」
第6回	2月6日(木)	「今日もみんなでアンケート票を直そう！」
第7回	2月12日(水)	「完成したアンケート票を発表して市長に渡そう！」
第8回	5月9日(金)	「集計結果から見えてくること、分析したいことを考えよう！」
第9回	7月4日(金)	「幸せ実感調査隊の活動を振り返ろう！」
第10回	8月22日(金)	「アンケートの活用方法、まちづくりへのアイデアを考えよう！」

※詳しくは、資料編(P.108~189)を参照。

(3) 活動の特徴

本市のまちづくりの方向性にもあるように、この取組においても「市民目線」と「市民と職員の協働」を進め方の基本としています。このため、調査隊では結果として10回のワークショップを重ねましたが、事務局が誘導しすぎることなく、取組の趣旨を逸脱しない範囲で臨機応変に対応し、毎回の進捗に応じて次回のプログラムを検討しました。その結果、協働でアンケート票を作成し、集計結果から見える気づきや結果の活用、活動の振り返り、アンケート結果からまちづくりへのアイデア出しまで行うことができました。

また、この取組は、市民、若手職員、事務局それぞれの能力開発、人材育成という側面も持ち合わせています。これは、市民と若手職員においては、新たな知識の取得はもちろん、アイデア出しから合意形成、プレゼンテーションなどの能力が習得でき、何よりも互いの立場を理解し、立場を超えて作業を進めることができました。事務局は、企画・立案力はもちろん、折衝力、プレゼンテーション、そして何よりも雰囲気作りの大切さを学びました。

(4) 調査対象及び調査方法

①調査対象者

- ・住民基本台帳から無作為に選んだ市内在住の満18歳以上の市民5,000人

②調査方法

- ・郵送による配布・回収

③調査期間

- ・平成26年2月28日～平成26年3月24日

(5) 調査票の回収状況

- ・回収状況は、下表のとおり。

表-1 回収状況

A: 配布数	B: 回収数	C: 有効回収数	D: 有効回収率 $D=C/A$
5,000	1,878	1,871	37.4%

(6) グラフの見方等

- ・グラフは、原則として単数回答は帯グラフ、複数回答は横棒グラフやダンゴ形のグラフを用いて表現しています。基数となる実数はnとして掲載し、各グラフの構成比(%)はnを母数とした割合を示しています。
- ・図中の構成比(%)は、複数回答、単数回答ともに、小数点以下第2位を四捨五入しています。その関係で合計は必ずしも100.0%にはなりません。
- ・一部のグラフにおいては、「回答なし」は省略してあります。また、設問のカテゴリー(選択肢)などの表現は、一部省略している場合があります。

(7) 本文のコメントについて

- ・**要点**は、各設問の調査結果のポイントを簡潔に記述しています。
- ・**全体**は、各設問の単純集計の結果や、設問内における各項目との比較などについて記述しています。
- ・**年齢別**は、年齢別にクロス集計を行った結果について記述しています。
- ・**小学校区別**は、小学校区別にクロス集計を行った結果について記述しています。
- ・**調査隊・調査隊からの提言**は、「ながくて幸せ実感調査隊」(前述)ミーティングなどで頂いたコメントを抜粋して掲載しています。

(8) 問3 (P.24~27) 及び 問8~問18 (P.44~99) の評点の算出方法

各分野における生活の実感や実態については、下記の方法により5段階の得点をつけて、回答者の平均となる評点を算出しました。生活の実感や実態の分析はこの評点をもとに行っています。なお、算出した評点については、小数点第3位で四捨五入しています。

選択肢	選択肢	選択肢	得点
1. 満足している	1. そう思う	1. ある	5点
2. どちらかといえば満足している	2. まあそう思う	2. まあある	4点
3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3点
4. どちらかといえば不満である	4. あまりそう思わない	4. あまりない	2点
5. 不満である	5. そう思わない	5. ない	1点

評点 = {「1. そう思う」の回答者数 × (5点) + 「2. まあそう思う」の回答者数 × (4点) + 「3. どちらともいえない」の回答者数 × (3点) + 「4. あまりそう思わない」の回答者数 × (2点) + 「5. そう思わない」の回答者数 × (1点)} ÷ 総回答者数

選択肢	選択肢	選択肢	得点
1. そう思う	1. 参加している	1. 行われている	5点
2. まあそう思う	2. まあ参加している	2. まあ行われている	4点
3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3. どちらともいえない	3点
4. あまりそう思わない	4. あまり参加していない	4. あまり行われていない	2点
5. そう思わない	5. 参加していない	5. 行われていない	1点
6. 該当しない	6. やっていることを知らない	6. やっていることを知らない	計算に含めない

評点 = {「1. そう思う」の回答者数 × (5点) + 「2. まあそう思う」の回答者数 × (4点) + 「3. どちらともいえない」の回答者数 × (3点) + 「4. あまりそう思わない」の回答者数 × (2点) + 「5. そう思わない」の回答者数 × (1点)} ÷ (総回答者数 - 「6. 該当しない」の回答者数)

★問16については、以下の計算式で算出しています。

評点 = {「1. 思っている」の回答者数 × (4点) + 「2. あまり考えていない」の回答者数 × (2点)} ÷ (総回答者数 - 「3. わからない」の回答者数)

第1章 回答者の属性

(1) 性別 (問19 (1))

問19 (1) あなたの性別は、どちらですか。【〇は1つ】

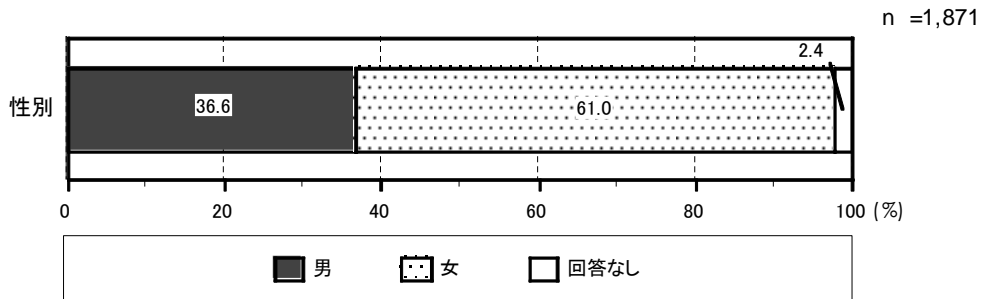
要点

女性が約6割、男性が4割弱となっており、女性からの回答が多くなっています。

全体

- 「男性」が36.6%、「女性」が61.0%と「女性」の割合の方が多くなっています (図1-1)。
- 調査時点における市内全体の男女の比率が、ほぼ同じ割合であるのに対して、今回の調査では「女性」の割合が「男性」の割合を24.4ポイント上回っています。

図1-1 性別



(2) 年齢 (問19 (2))

問19 (2) あなたの年齢は、次のうちどれですか。【〇は1つ】

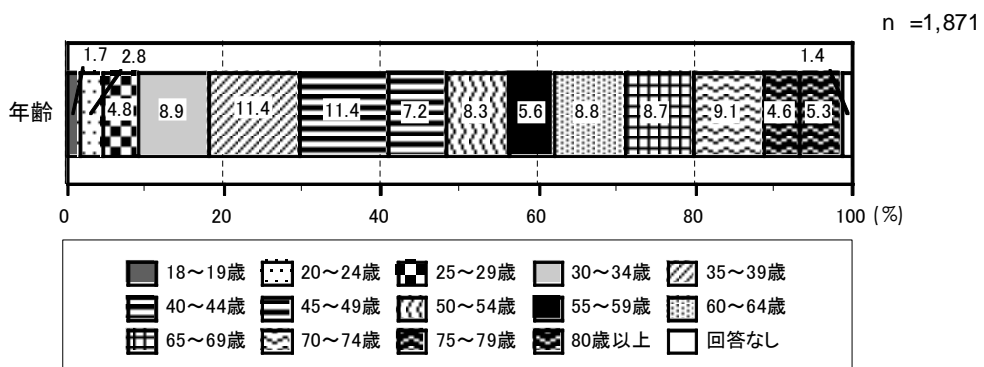
要点

「35～39歳」と「40～44歳」がそれぞれ11.4%と最も多い一方で、20歳代以下は、1割未満と少なくなっています。

全体

- 「35～39歳」と「40～44歳」がそれぞれ11.4%と最も多く、次いで「70～74歳」(9.1%)となっている一方で、20歳代以下は、9.3%と少なくなっています (図1-2)。
- 長久手の実際の人口構成と比べて、60歳代以上の高齢者層の回答割合が多い一方で、20歳代以下は、少なくなっています。

図1-2 年齢



(3) 職業 (問19 (3))

問19 (3) あなたの職業は、次のうちどれですか【〇は1つ】

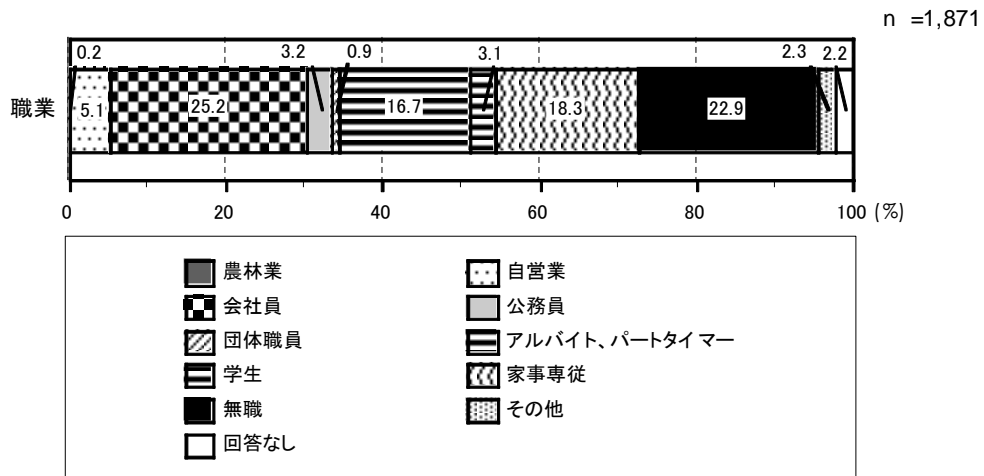
要点

「会社員」が25.2%と最も多いものの、「無職」(22.9%)、「家事専従」(18.3%)の2項目に「学生」(3.1%)を合わせた“非就業者”は全体の44.3%を占めています。

全体

- 「会社員」が25.2%と最も多く、「無職」(22.9%)、「家事専従」(18.3%)と続いています。
- 「無職」(22.9%)、「家事専従」(18.3%)の2項目に「学生」(3.1%)を合わせた“非就業者”は全体の44.3%を占めています。
- 一方、上記の“非就業者”(44.3%)と「回答なし」(2.2%)、「その他」(2.3%)を除いた残りの51.2%が、「自営業」や「アルバイト・パートタイマー」などを含めた“就業者”となっています。
- “就業者”の中でも、「アルバイト・パートタイマー」が全体の16.7%を占めていますが、「会社員」と「公務員」、「団体職員」を足し合わせた、いわゆる“サラリーマン”は全体の29.3%を占め、「アルバイト・パートタイマー」の割合を上回っています。また、「農林業」と「自営業」については、合わせても全体の5.3%となっています。

図1-3 職業



(4) 年収 (問19 (4))

問19 (4) あなたの家庭全体の年収 (年金を含む。) はどのくらいですか。【○は1つ】

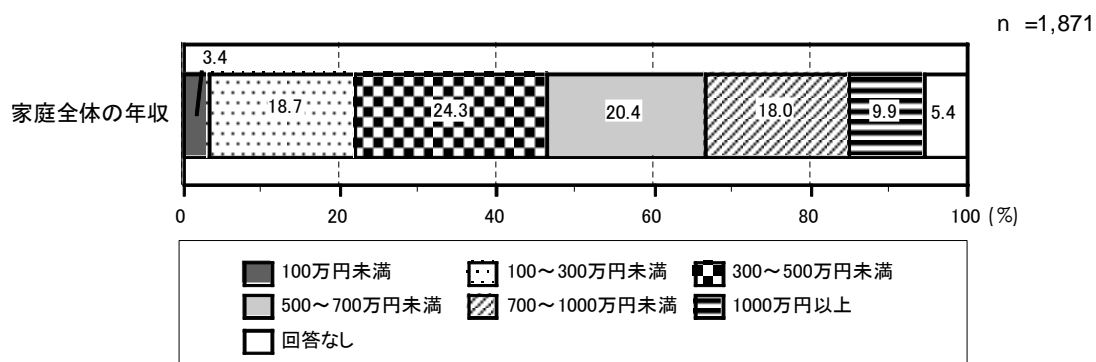
要点

「300～500万円未満」が24.3%で最も多くなっていますが、年収500万円を境にそれ未満とそれ以上の年収の世帯は、ほぼ同じ割合になっています。

全体

- 「300～500万円未満」が24.3%で最も多く、次いで「500～700万円未満」が20.4%となっており、500万円を境にそれ未満とそれ以上の年収の世帯は、ほぼ同じ割合 (500万円未満：46.4%、500万円以上：48.3%) になっています。
- 「1000万円以上」の高額所得者が1割近くとなっています。(図1-4)。

図1-4 年収



(5) 通勤先・通学先 (問 19 (5))

問 19 (5) あなたの通勤先・通学先は、次のうちどれですか。【○は1つ】

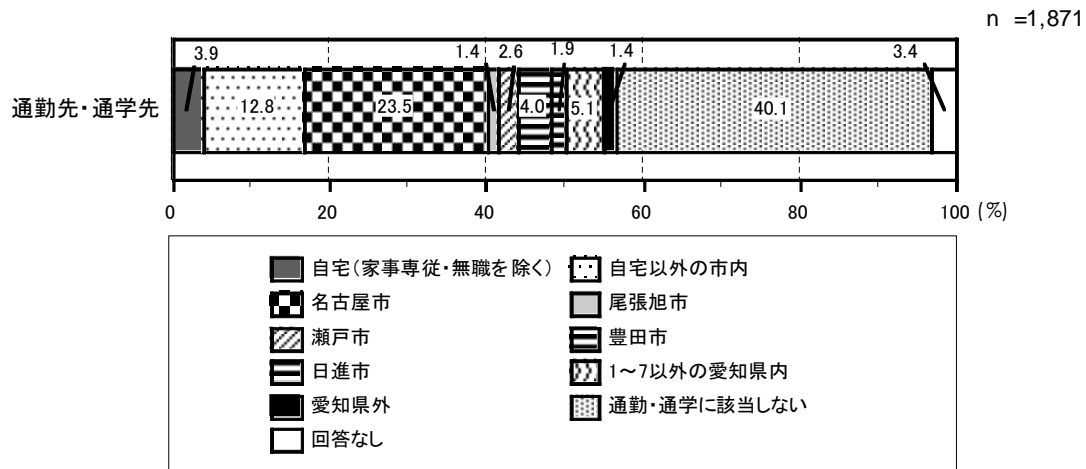
要点

回答者の52.6%が通勤・通学しており、このうち通勤先・通学先で最も多いのは、「名古屋市」で23.5%となっており、次いで「自宅」を含む市内が16.7%、名古屋市を除く隣接自治体（尾張旭市、瀬戸市、豊田市、日進市）は、合わせて9.9%にとどまっています。

全体

- 「通勤・通学に該当しない」が40.1%を占め、これと「回答なし」(3.4%)、「自宅(家事専従・無職を除く)」(3.9%)を除いた残りの52.6%が通勤・通学しており、通勤先・通学先で最も多いのは、「名古屋市」で23.5%となっています。
- 次いで、「自宅以外の市内」が12.8%となっており、名古屋市を除く隣接自治体（尾張旭市、瀬戸市、豊田市、日進市）に通勤・通学している回答者は、合わせて9.9%にとどまっています(図1-5)。
- 通勤・通学している回答者の通勤・通学先の内訳は、「名古屋市」が44.7%、「自宅」を含む市内が31.7%、名古屋市を除く隣接自治体（尾張旭市、瀬戸市、豊田市、日進市）が18.8%となっています。

図1-5 通勤先・通学先



(6) 住まい (問 19 (6))

問 19 (6) あなたの住まいは、次のうちどれですか。【〇は1つ】

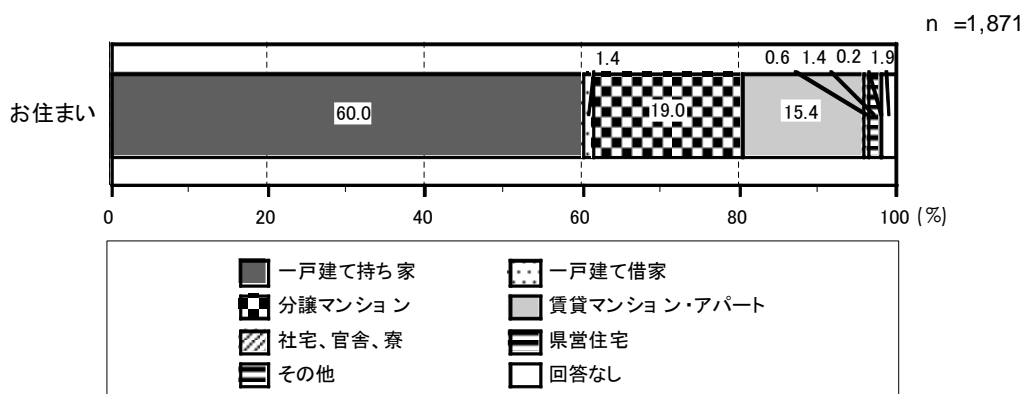
要点

回答者の約8割が持ち家（「一戸建て持ち家」(60.0%) や「分譲マンション」(19.0%)）に居住しています。

全体

- 回答者の住まいは、「一戸建て持ち家」が60.0%、次いで「分譲マンション」が19.0%となっており、約8割が持ち家に居住しています。
- 借家の中では、「賃貸マンション・アパート」が15.4%となっています。

図 1-6 住まい



(7) 配偶者の有無 (問 19 (7))

問 19 (7) あなたには配偶者がいますか。【〇は1つ】

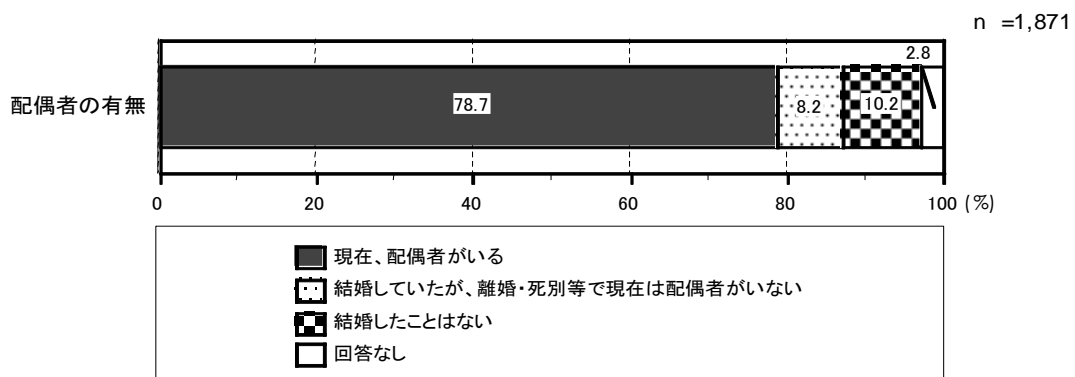
要点

「結婚経験あり」が86.9%、「結婚経験なし」が10.2%になっています。

全体

- 回答者の配偶者は、「現在、配偶者がいる」が78.7%となっており、「結婚していたが、離婚・死別等で現在は配偶者がいない」(8.2%) と合わせると、結婚経験のある回答者は86.9%に達しています。
- 一方、結婚経験のない回答者は10.2%にとどまっています (図 1-7)。

図 1-7 配偶者



(8) 家族形態 (問 19 (8))

問 19 (8) あなたのご家族の形態は、次のうちどれですか。【〇は1つ】

要点

「二世世代家族」が54.0%と最も多く、次いで「夫婦だけ」が27.6%と続いています。

全体

○回答者の家族の形態は、「二世世代家族」が54.0%と最も多く、次いで「夫婦だけ」が27.6%と続いています。

○「三世世代家族」(7.7%)と「単身世帯」(7.3%)は共に1割未満となっています(図1-8-1)。

○「夫婦だけ」の世帯(27.6%)のうち半数以上が「高齢夫婦世帯」(14.3%)であり、また、「単身世帯」(7.3%)のうちが「高齢単身世帯」(2.7%)となっています(図1-8-1、図1-8-2)。

図1-8-1 家族の形態

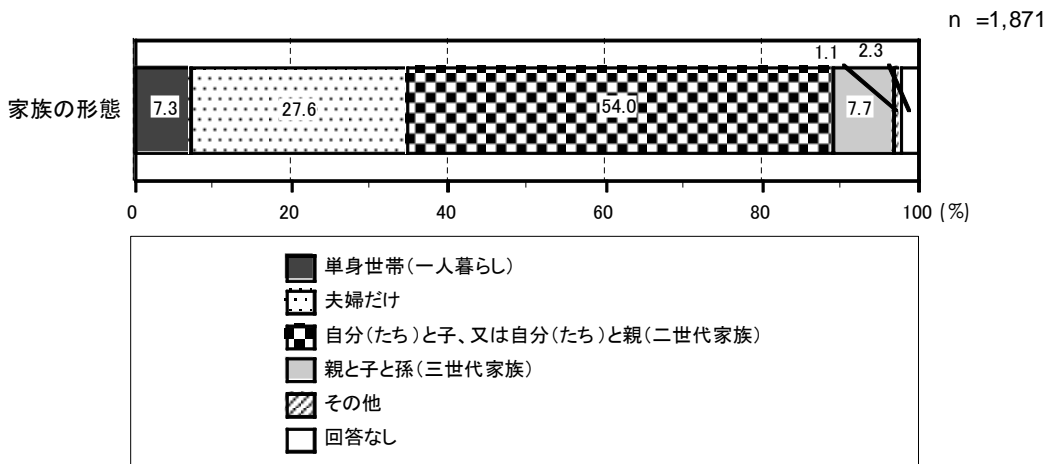
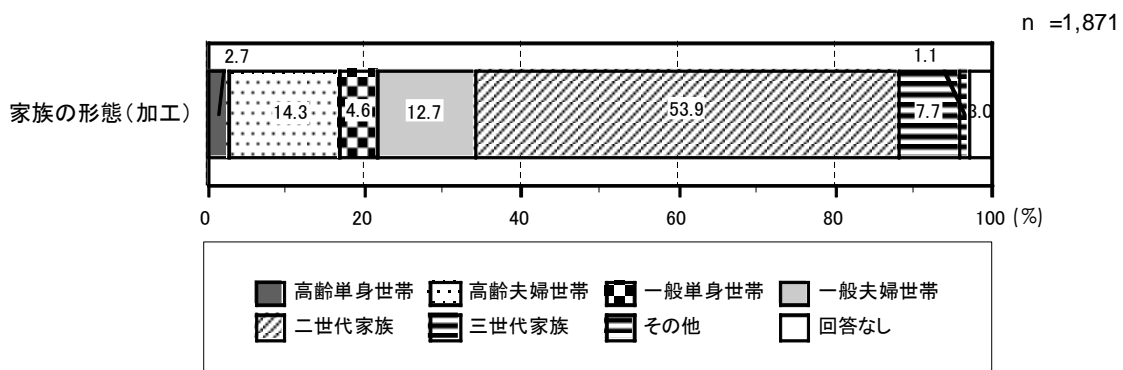


図1-8-2 家族の形態 (データ加工したもの)



(9) 同居の家族 (問 19 (9))

問 19 (9) あなたの同居のご家族には、次のいずれかにあてはまる方がいますか。あなたご自身を含めて、あてはまる人をすべて選んでください。

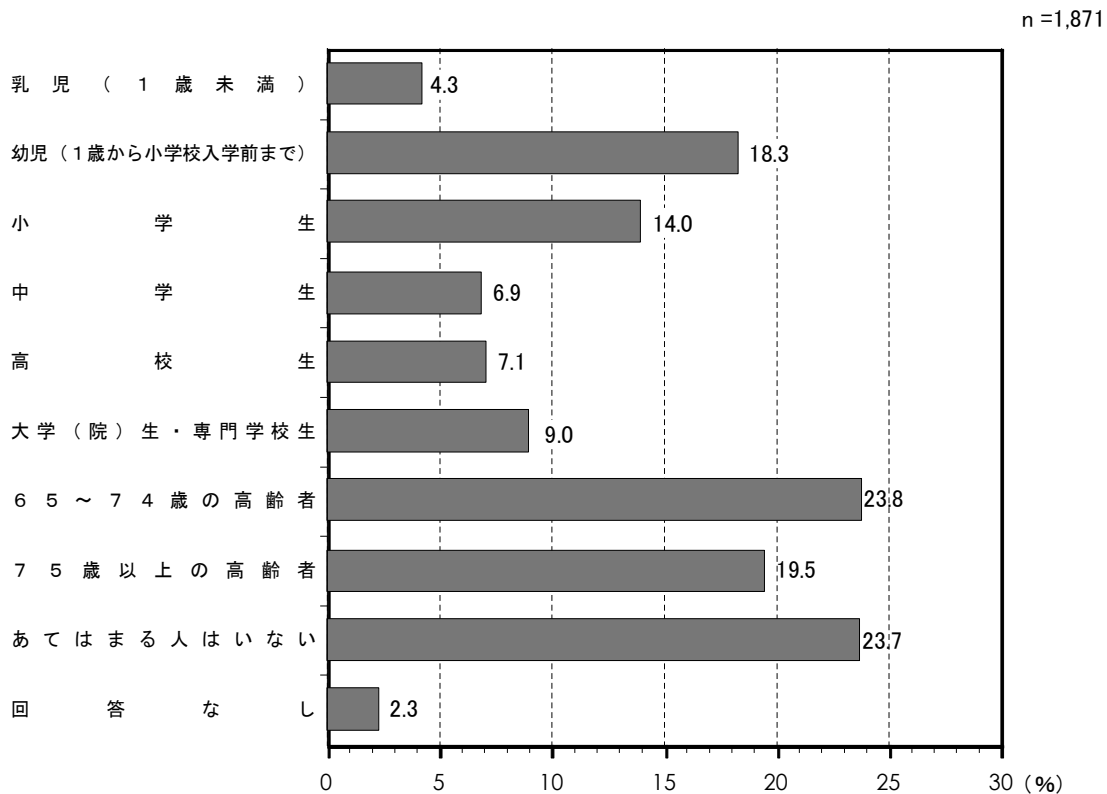
要点

子どもや学生、65歳以上の高齢者などの同居の家族がいる世帯が74.0%となっており、そのうち、「65～74歳の高齢者」(23.8%)がいる世帯や「75歳以上の高齢者」(19.5%)がいる世帯、「幼児(1歳から小学校入学前まで)」(18.3%)がいる世帯が多くなっています。

全体

- 「あてはまる人はいない」(23.7%)と「回答なし」(2.3%)を除く残りの74.0%は、子どもや学生、65歳以上の高齢者がある世帯となっています。
- 「65～74歳の高齢者」(23.8%)がいる世帯が最も多く、次いで、「75歳以上の高齢者」(19.5%)、幼児(18.3%)、小学生(14.0%)と続いています(図1-9)。

図1-9 同居の家族



(10) 小学校区 (問 19 (10))

問 19 (10) あなたの小学校区はどこですか。【○は1つ】

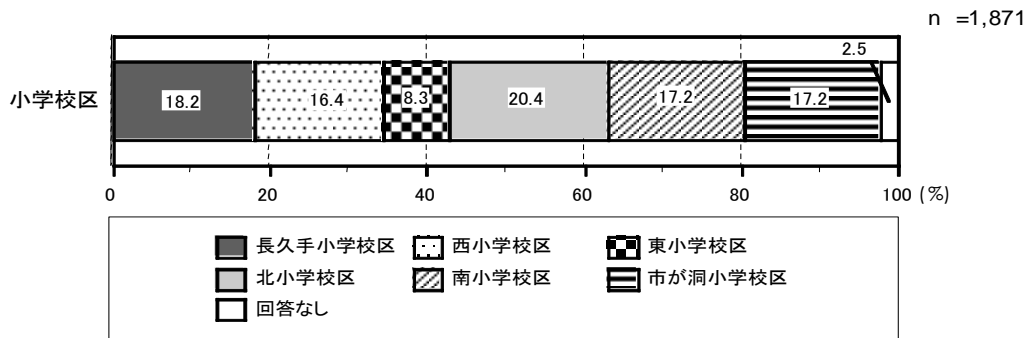
要点

居住地区については、「北小学校区」が 20.4%と最も多く、次いで、「長久手小学校区」(18.2%)が多くなっています。実際の小学校区別の世帯数の割合とは多少のずれがみられます。

全体

- 居住地区については、「北小学校区」が 20.4%と最も多く、次いで、「長久手小学校区」(18.2%)、「南小学校区」(17.2%)、「市が洞小学校区」(17.2%)と続いています(図 1-10)。
- 実際に世帯数が最も多い小学校区は、「南小学校区」で、次いで、「北小学校区」、「市が洞小学校区」、「西小学校区」「長久手小学校区」「東小学校区」と続いていることから、実際の学区別の世帯数の割合とは多少のずれがみられます。

図 1-10 小学校区



(11) 居住歴 (問 19 (11))

問 11 あなたは、長久手市に居住して何年になりますか。【○は1つ】

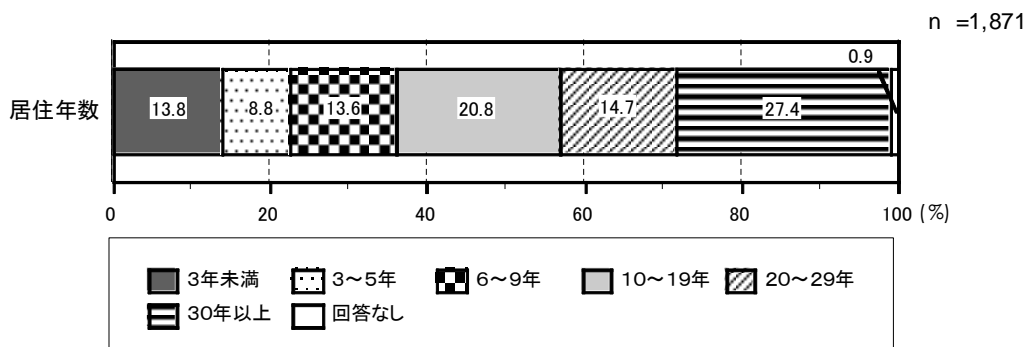
要点

居住年数「30年以上」が 27.4%と最も多いものの、居住年数が5年以下も 22.6%を占めており、人口増加が続いている本市の特徴を表わしています。

全体

- 居住年数「30年以上」が 27.4%と最も多く、次いで「10～19年」が 20.8%と続いています。
- 居住年数が20年以上が全体の 42.1%を占めているものの、居住年数が10年未満についても 36.2%を占めています。また、居住年数が5年以下も 22.6%を占めており、人口増加が続いている本市の特徴を表わしています(図 1-11)。

図 1-11 居住歴



第2章 幸せ感について

(1) 幸せ感の点数とその点数を選んだ理由 (問1)

問1 あなたは現在幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。あてはまる数字(点数)を選んでください。【〇は1つ】

① 幸せの点数

要点

幸せ感の点数は、「8点」が29.1%と最も多く、次いで「7点」(18.3%)、「10点」(13.7%)と続いており、全体平均の点数は、7.41点となっています。性別では、男性よりも女性の方が、年齢では、30歳代の点数がそれぞれ高くなっています。

全体

- 0点～10点の11段階で現在の幸せ感をたずねたところ、「8点」が29.1%と最も多く、次いで「7点」(18.3%)、「10点」(13.7%)と続いています(図2-1-1)。
- 全体平均は、7.41点です(図2-1-2)。
- 6点以上が全体の8割以上、7点以上が7割以上を占めており、本市における回答者の幸せ感が高い水準にあるといえます。
- 幸せ感が4点以下の回答は5.6%みられます。また、0点もわずかとはいえ0.6%みられます。(図2-1-1)。

性別

- 性別でみると、女性の方が男性よりも幸せ感の点数が若干高くなっていますが、全国的に見ても同様の傾向です(図2-1-2)。

図2-1-1 幸せ感の点数

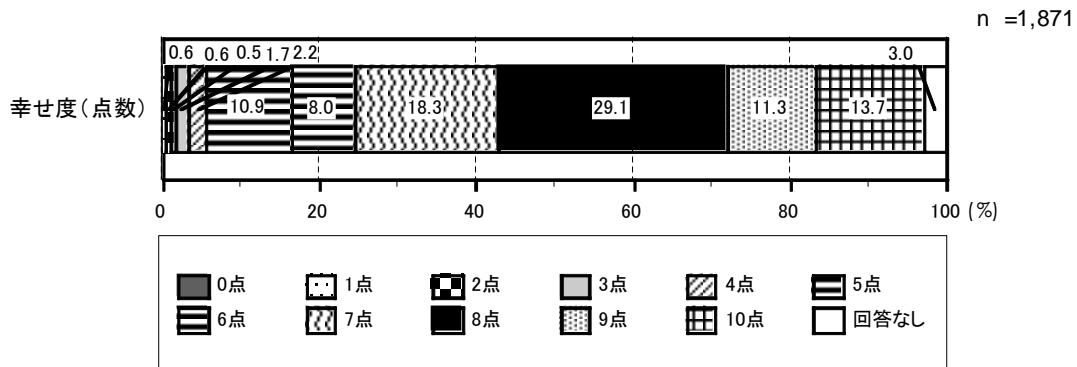
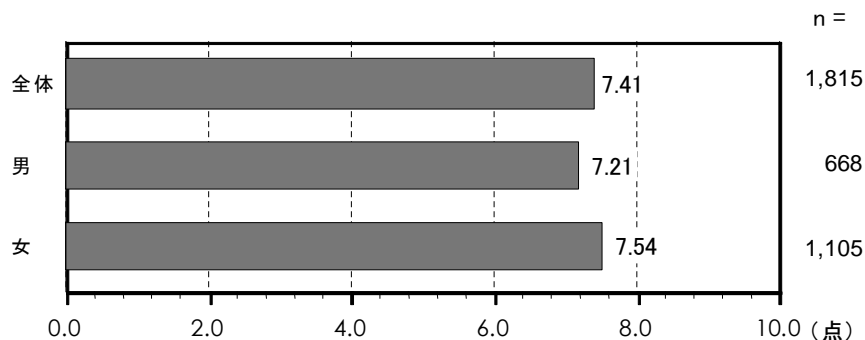


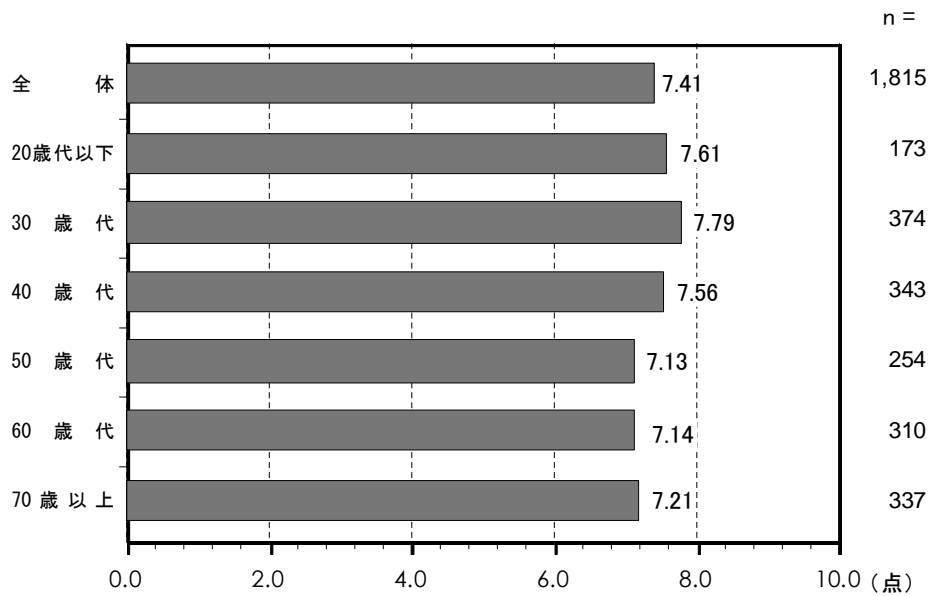
図2-1-2 性別 「幸せ感の点数」



年齢別

○年齢別でみると、30歳代の幸せ感が7.79点と、全体よりも0.38点上回っています。その一方で、50歳代以上の幸せ感の点数は、全体よりも若干低くなっています（図2-1-3）。

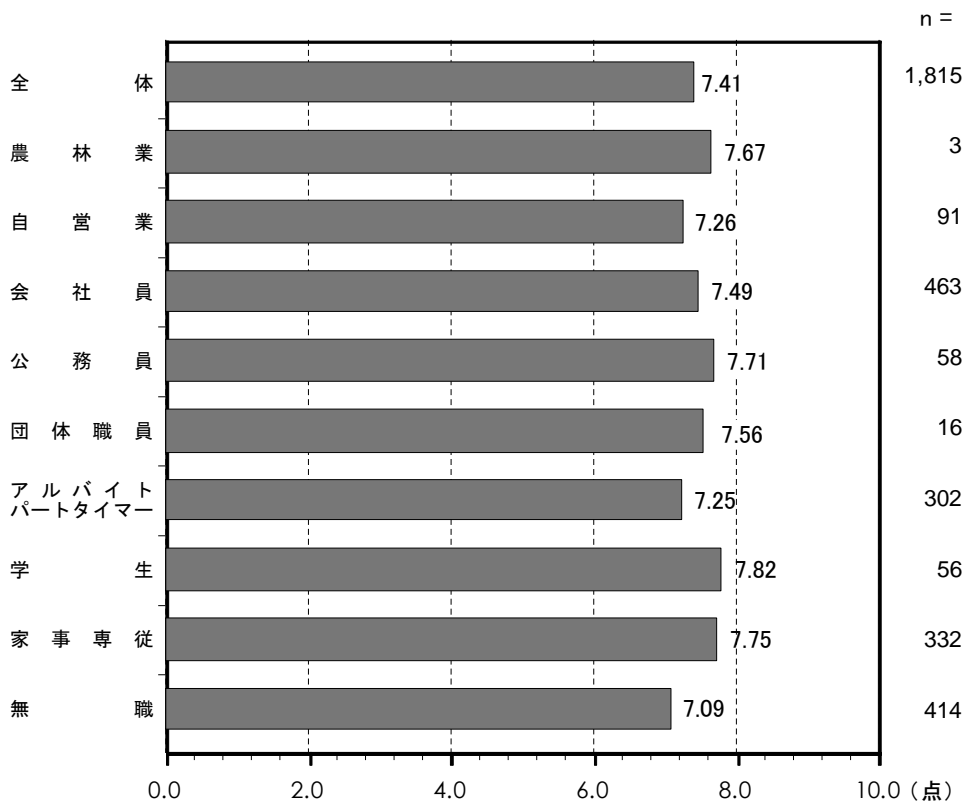
図2-1-3 年齢別「幸せ感の点数」



職業別

○職業別でみると、「学生」(7.82)をはじめ、「家事専従者」(7.75)や「公務員」(7.71)の幸せ感が全体値と比べて若干高くなっている一方で、「無職」(7.09)や「アルバイト・パートタイマー」(7.25)の幸せ感が若干低くなっています（図2-1-4）。

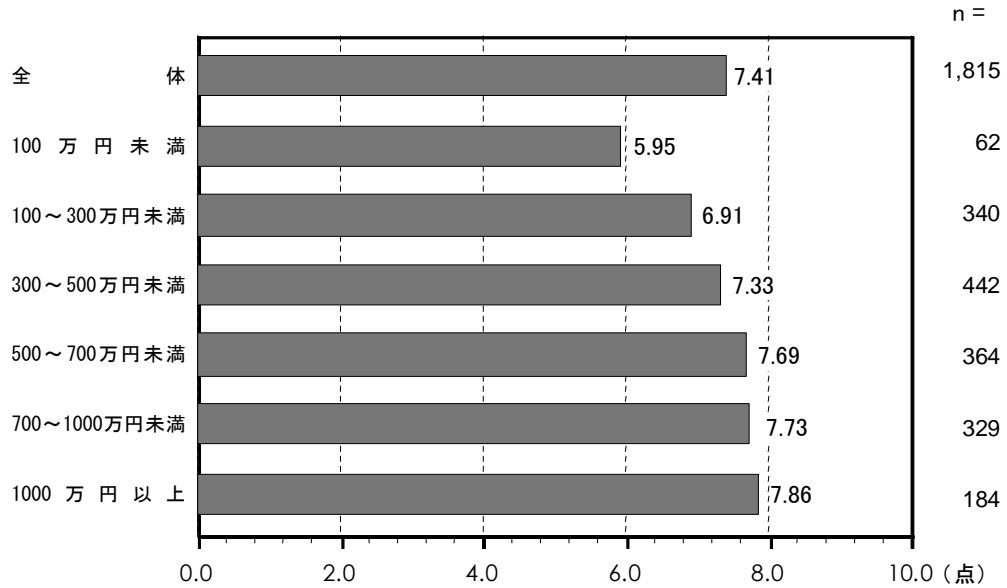
図2-1-4 職業別「幸せ感の点数」



収入別
家庭の

○家庭の年収別にみると、年収が高いほど、幸せ感の点数が順次高くなる傾向が顕著にみられます（図2-1-5）。

図2-1-5 家庭の収入別「幸せ感の点数」



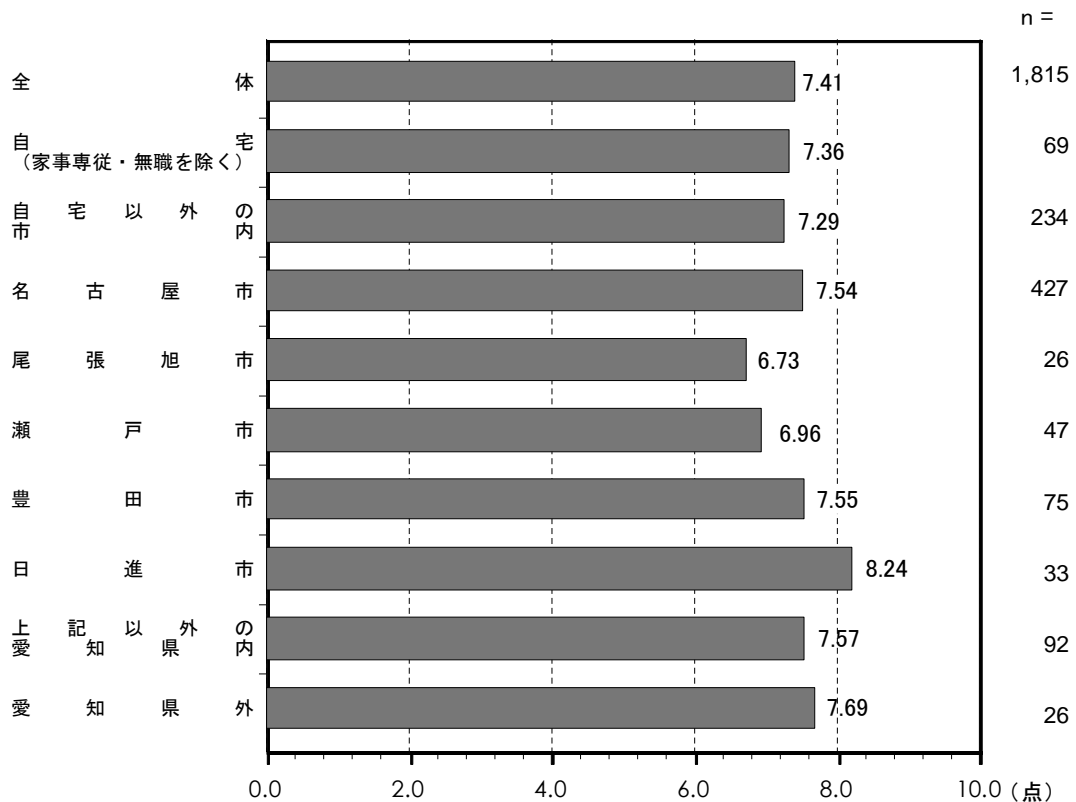
調査隊

○年収の高さは、幸せ感の点数に正比例しています。
○年収がおおむね500万円以上あれば幸せ感の点数の差は小さくなっています。

通勤・通学先別

○通勤・通学先別にみると、日進市に通勤・通学している回答者の幸せ感が高い一方で、尾張旭市や瀬戸市に通勤・通学している回答者の幸せ感が全体よりも低くなっていますが、いずれもサンプル数が少ないため、有意義な差があるとまではいえないと考えられます（図2-1-6）。

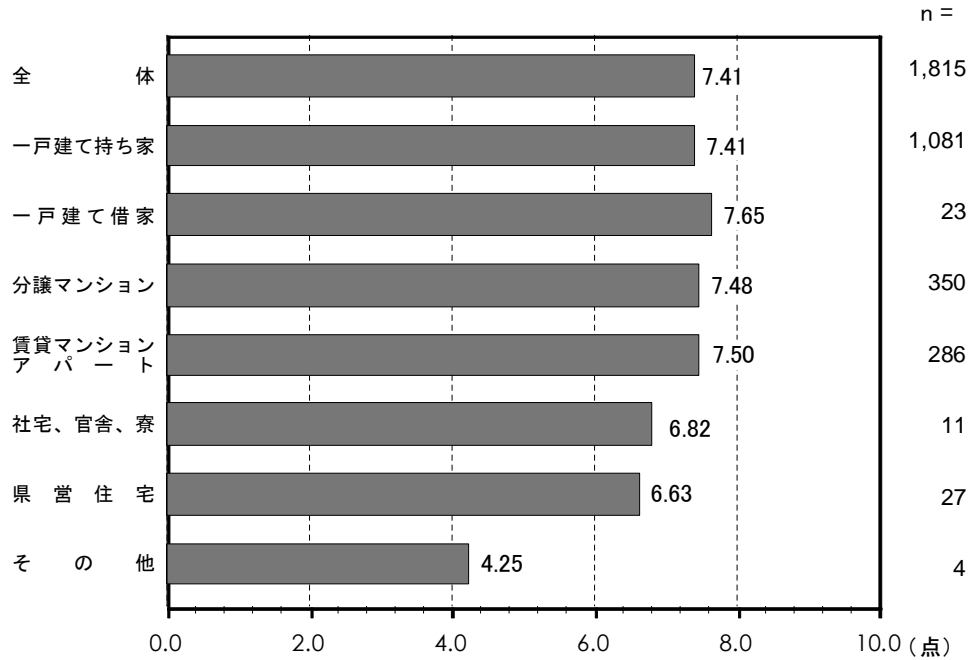
図2-1-6 通勤・通学先別「幸せ感の点数」



住まいのタイプ別

○住まいのタイプ別でみると、一戸建て借家に居住している回答者の幸せ感が若干高くなっている一方で、「県営住宅」や「社宅、官舎、寮」に居住している回答者の幸せ感が全体よりも低くなっていますが、いずれもサンプル数が少ないため、有意義な差があるとまではいえないと思われます（図2-1-7）。

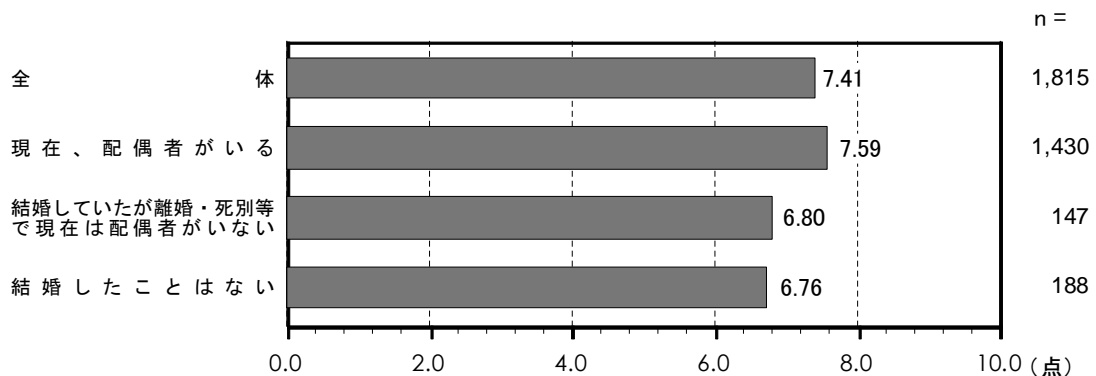
図2-1-7 住まいのタイプ別「幸せ感の点数」



配偶者の有無別

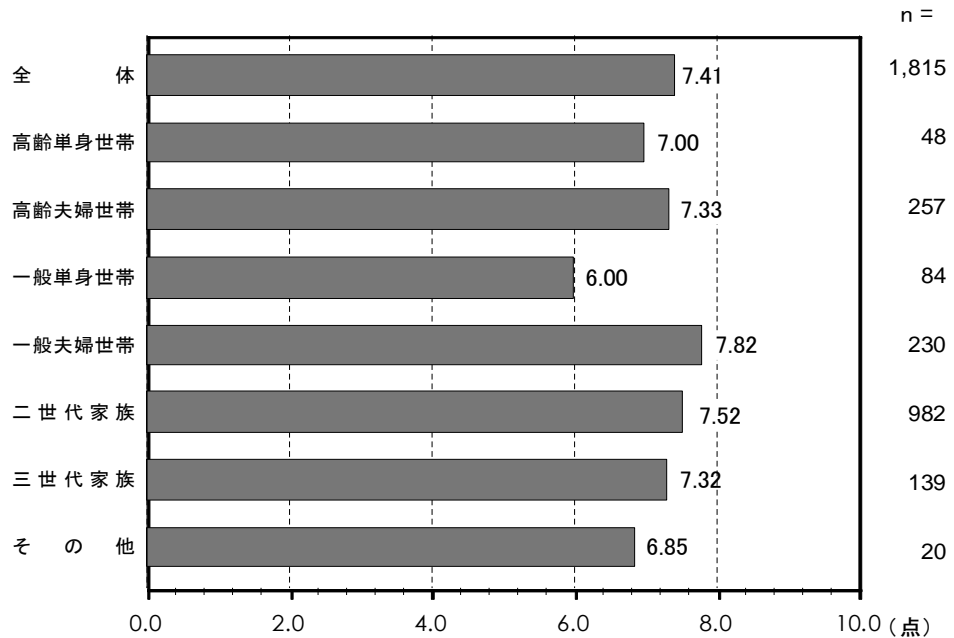
○配偶者の有無別でみると、「現在、配偶者がいる」回答者の幸せ感（7.59）は、全体より高くなっている。一方で、「結婚していたが離婚・死別等で現在は配偶者がいない」回答者の幸せ感（6.80）や「結婚したことはない」回答者の幸せ感（6.76）は、全体よりも低くなっており、配偶者の存在は幸せ感の重要な要素の一つであると考えられます（図2-1-8）。

図2-1-8 配偶者の有無別「幸せ感の点数」



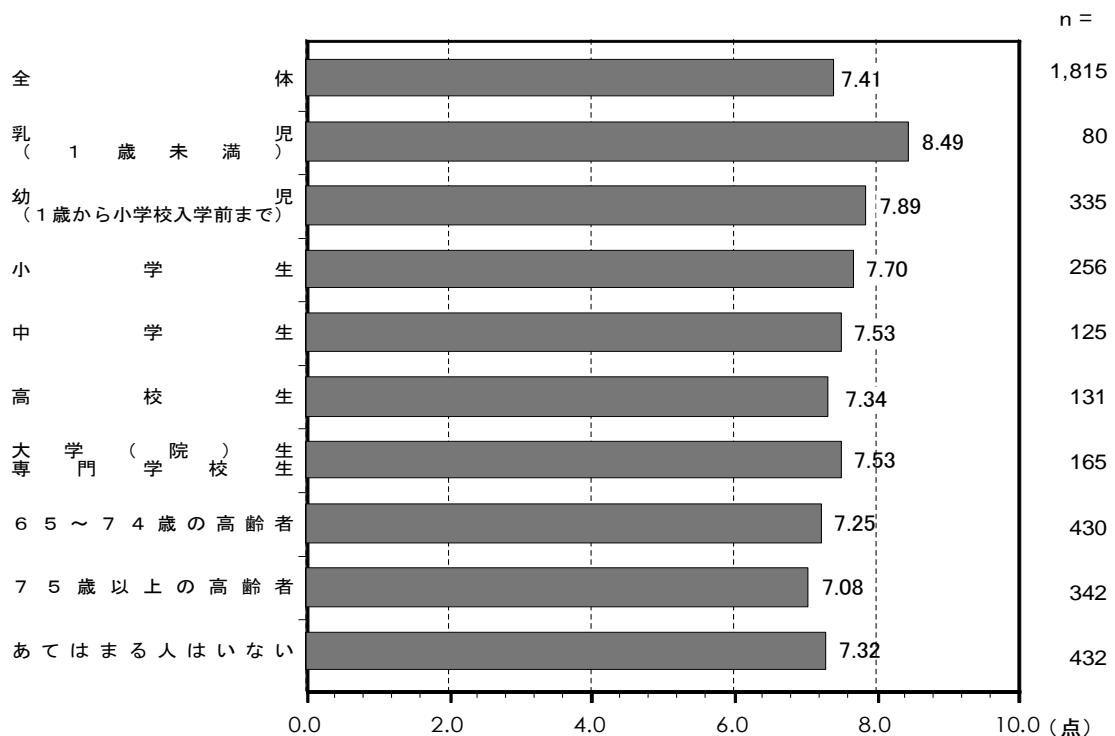
○家族の形態別でみると、「一般夫婦世帯」(7.82)、「二世世代家族」(7.52)の幸せ感は全体より高く、「一般単身世帯」(6.00)及び「高齢単身者」(7.00)の幸せ感は全体よりも低くなっています。
 ○家族の存在が幸せ感の重要な要素の一つであると考えられます(図2-1-9)。

図2-1-9 家族の形態別「幸せ感の点数」



○同居家族の有無別(子どもや学生、65歳以上の高齢者との同居の有無別)でみると、「乳児」(8.49)や「幼児」(7.89)、「小学生」(7.70)といった小さな子どもと同居している回答者は幸せ感が高くなっています。
 ○一方、「75歳以上の高齢者」(7.08)と同居している回答者は幸せ感が全体よりも低くなっています(図2-1-10)。

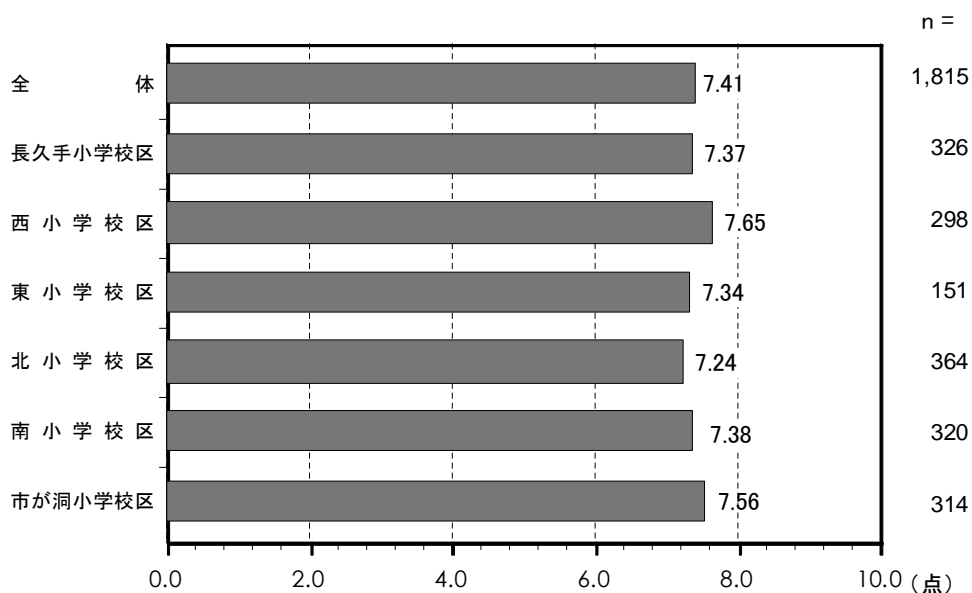
図2-1-10 同居家族別「幸せ感の点数」



○子育て世代である30歳代の幸せ感が高かったこと（図2-1-3）や図2-1-10の結果から、小さな子どもの存在が幸せ感の重要な要素の一つであると考えられます。

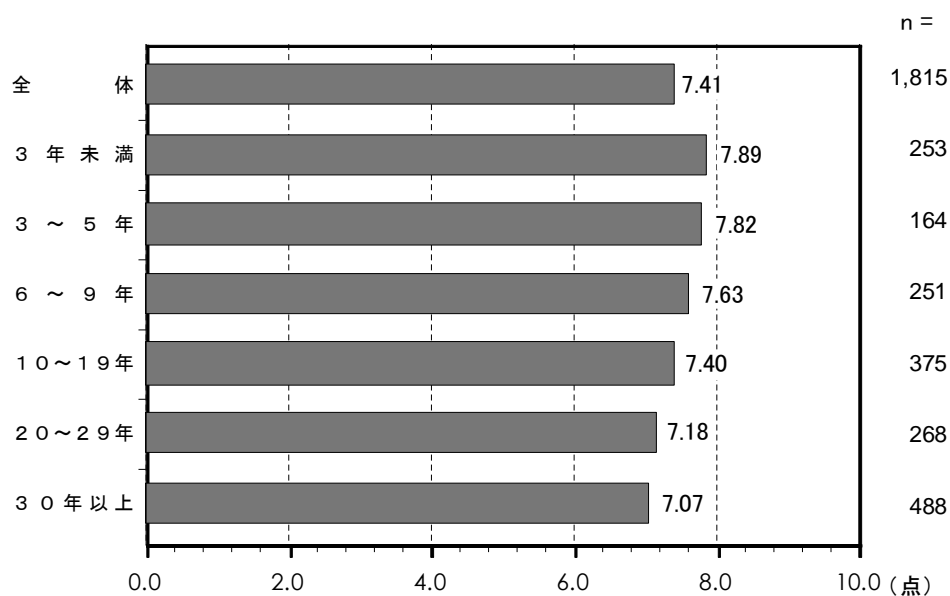
○小学校区別でみると、「西小学校区」（7.65）と「市が洞小学校区」（7.56）の幸せ感が全体より若干高くなっていますが、大きな差はみられません（図2-1-11）。

図2-1-11 小学校区別「幸せ感の点数」



○居住年数別でみると、居住年数が短いほど幸せ感の点数が順次高くなる傾向がみられます。居住年数10年を境に、それ以上になると全体よりも低くなっています（図2-1-12）。

図2-1-12 居住年数別「幸せ感の点数」



②幸せの点数を選んだ理由

要点

幸せ感の点数を選んだ理由は、「健康」にすることが38.4%と最も多く、次いで、「家族」にすることが(28.0%)、「住環境・生活インフラ、行政サービス」にすることが(18.8%)、「家計」にすることが(16.3%)と続いています。

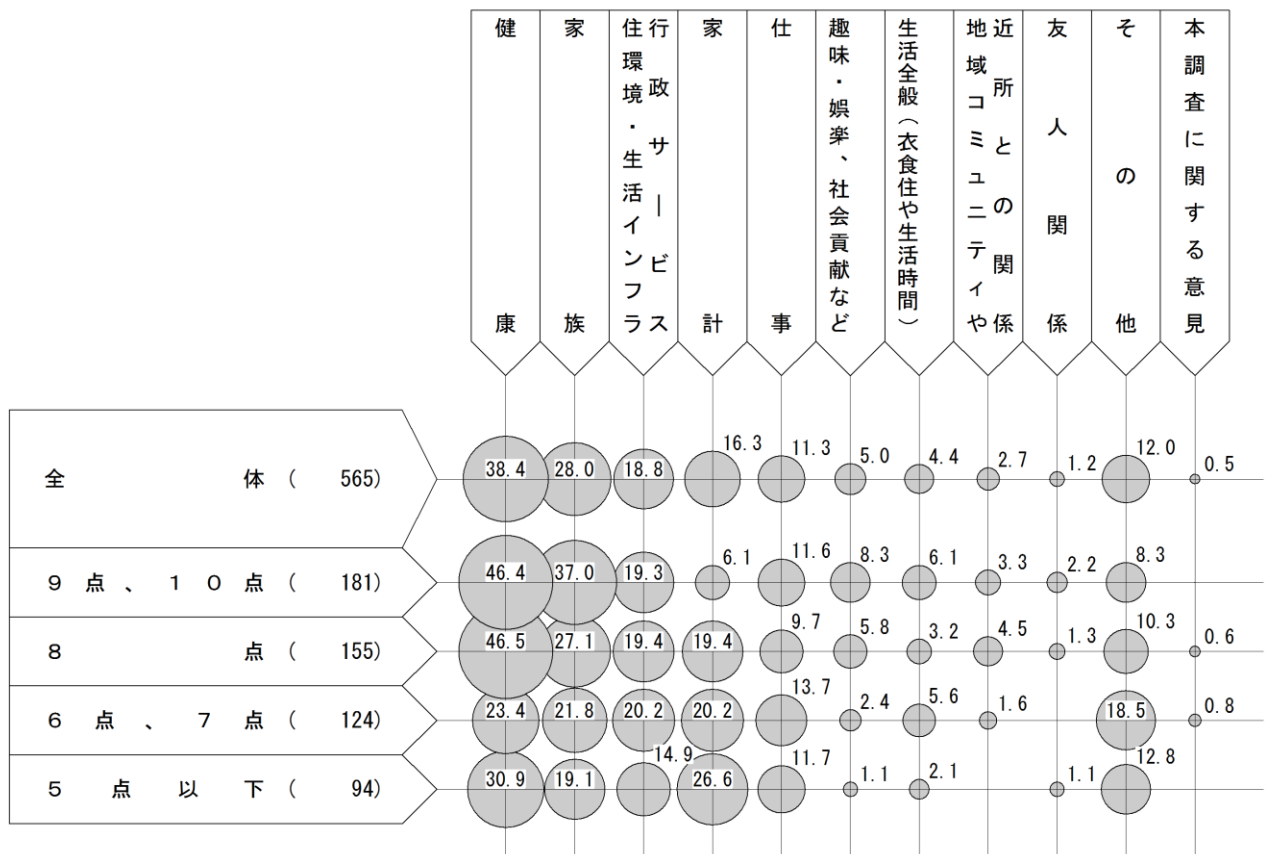
全体

- 幸せ感の点数を選んだ理由は、「健康」(38.4%)、「家族」(28.0%)が他の項目に比べて多くなっています。
- 一方、「友人関係」(1.2%)や「地域コミュニティや近所との関係」(2.7%)など、家族以外の人間関係を理由にした割合は少なくなっています。
- 幸せ感の点数を選んだ理由の大部分は、まちのことや行政サービスなど、市政によってある程度対応できるような領域にはおさまっていないことがうかがえます。

幸せ感の点数別

- 幸せ感の点数別でみると、幸せ感の点数が高い回答者ほど「家族」にすることがや「健康」にすることを理由としてあげている割合が多くなる傾向がみられます。また、割合は低いものの、「趣味・娯楽・社会貢献など」でも同様の傾向がみられます。
- 一方、「家計」にすることは、幸せ感の点数が低い回答者ほど理由としてあげる割合が多くなる傾向がみられます(図2-1-13)。

図2-1-13 幸せ感の点数別「幸せ感の点数を選んだ理由」



③現在の幸せ感の点数と各質問項目との相関

要点

「生活全般」や「家族関係」、「仕事や趣味、社会貢献などの生きがい」、「家計の状況」、「健康状況」、「自由な時間、充実した余暇」といった生活の満足度や「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか」が、幸せ感の点数とやや強い相関がみられます。

全体

- 幸せ感の点数と各質問項目との相関係数を算出することによって相関関係をみたところ、「かなり強い相関がある」という質問項目はありませんでしたが、「やや強い相関がある」や「弱い相関がある」という質問項目はかなり多くあります。
- 具体的には、「生活の満足度について」では、「生活全般」をはじめ、「家族関係」、「仕事や趣味、社会貢献などの生きがい」、「家計の状況」、「健康状況」、「自由な時間、充実した余暇」の6項目が、幸せ感の点数とやや強い相関関係がみられます。つまり、これらの項目の満足度が高いほど、幸せ感の点数が高くなる傾向があるといえます。
- また、「長久手の住み心地」（「住みよいまちだと思うか」、「愛着を感じているか」、「今後も住み続けたいか」と幸せ感の点数との間にも弱い相関がみられ、住み心地がよいと感じている回答者ほど幸せ感の点数が高くなる傾向が一定程度みられるといえます。
- 「生活実感」のうち、「①健康分野」については、いずれの質問項目においても相関がみられます。中でも「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか」とはやや強い相関がみられます。つまり、笑顔の日常生活ができていると感じている回答者ほど幸せ感が高い傾向があるといえます。
- 「④地域のつながり分野」についても、「近所づきあいや地域とのつながり」など、11項目中6項目が幸せ感の点数と弱いながらも相関がみられます。
- また、「③自然やごみなどの環境分野」では、「自然環境」と「公園や野外の遊び場」の2項目が、「⑤防災・防犯分野」では、「治安がよく、安心して暮らせるか」の1項目、「⑥福祉分野」では、「地域で困った人への助け合い」と「現在（あるいは将来の）、自分または家族の介護に対して不安がないこと」の2項目、「⑦文化・生涯学習分野」では、「お住まいの地域には、自慢したい地域の「宝」があるか」の1項目、「⑧生活インフラ分野」では、「買い物や通院に便利か」と「就業しやすい環境にあると思うか」の1項目が、それぞれ、幸せ感の点数と弱い相関がみられます。
- 一方、「②子育て・教育分野」と「まちづくりにおける地域の役割」については、幸せ感の点数とほとんど相関はみられません。

表 2-1-1 あなたの幸せ感の点数と各設問との相関分析 (※)

凡 例	
$ r = 0.7$ 以上～ 1 以下	かなり強い相関がある
$ r = 0.4$ 以上～ 0.7 未満	やや強い相関がある
$ r = 0.2$ 以上～ 0.4 未満	弱い相関がある
$ r = 0$ 以上～ 0.2 未満	ほとんど相関がない

生活の満足度について		
問3	(1) 家計の状況	0.4394
	(2) 就業状況	0.2018
	(3) 健康状況	0.4223
	(4) 自由な時間、充実した余暇	0.4164
	(5) 仕事や趣味、社会貢献などの生きがい	0.4473
	(6) 家族関係	0.5430
	(7) 友人関係	0.3919
	(8) 職場の人間関係	0.1140
	(9) 地域コミュニティや近所との関係	0.3146
	(10) 仕事と生活のバランス	0.1608
	(11) 生活全般	0.6491
長久手の住み心地について		
問4	住みよいまちだと思うか	0.3995
問5	愛着を感じているか	0.3152
問6	今後も住み続けたいか	0.2266
暮らしやお住まいの地域(生活実感)について		
①健康分野		
問8	(1) 健康的な暮らしができていると思うか	0.2027
	(2) 気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境があるか	0.2039
	(3) 健康的な食生活ができていると思うか	0.3197
	(4) ストレスを発散する場や機会、精神的なやすらぎの場はあるか	0.3943
	(5) 日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか	0.5917
	(6) 病院やクリニックが充実していると思うか	0.2296
②子育て・教育分野		
問9	(1) 安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか	0.1960
	(2) 地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思うか	0.1670
	(3) 子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか	0.1835
	(4) 子育てや子どもの教育などについて相談できる人、相談できる場所があるか	0.1828
	(5)-①家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか	0.1708
	(5)-②お住まいの地域の子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか	0.1807
③自然やごみなどの環境分野		
問10	(1) 豊かな自然環境があると思うか	0.1616
	(2) 公園や屋外の遊び場があるか	0.2635
	(3) まち並みはきれいだと思うか	0.2693
	(4) ごみ・資源の分別がされていると思うか	0.1441
	(5) 日頃から環境に配慮した生活をしているか	0.1331

④地域のつながり分野		
問 11	(1)-①スタッフとして	0.0913
	-②お客・来場者として	0.1179
	(2)-①あいさつ	0.2242
	-②近所づきあい	0.1479
	-③近所づきあいや地域とのつながり	0.2544
	(3) 自宅以外の居場所があるか	0.1894
	(4) 「たつせ」があるか	0.2030
	(5)-①お住まいの地域	0.2348
	-②市内	0.2081
	-③市外	0.2392
	(6) 国籍や文化の異なる人々にとっても住みやすいと思うか	0.1295
⑤防災・防犯分野		
問 12	(1) 災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか	0.0852
	(2) 災害に対する自主的な備えをしているか	0.1722
	(3) 災害時の避難所と避難方法を知っているか	0.0915
	(4) 治安が良く、安心して暮らせるか	0.2117
	(5) 安全安心を守る取組が行われているか	0.0969
⑥福祉分野		
問 13	(1) 地域で困った人への助け合いはできていると思うか	0.2174
	(2) 市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか	0.0067
	(3) 高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人など、まちで困っている人がいるとき、手助けをすることができると思うか	0.1595
	(4) 現在（あるいは将来の）、自分または家族の介護に対して不安を感じるか	0.2516
	(5)-①高齢者にとって暮らしやすい	0.0676
-②障がいのある人にとって暮らしやすい	0.0400	
⑦文化・生涯学習分野		
問 14	(1) 長久手の歴史や伝統文化に関心があるか	0.1027
	(2) 長久手市は芸術文化に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思うか	0.1733
	(3) 長久手市はあなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会に恵まれていると思うか	0.1575
	(4) お住まいの地域には、自慢したい地域の「宝」があるか	0.2057
⑧生活インフラ分野		
問 15	(1) 買い物や通院に便利か	0.2293
	(2) 出かける際の移動が便利か	0.1962
	(3) 出かける際の移動の安全が確保されていると思うか	0.1759
	(4) 就業しやすい環境にあると思うか	0.2446
	(5) インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか	0.1511
⑨まちづくりにおける地域の役割		
問 16	何か社会のために役立ちたいと思っているか	0.1360
問 17	課題解決のために地域のコミュニティが中心に進めていく事が重要になると思うか	0.1665
問 18	コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか	0.1014

※相関分析については、P. 214 を参照して下さい。

(2) 大事だと思う分野 (問2)

問2 次の8つの分野の中からあなたにとって「特に大事だと思う分野」を3つまで選んでその番号を回答欄に記入してください。なお、「特に大事だと思う分野はない」という場合には、左端の欄に「9」を記入してください。

要点

大事だと思う分野は、「健康」が74.7%と多くなっていますが、「文化・生涯学習」(7.5%)が少なくなっています。

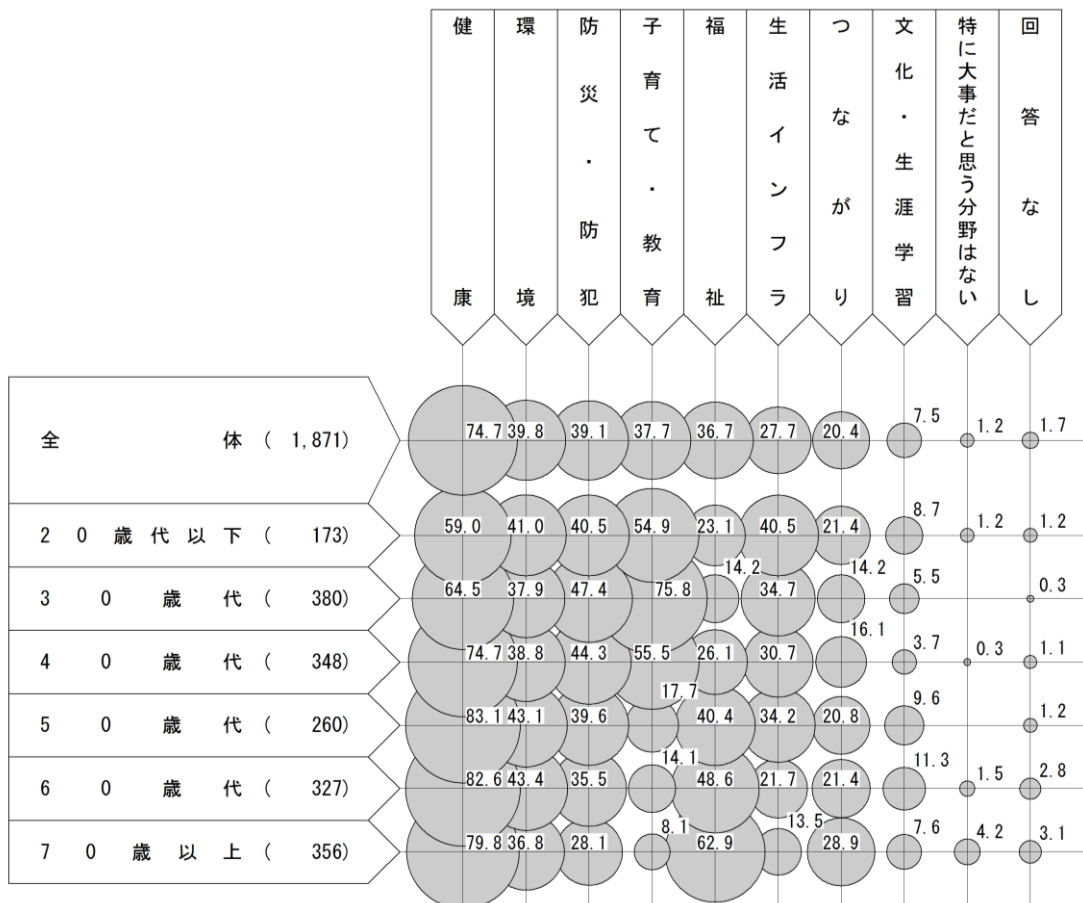
全体

- 大事だと思う分野は、「健康」が74.7%と多くなっています。
- 一方、「文化・生涯学習」(7.5%)が少なくなっています(図2-2-1)。

年齢別

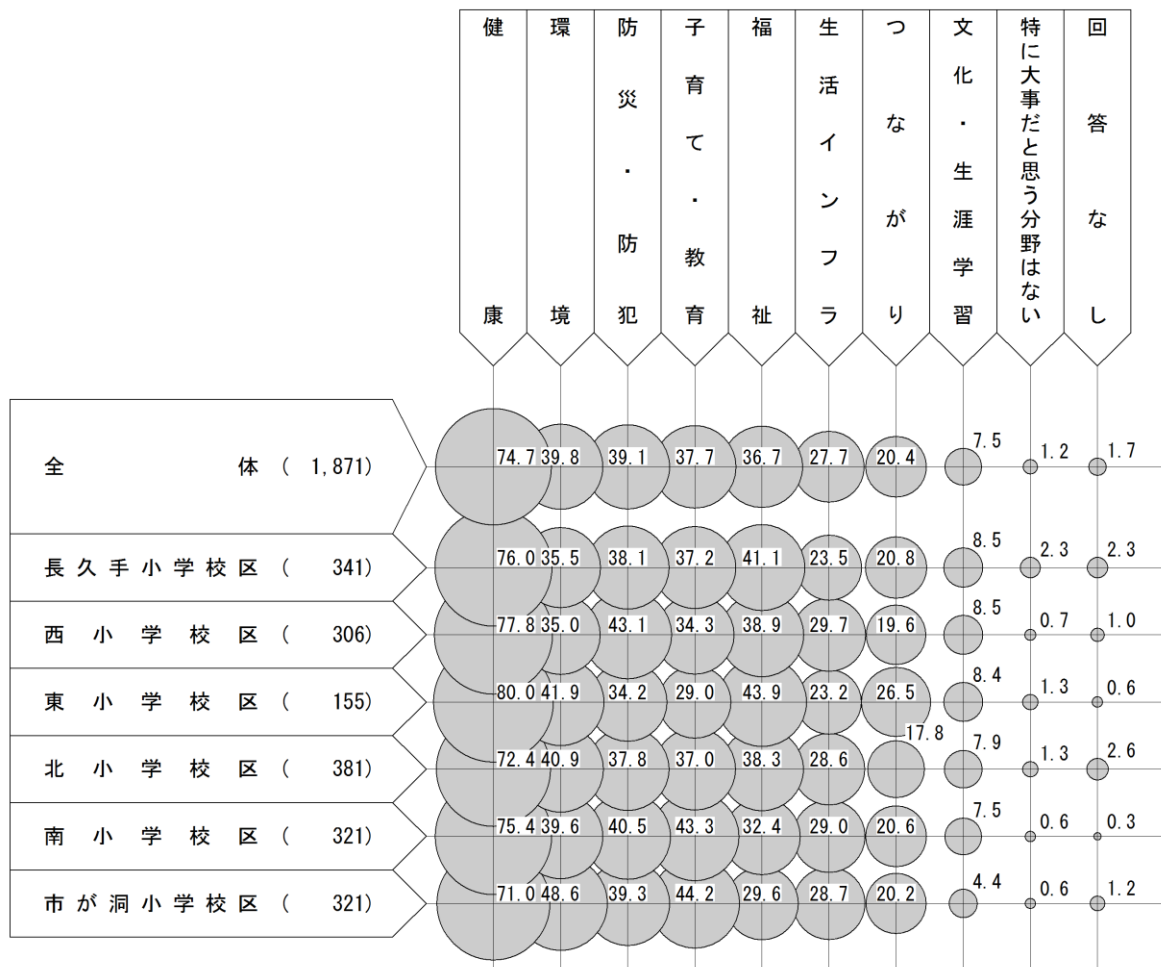
- 年齢別にみると、「健康」は40歳代以上の年齢層で若干多くなっている一方で、20歳代以下や30歳代といった若年層における割合が少なくなっています。
- 「福祉」や「つながり」についてもほぼ同様に、若年層では少なく、年齢が上がるほど割合が多くなる傾向がみられ、特に70歳代では62.9%となっています。
- 上記の2項目に対して、「子育て・教育」については、年齢が若い回答者ほど割合が多くなっています。特に30歳代(75.8%)をはじめ、40歳代(55.5%)や20歳代以下(54.9%)といったいわゆる子育て世代において割合が多くなっています。
- また、「防災・防犯」と「生活インフラ」についてもどちらかといえば、比較的若い回答者の方が大事だと思う割合が多くなっており、「防災・防犯」については、70歳代(28.1%)で他の年齢層に比べて少ないのに対して、30歳代や40歳代で若干多くなっています。「生活インフラ」については、20歳代以下で大事だと思う割合が多くなっています(図2-2-1)。

図2-2-1 年齢別「大事だと思う分野」



- 小学校区別でみると、「環境」については、新興住宅が多い市が洞小学校区（48.6%）で大事だと思う割合が若干多くなっています。
- 「子育て・教育」については、市が洞小学校区（44.2%）と南小学校区（43.3%）で若干多い一方で、東小学校区（29.0%）で全体と比べて若干少なくなっています。
- 「福祉」については、市内では高齢化率の高い東小学校区（43.9%）で全体と比べて多くなっている一方で、人口構成の若い市が洞小学校区では若干少なくなっています。
- 「つながり」については、東小学校区（26.5%）で若干多くなっていますが、他の小学校区は20%前後にとどまっています。（図2-2-2）。

図2-2-2 小学校区別「大事だと思う分野」



○「つながり」や「文化・生涯学習」の分野は、心の豊かさを保つ大事な要素だと思うが、実際はそう思う人の割合が少ない状況であるのは意外でした。

(3) 生活の満足度 (問3)

問3 あなたは、次の (1) から (11) までの項目についてどの程度満足していますか。(1) から (11) までの項目それぞれについて、1～5の中から1つずつ選んでください。

※(2)、(8)、(10)については、あなたの就業状況や就業形態によって回答が難しい場合は、「6. 該当しない」に○をつけてください。

要点

いずれの項目においても評点が3.00以上あり、特に「家族関係」(3.87)や「友人関係」(3.83)、「健康状況」(3.66)の満足度が高い一方で、「地域コミュニティや近所との関係」(3.24)や「家計の状況」(3.34)、「仕事と生活とのバランス」(3.35)などの満足度はこれらの項目に比べて低くなっています。

※()内の数字は、前述(P.3)の算出方法による評点(平均点)です。評点が3.00は「どちらともいえない」という状態を示すものです。

全体

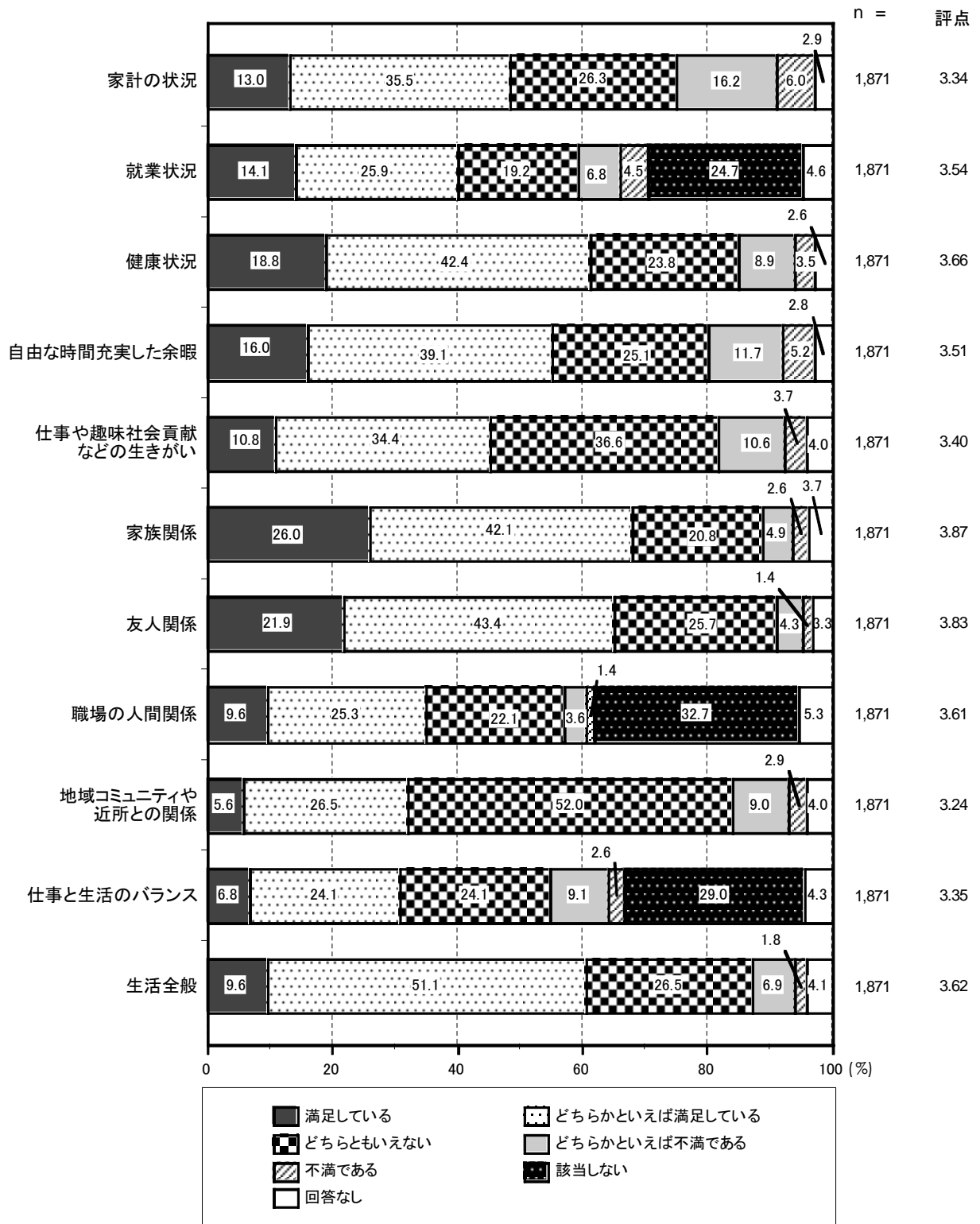
○11項目にわたる生活の満足度についてたずねたところ、最後の項目の「生活全般」については、「満足している」が9.6%、「どちらかといえば満足している」が51.1%となっており、これらを合わせた満足と感じている回答者の割合(以下“満足という評価”)は60.7%を占めています。

○一方、「どちらかといえば不満である」が6.9%、「不満である」が1.8%となっており、これらを合わせた不満と感じている回答者の割合は8.7%にとどまっており、その結果、“満足という評価”をした回答者と“不満という評価”とした回答者が同数である場合の評点である3.00を大きく上回る3.62になっています。

○各項目の満足度をみると、“満足という評価”の割合が最も多いのは「家族関係」(68.1%、3.87)で、次いで、「友人関係」(65.3%、3.83)、「健康状況」(61.2%、3.66)と続いています。

○評点については、いずれの項目についても3.00を超えているものの、「地域コミュニティや近所との関係」(3.24)をはじめ、「家計の状況」(3.34)や「仕事と生活とのバランス」(3.35)、「仕事や趣味、社会貢献などの生きがい」(3.40)の満足度については、「家族関係」や「友人関係」などと比べると低くなっています(図2-3-1)。

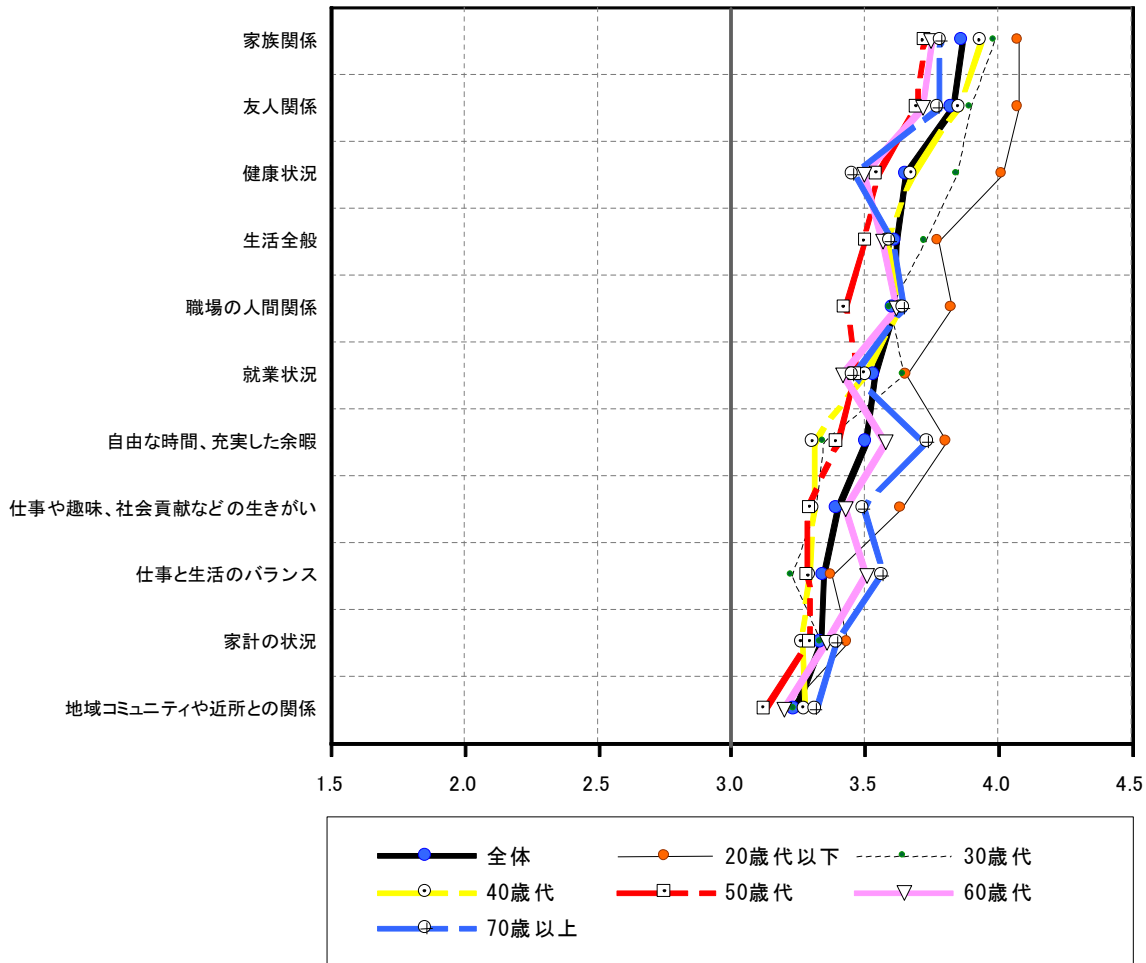
図 2-3-1 生活の満足度



年齢別

- 年齢別にみると、「地域コミュニティや近所との関係」と「仕事と生活とのバランス」を除く残りの9項目については、いずれも20歳代以下における満足度が最も高くなっていることが特徴としてみられます。
- 一方、「職場の人間関係」をはじめ、「生活全般」や「家族関係」などの6項目については、いずれも50歳代における満足度が最も低くなっています。
- 「健康状況」については、年齢が若い回答者ほど満足度が高くなる傾向がみられます（図2-3-2）。

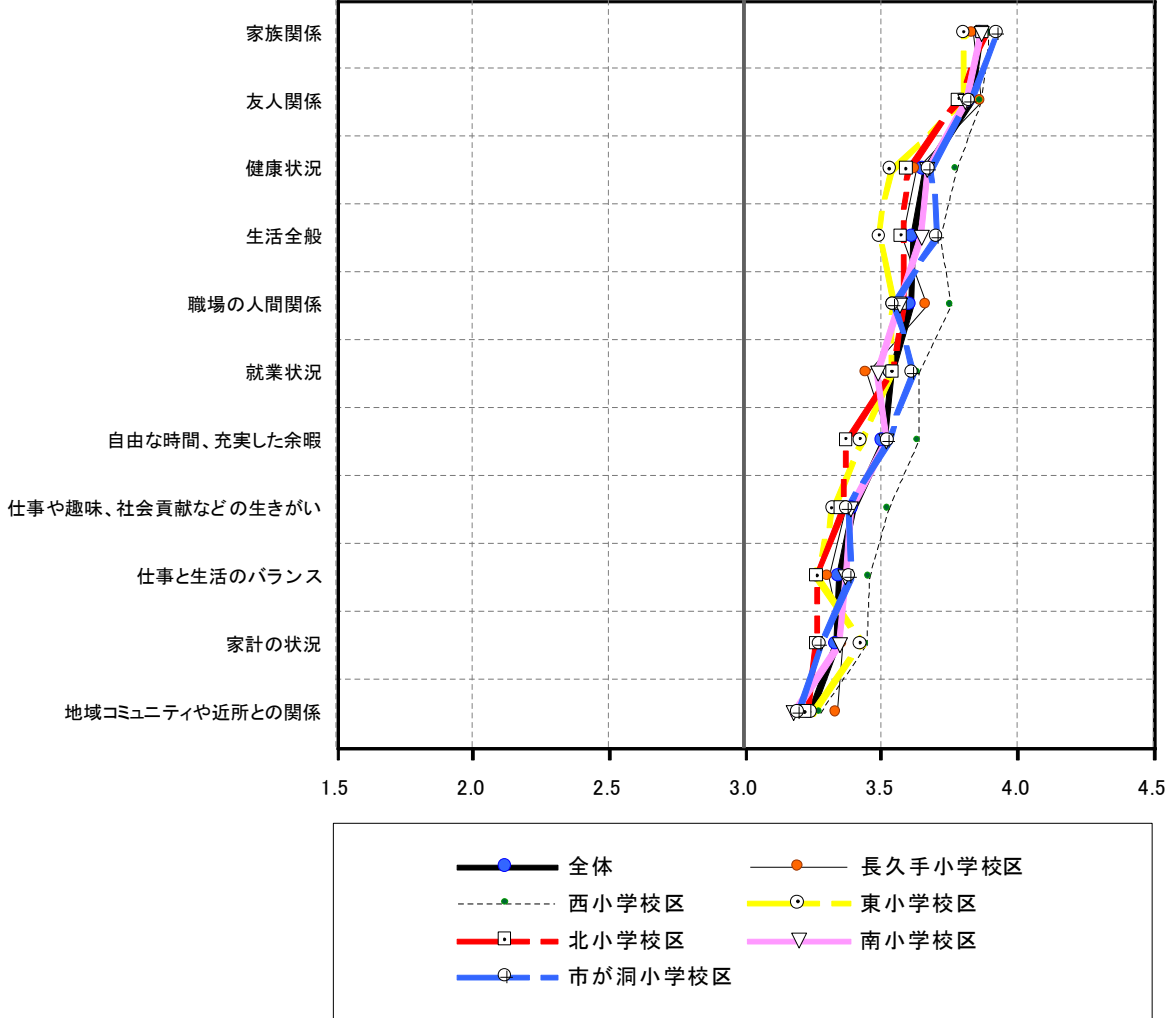
図2-3-2 年齢別「生活の満足度（評点）」



小学校区別

○小学校区別にみると、11項目中、「家族関係」と「地域コミュニティや近所との関係」の2項目を除く9項目が、西小学校区における満足度が最も高くなっていますが、全体的に大きな差はみられません（図2-3-3）。

図2-3-3 小学校区別「生活の満足度（評点）」



第3章 住み心地について

(1) 住みよいまちだと思うか (問4)

問4 長久手を住みよいまちだと思えますか。次の中から選んでください。【〇は1つ】

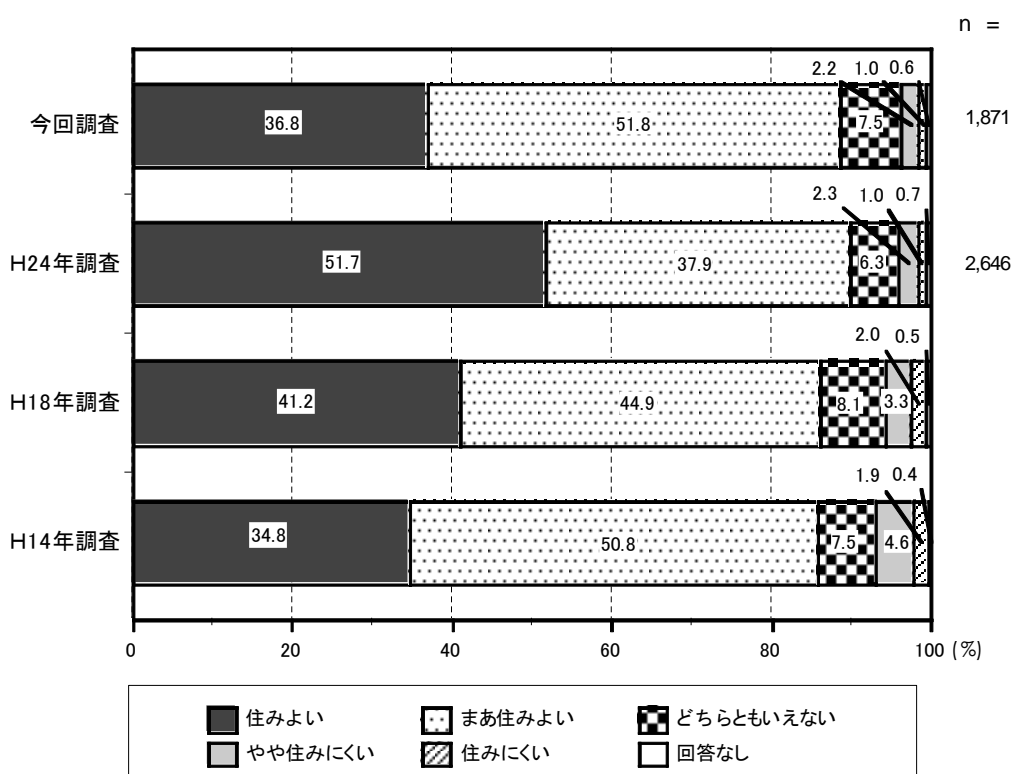
要点

長久手市に対して住みやすさを感じている回答者は9割近くを占めています。

全体

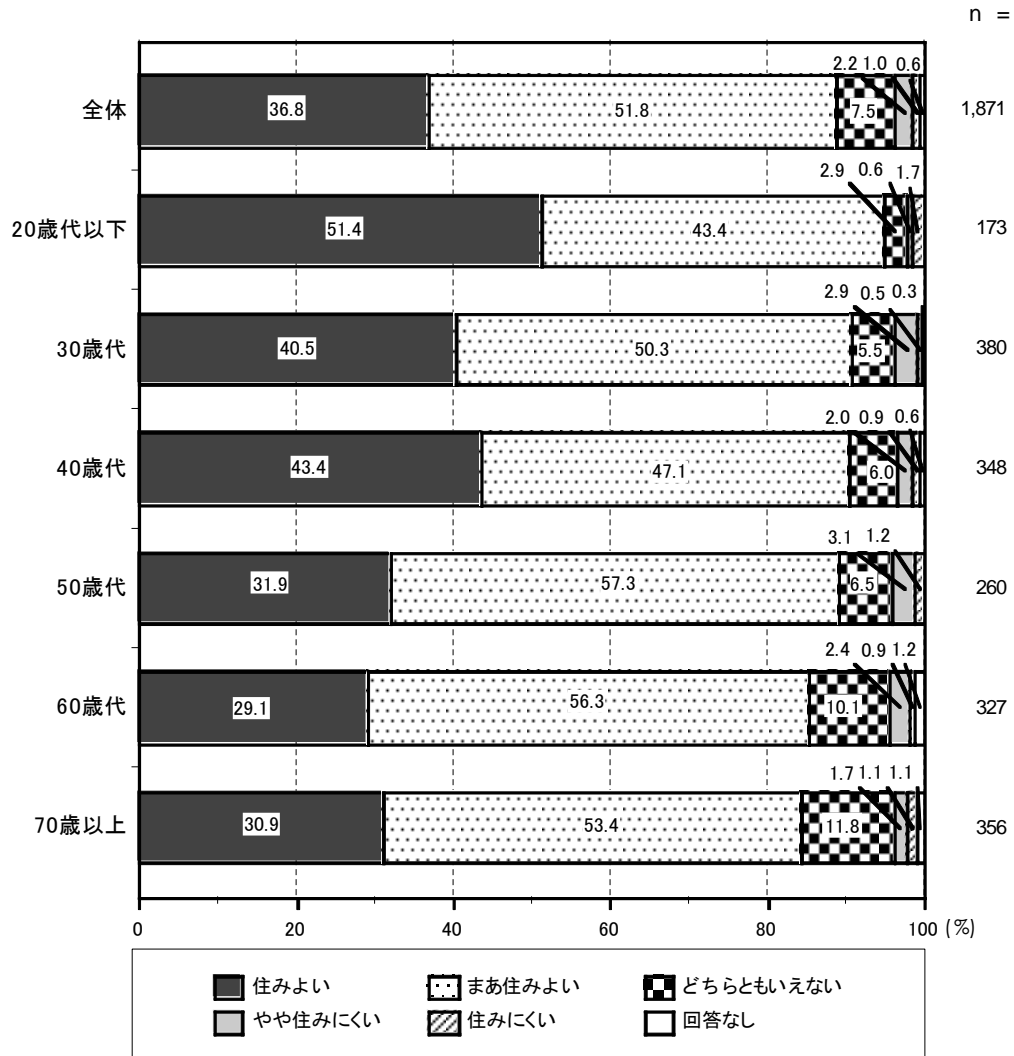
- 住みやすさについてたずねたところ、「住みよい」が36.8%、「まあ住みよい」が51.8%となっており、これらを合わせると、長久手市に対して住みやすさを感じている回答者は88.6%となります。
- 「やや住みにくい」(2.2%)と「住みにくい」(1.0%)については、合わせても3.2%となっています。
- 過去に実施した市民意識調査結果と比較すると、H24年調査より「住みよい」と回答した割合は14.9ポイント少なくなっていますが、「住みよい」「まあ住みよい」と合わせた割合は、いずれの調査と比較しても大きな変化はありません。(図3-1-1)。

図3-1-1 住みよいまちだと思うか (前回比較)



○年齢別にみると、「住みよい」は、20歳代以下（51.4%）で多くなっており、40歳代、30歳代でも若干多くなっています。一方、60歳代や70歳以上の高齢者層で若干少なくなっています。このように、どちらかといえば、高齢者層に比べて若い世代の方が住みやすさを感じている傾向があります（図3-1-2）。

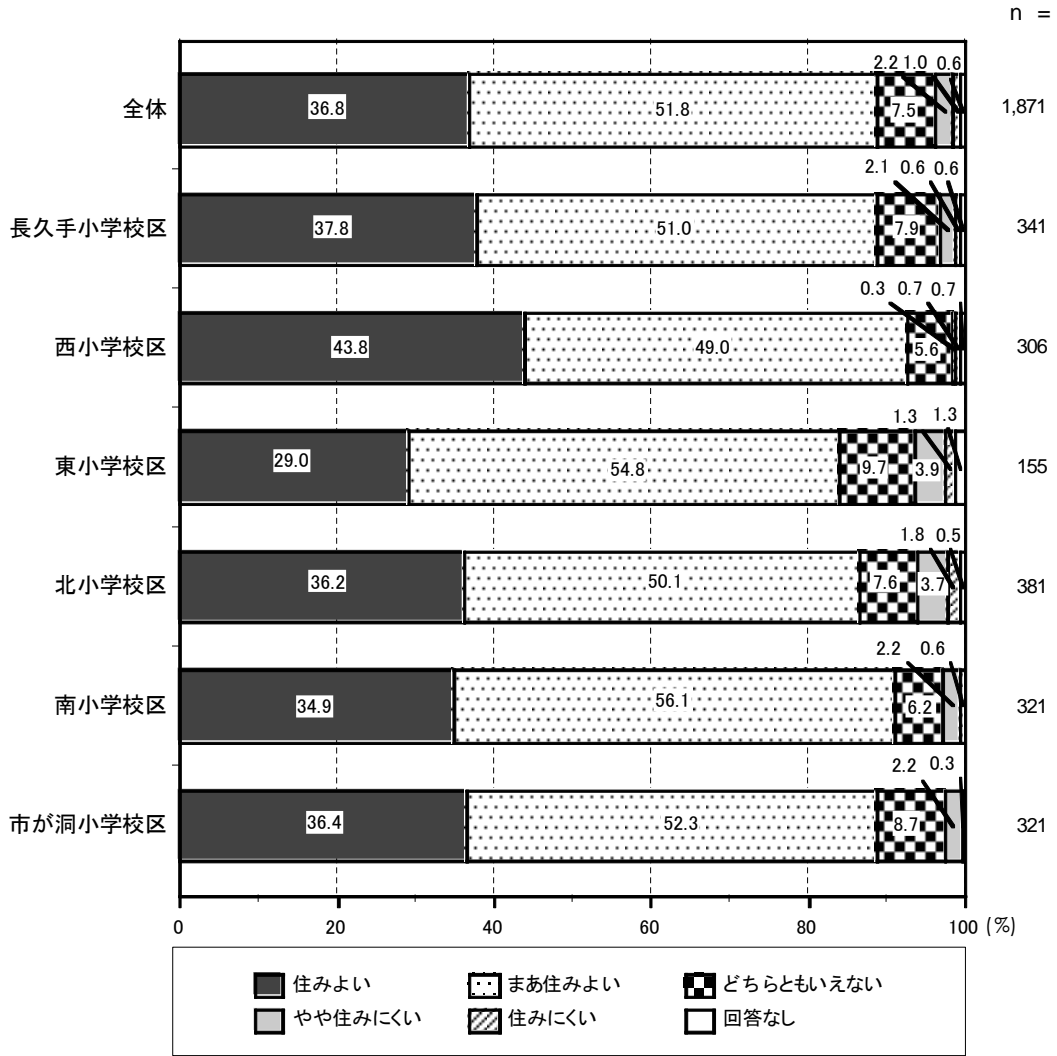
図3-1-2 年齢別「住みよいまちだと思うか」



小学校区別

○小学校区別にみると、住みやすさを感じている回答者は、すべての小学校区で8割を超えています
 が、東小学校区では、「住みよい」の割合が29.0%と全体に比べて若干少なくなっています。一方、
 西小学校区（43.8%）では、全体に比べて若干多くなっています（図3-1-3）。

図3-1-3 小学校区別「住みよいまちだと思うか」



(2) 愛着を感じているか (問5)

問5 長久手に愛着を感じていますか。次の中から選んでください。【〇は1つ】

要点

8割近くの回答者が長久手市に愛着を感じています。

全体

○愛着の程度についてたずねたところ、「愛着を感じている」が33.0%、「まあ愛着を感じている」が46.8%となっており、これらを合わせると79.8%になります。

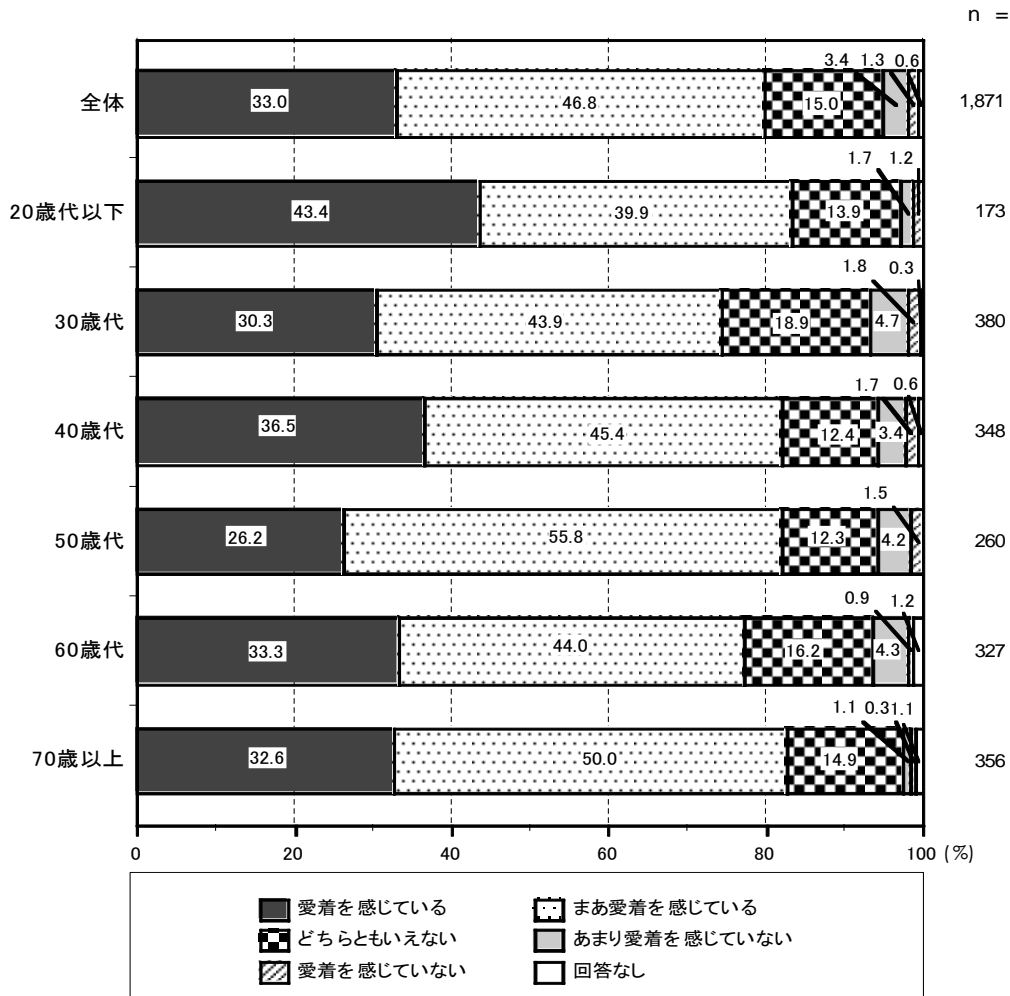
○「あまり愛着を感じていない」(3.4%)と「愛着を感じていない」(1.3%)については、合わせても4.7%と、「愛着を感じている」、「まあ愛着を感じている」回答者の割合と比べると極めて少ない結果になっています(図3-2-1)。

年齢別

○年齢別にみると、「愛着を感じている」は、20歳代以下(43.4%)で全体(33.0%)と比べて10ポイント以上多くなっている一方で、50歳代(26.2%)では全体に比べて若干少なくなっています。

○また、30歳代では、「愛着を感じている」(30.3%)と「まあ愛着を感じている」(43.9%)を合わせた割合が74.2%と、全体に比べて若干少なくなっています(図3-2-1)。

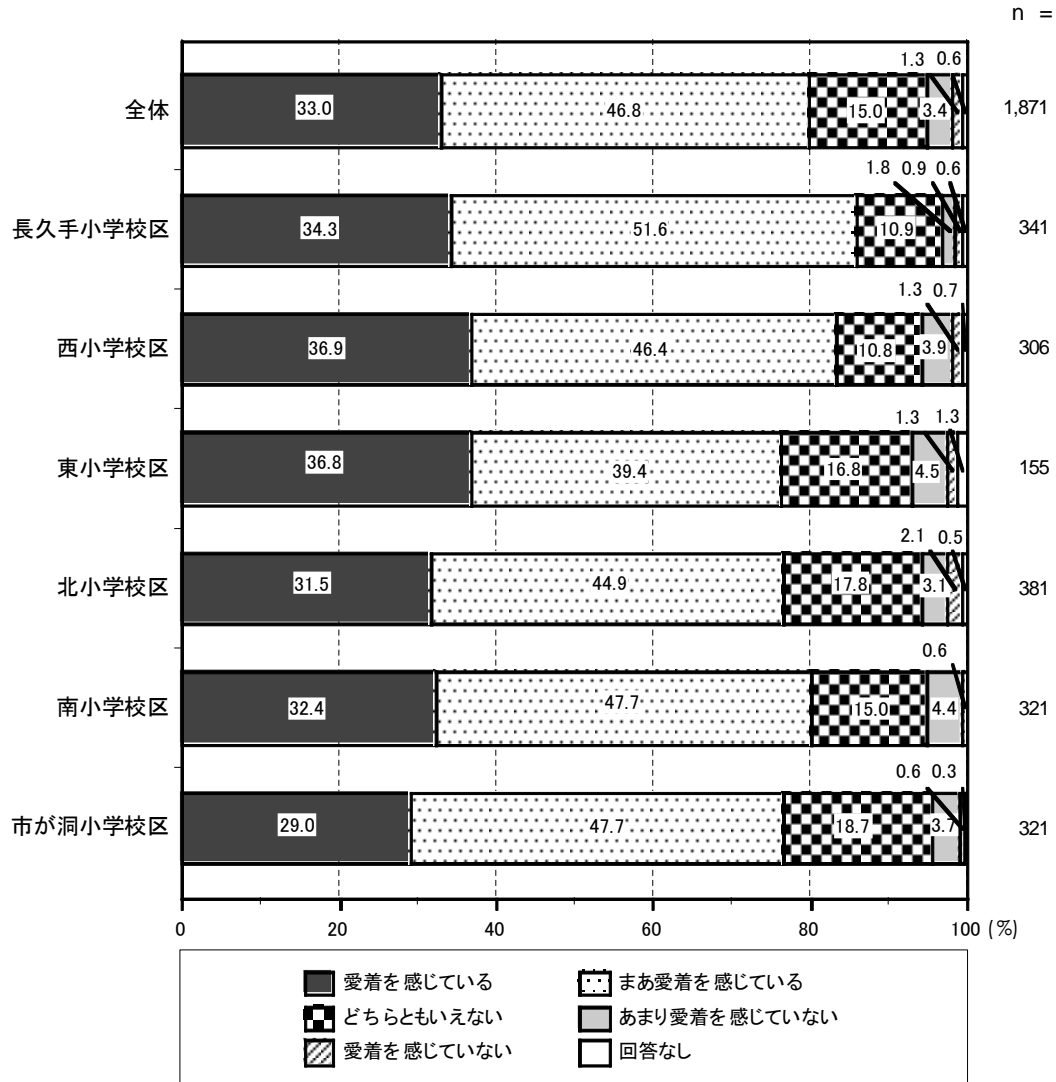
図3-2-1 年齢別「愛着を感じているか」



小学校区別

○小学校区別にみると、長久手小学校区で、「愛着を感じている」(34.3%)と「まあ愛着を感じている」(51.6%)を合わせた割合が85.9%と、全体に比べて若干多くなっていますが、全般的にみて小学校区による大きな差はみられません(図3-2-2)。

図3-2-2 小学校区別「愛着を感じているか」



(3) 今後も住み続けたいか (問6)

問6 今後も長久手に住み続けたいですか。次の中から選んでください。【〇は1つ】

要点

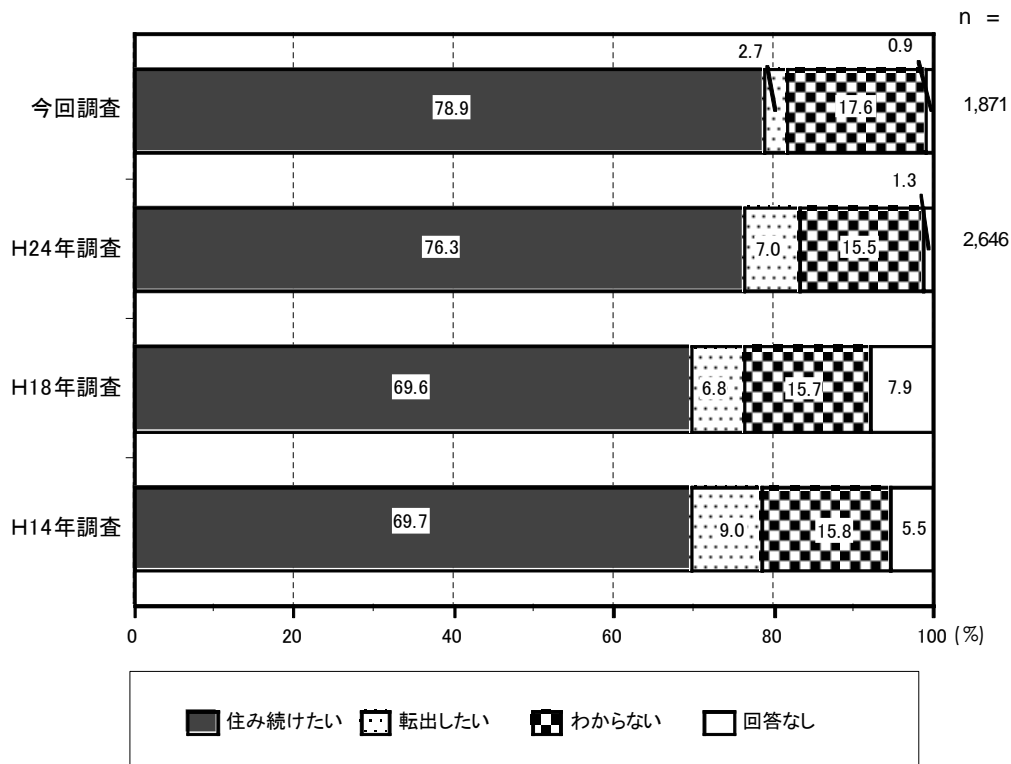
8割近くの回答者が長久手市における定住意向を示しており、これまで実施した調査の中で最も多くなっています。

全体

○今後の定住意向について尋ねたところ、「住み続けたい」が78.9%を占めるのに比べて、「転出したい」は2.7%と極めて少ない結果になっています。

○過去に実施した調査結果と比較すると、「住み続けたい」と回答した割合は、これまでの調査の中で最も多く、「転出したい」と回答した割合は、これまでの調査の中で最も少なくなっています(図3-3-1)。

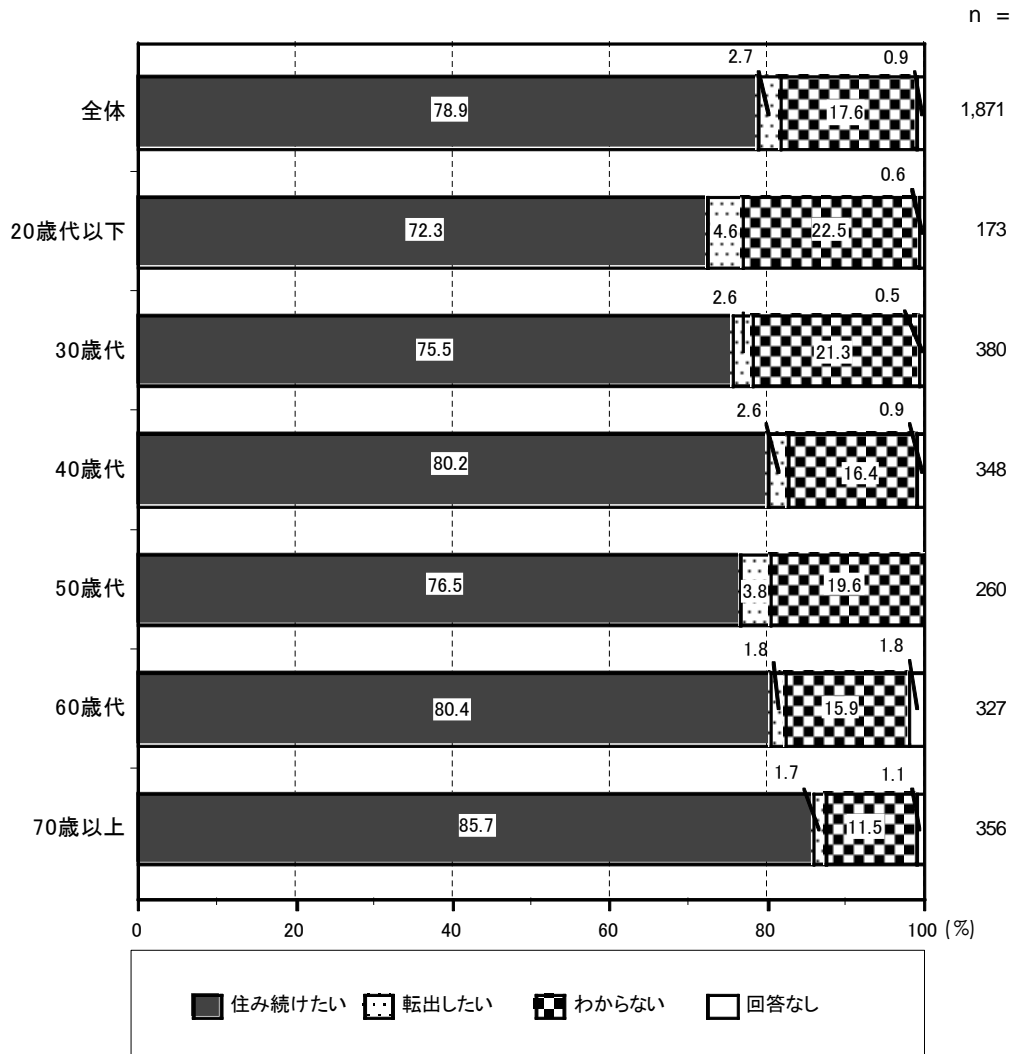
図3-3-1 今後も住み続けたいか (前回比較)



年齢別

○年齢別にみると、「住み続けたい」と回答した割合は、20歳代以下で72.3%と全体に比べて若干少ない一方で、70歳代以上（85.7%）で若干多くなっています。
 ○また、どちらかといえば年齢が高いほど概ね定住意向が高まっていく傾向がみられます（図3-3-2）。

図3-3-2 年齢別「今後も住み続けたいか」

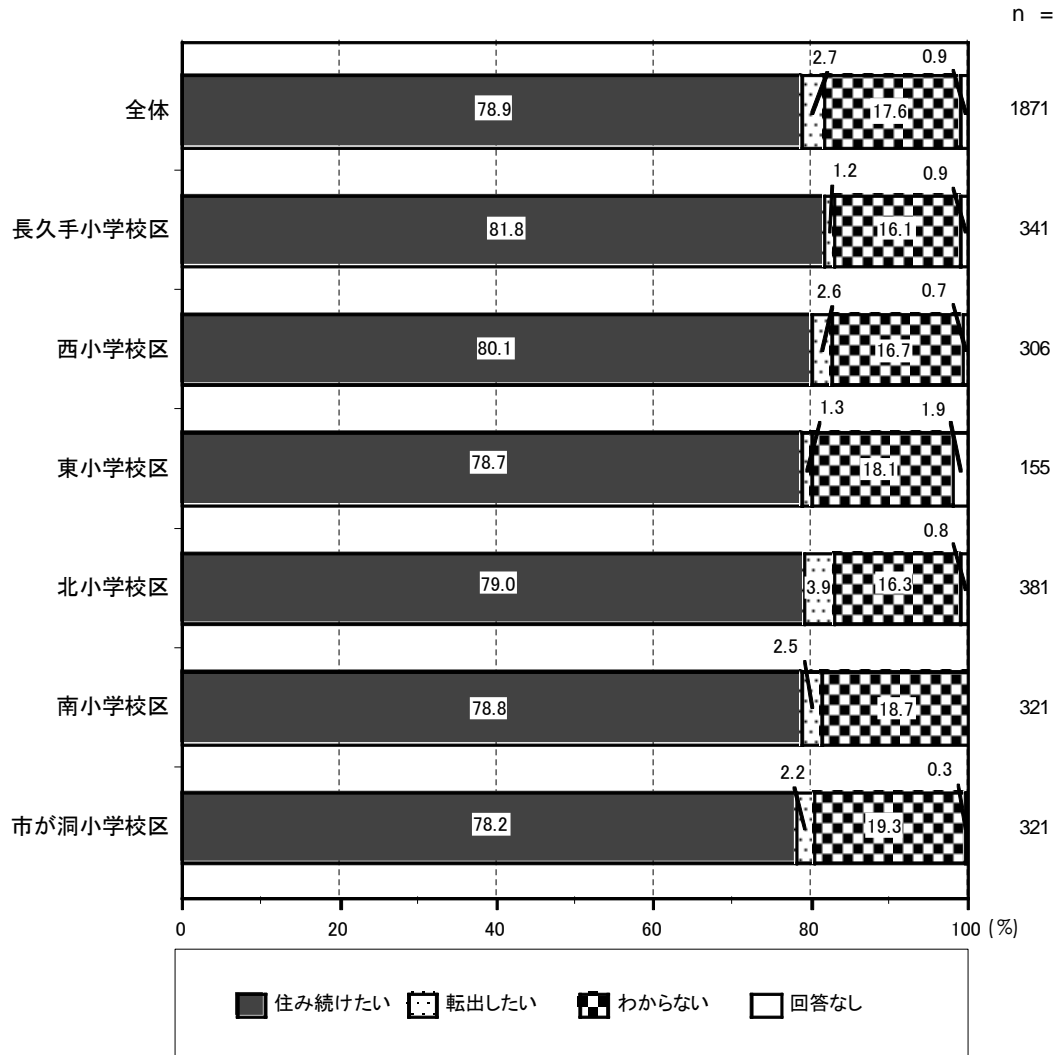


調査隊

○定住意向は、若い世代に比べて高齢者層が高くなっている。一方で、住みよさは、高齢者層に比べて若い世代が高くなっている（図3-1-2、図3-3-2）。

○小学校区の違いによる定住意向の差はほとんどみられません（図3-3-3）。

図3-3-3 小学校区別「今後も住み続けたいか」



(4) 魅力的な点・魅力的でない点 (問7)

問7 長久手には「魅力的な点」や「魅力的でない点」がありますか。【○はそれぞれ1つ】
また、それはどんなことですか。「1. ある」を選んだ方は、それぞれ3つまで記入してください。

要点

長久手の魅力的な点や魅力的でない点について、過半数の回答者が魅力的な点とそうでない点の両面を持ち合わせたまちであると回答していますが、魅力的な点が「ある」という回答の方が魅力的でない点が「ある」という回答を上回っています。

全体

- 「魅力的な点」と「魅力的でない点」について、それぞれその有無をたずねたところ、魅力的な点が「ある」という回答 (75.8%) と魅力的でない点が「ある」という回答 (52.3%) は共に過半数を占めており、長久手市は、魅力的な点とそうでない点の両面を持ち合わせたまちであることを示す結果になっています。
- しかしながら、魅力的な点が「ある」という回答は、魅力的でない点が「ある」という回答を23.5ポイント上回っていることから、魅力的な点が多いまちとして捉えられています (図3-4-1)。
- 「交通や買物等の利便性の高さ」といった生活インフラ分野や、「自然や緑が豊か」や「公園が多い」、「街並み景観がきれい」といった環境分野、「街と田舎・自然との共存やバランスの良さ」などが、長久手の主要な魅力的な点となっています (表3-4-1)。
- 生活インフラ分野は、長久手の主要な魅力的な点となっている一方で、「交通の便が悪い」や「Nーバスやリニモなどの公共交通機関が不便」、「渋滞が多い」など、魅力的でない点としても数多くあげられています。また、「空き巣や車上荒らしの増加など治安がよくない」についても比較的多くの回答者から魅力的でない点として指摘されています (表3-4-2)。

図3-4-1 魅力的な点・魅力的でない点

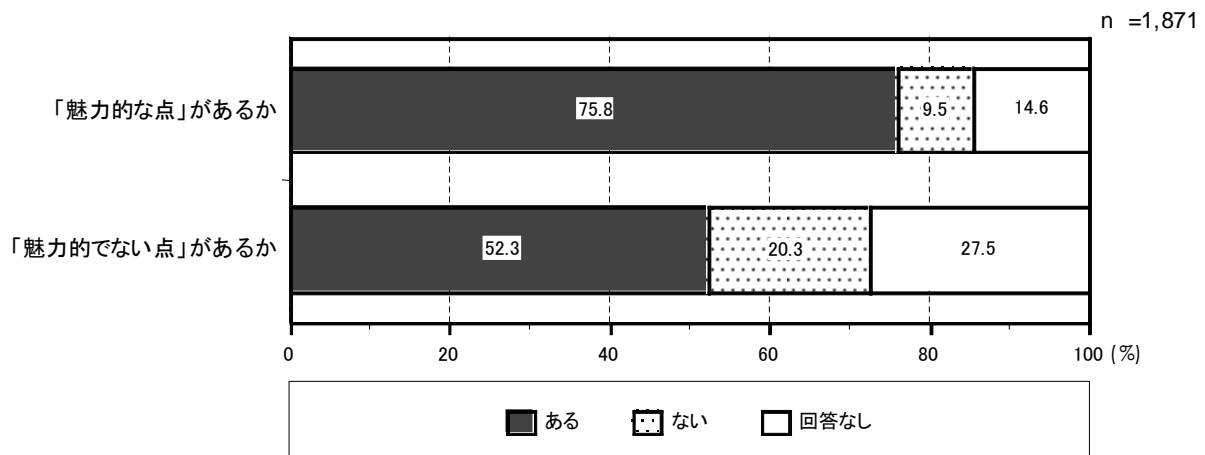


表 3-4-1 長久手の魅力的な点

分野	魅力的な点	意見数
健康 (計：85 件)	愛知医大をはじめ医療機関が充実している	77
	健診等の保健が充実している	3
	子ども医療費助成制度が手厚い	5
子育て・教育 (計：109 件)	子ども、若い人が多い	18
	子育てしやすい、育児・子育て支援が充実している	59
	子どもの遊び場・居場所が充実している	13
	小中学校など教育内容・環境などがよい	15
	その他、子育て、教育	4
環境 (計：891 件)	自然が多い、豊か	261
	緑が多い、豊か	120
	空気がきれい	11
	モリコロパークなど公園が多い	140
	静かである、騒音がない	68
	田畑が残るなど田園環境が豊か	21
	街並み・景観がきれい	153
	環境・生活環境がよい、公害がない、風紀がよい	98
	ごみ対策が進んでいる	15
	その他、環境に関すること	4
	人や地域のつながり (計：41 件)	地域・人のつながりがよい
地域行事や活動が充実		6
その他、地域のつながり等		4
防災・防犯 (計：46 件)	防災・防犯面で安全・安心なまち	46
福祉 (計：48 件)	福祉が充実している、福祉に力を入れている	44
	その他、福祉	4
文化・生涯学習 (計：149 件)	歴史がある、豊か	68
	文化・芸術活動が盛ん、力をいれている	18
	文化的なまち	16
	大学が多く、文化的	15
	文化施設等が充実している	31
	その他	1
生活インフラ (計：963 件)	地下鉄、リニモ、バスなどの公共交通が充実	98
	至便な道路交通や安全な歩道	81
	交通の便が良い、名古屋等へのアクセスの良さ	240
	生活の利便性の高さ	94
	住環境がよく、住みやすい	108
	公共施設等の施設が充実している	54
	商業・飲食施設が整い買い物が便利	211
	飲食店・おいしい飲食店が多い	22
	おしゃれで、新しいお店が多い	42
	新鮮な農産物が手に入る	9
	その他	4
市政運営等について (計：39 件)	市政や市役所、市長や市職員が良い	39
まちや人のイメージ (計：489 件)	明るいまち、明るい雰囲気	25
	新しく若いまち、活気のあるまち	96
	発展性のあるまち、開発が進むまち	63
	人が良い、やさしい、人情味がある	39
	愛着・なじみがある	8
	田舎、のんびりした・ゆったりとした雰囲気	53
	都市規模が適当	27

分野	魅力的な点	意見数
まちや人のイメージ (計：489件)	人口バランスがよいまち	6
	街と田舎・自然との共存やバランスの良さ	143
	新しさと古さが程よいまち	8
	オシャレなまちのイメージ	11
	生活水準の高さや雰囲気	5
その他、まちのイメージ	5	
その他 (計：12件)	その他	12
合 計		2,872

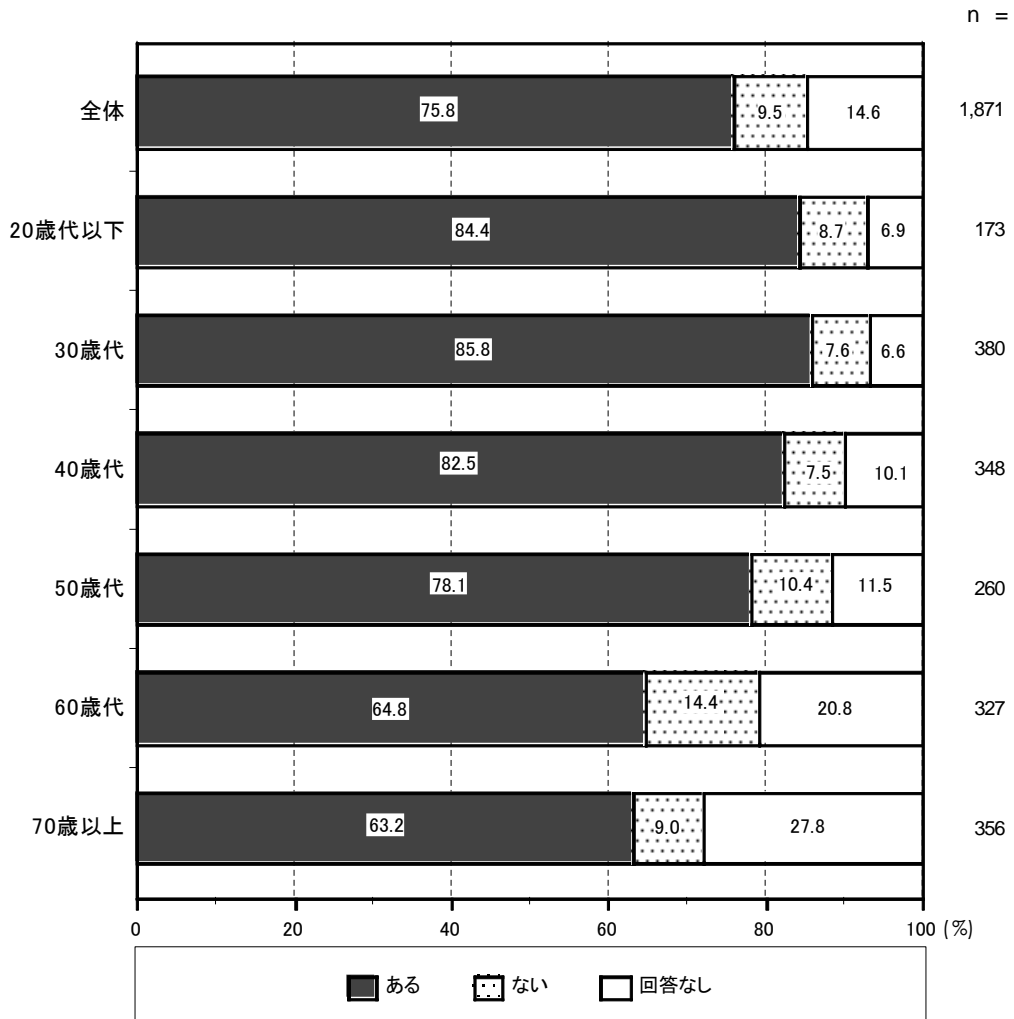
表3-4-2 長久手の魅力的でない点

分野	魅力でない点	意見数
健康 (計：25件)	医療機関、診療科目が不足	17
	健診等の保健が充実していない	7
	その他	1
子育て・教育 (計：138件)	子育て支援サービスや施設、情報が十分でない	26
	幼稚園・保育園が少ない、十分でない	47
	子どもの遊び場・居場所が不十分である	8
	学童保育が少なくトワイライトがない	17
	学校教育内容や教育水準がよくない	13
	学校教育施設の数や内容、配置がよくない	27
環境 (計：183件)	自然が減少している	29
	緑や田畑が減少している	25
	公園が少ない、施設や管理等が不十分である	22
	人、車両等の騒音がうるさい	15
	街並み・景観がよくない	15
	環境衛生、環境美化対策が不十分である	17
	ごみ対策が十分でない	47
	大気・水質汚染や悪臭などがある	11
その他、環境について	2	
人や地域のつながり (計：83件)	近所との付き合いが希薄	23
	旧態依然の体質、閉鎖的など残っている	56
	コミュニティ施設が少ない	4
防災・防犯 (計：138件)	防災対策が不十分	3
	防災・防犯意識が低い	3
	防犯対策が不十分	34
	空き巣や車上荒らしの増加など治安がよくない	73
	交通事故が多い	7
	警察署がない、交番が少ない	18
福祉 (計：36件)	老後の不安や高齢者福祉の不十分さ等	10
	公共交通機関の敬老パスがない	6
	障がい者(児)福祉が不十分	5
	福祉行政が弱い	6
	高齢者福祉に偏っている	5
	福祉に偏りすぎ	3
	その他、福祉	1
文化・生涯学習 (計：82件)	文化・学習活動やイベント等の文化面が弱い、不十分	17
	文化施設や生涯学習施設等が不十分	8
	図書館が充実していない	17
	歴史資源や文化財が活かされていない	8
	スポーツ施設が少ない、不十分、老朽化が進んでいる	32

分野	魅力でない点	意見数
生活インフラ (計：872件)	名古屋や周辺都市へのアクセスが悪い	14
	交通の便が悪い	140
	N-バスやリノモなどの公共交通機関が不便	112
	リノモなどの公共交通機関の料金が安い	24
	公共交通機関の運営が悪い	10
	車がないと不便	33
	交通量が多い	27
	渋滞が多い	132
	狭い、坂が多いなど道路事情が悪い	90
	駐車場・駐輪場が少ない、路上駐車が多い	18
	商業・飲食施設が少ない、不便、魅力がない	58
	商業施設が増えすぎている	8
	宿泊施設がない	2
	映画館がない、娯楽施設や娯楽関連ショップが少ない	27
	金融機関・郵便局が少ない	21
	都市整備や住宅開発がうまくいっていない	47
	急激な都市化、住宅開発、人口増が進んでいる	32
	都市開発が遅い、土地等の有効活用が不十分	13
	地価・家賃が高い	16
	企業、就業場所が少ない	18
	公共施設が少ない、利用しにくい	18
	都市インフラ整備が不十分	9
その他の生活インフラ	3	
市政運営等について (計：88件)	税金や公共料金が安い	40
	税金のむだ使いなど税金の使い方が悪い	5
	行政サービスがよくない	11
	市政がわかりにくい、市民の声が反映されない	8
	市職員の対応等が悪い	10
	その他、市政運営等について	14
まちや人のイメージ (計：42件)	市民のモラルやマナーの悪さや市民気質	28
	活気のなさや田舎臭さなどの都市イメージ	8
	観光資源がないなどまちの魅力がない	6
その他 (計：24件)	人口、年齢構成のバランス	15
	地名が読みにくい、長い	4
	その他	5
合 計		1,711

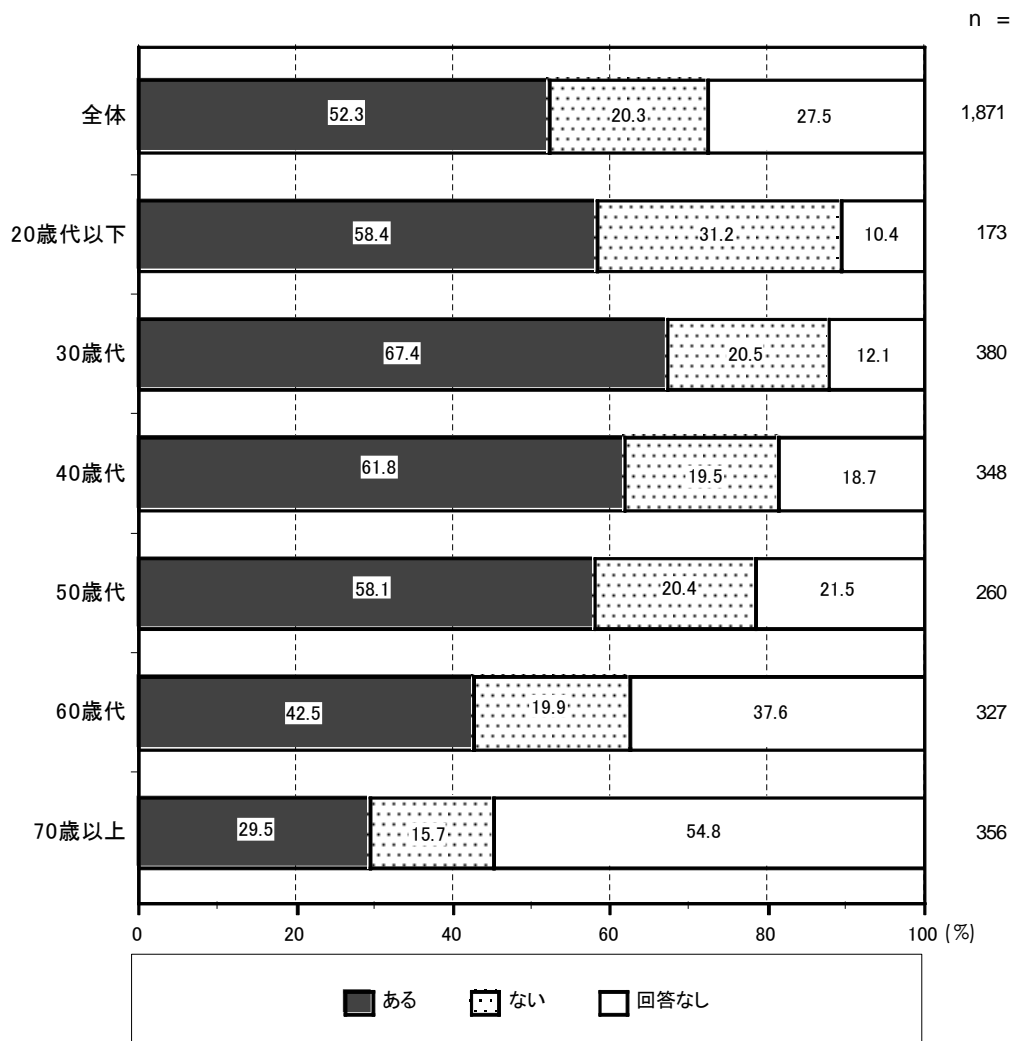
○「魅力的な点」について年齢別にみると、魅力的な点があるという回答は、30歳代（85.8%）で最も多く、それ以降年齢が上がるほど少なくなる傾向がみられます。そして、60歳代になると64.8%と少なくなり、70歳以上では63.2%になりますが、その分、60歳代や70歳以上の年齢層では、「回答なし」の割合が多くなっています（図3-4-2）。

図3-4-2 年齢別「魅力的な点あり」



- 「魅力的でない点」についても同様に、魅力的でない点があるという回答は30歳代（67.4%）で最も多く、それ以降年齢が上がるほど少なくなる傾向がみられます。そして、60歳代になると42.5%と大幅に少なくなり、70歳以上では29.5%になりますが、その分、60歳代や70歳以上の年齢層では、「回答なし」の割合が多くなっています。
- また、20歳代以下において、魅力的でない点がないという回答が31.2%を占め、全体よりも10ポイント以上上回っていることが特徴としてみられます（図3-4-3）。

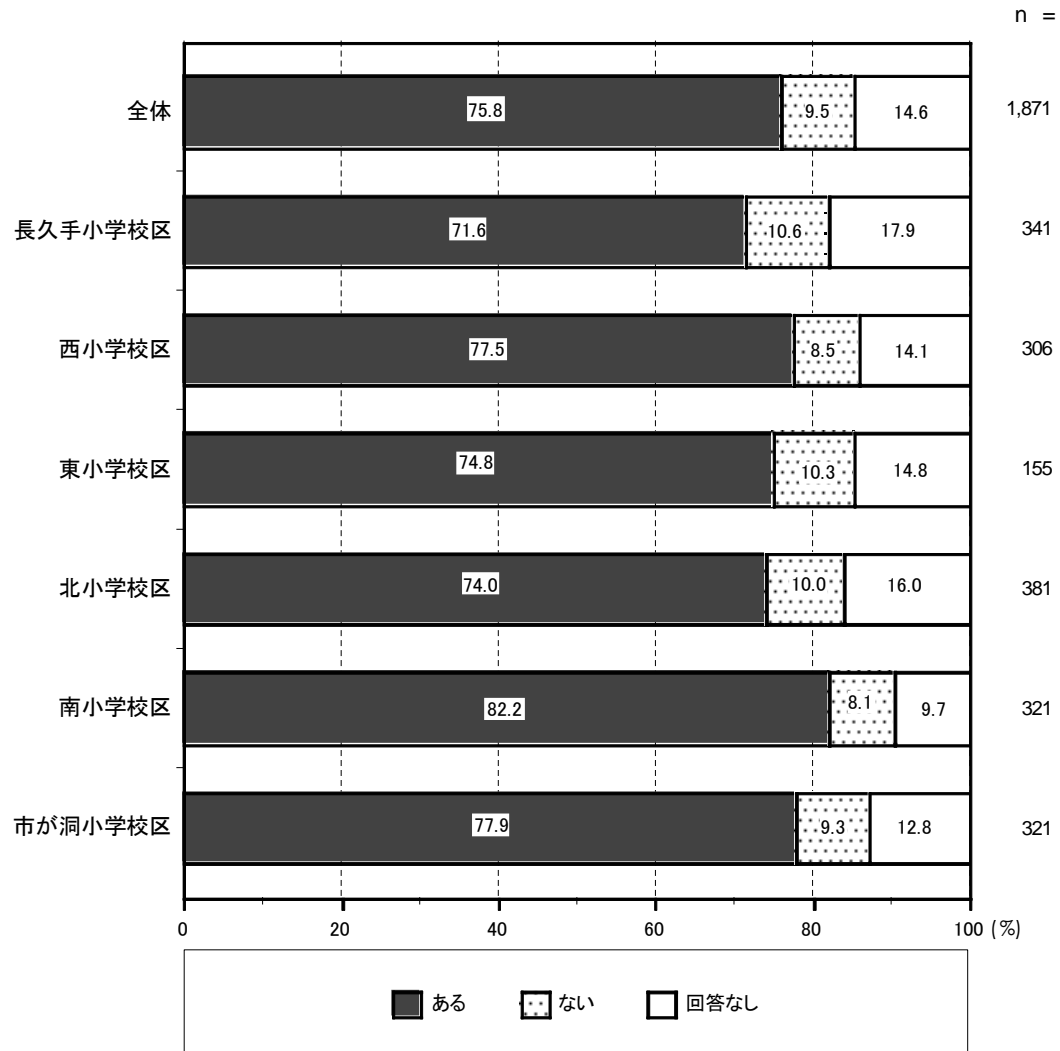
図3-4-3 年齢別「魅力的でない点あり」



小学校区別

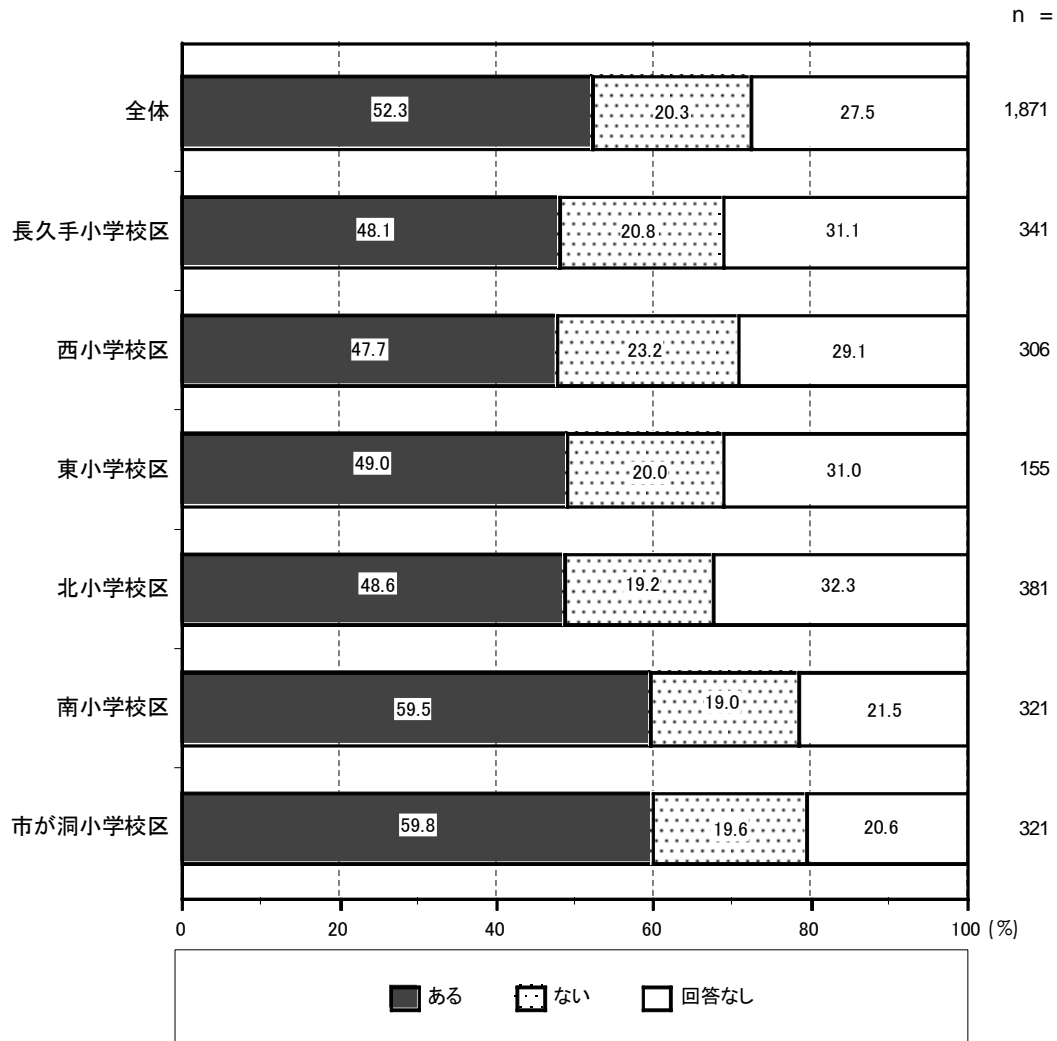
○「魅力的な点」について小学校区別にみると、魅力的な点があるという回答は、南小学校区(82.2%)で全体と比べて若干多くなっている以外は、小学校区の違いによる大きな差はみられません(図3-4-4)。

図3-4-4 小学校区別「魅力的な点あり」



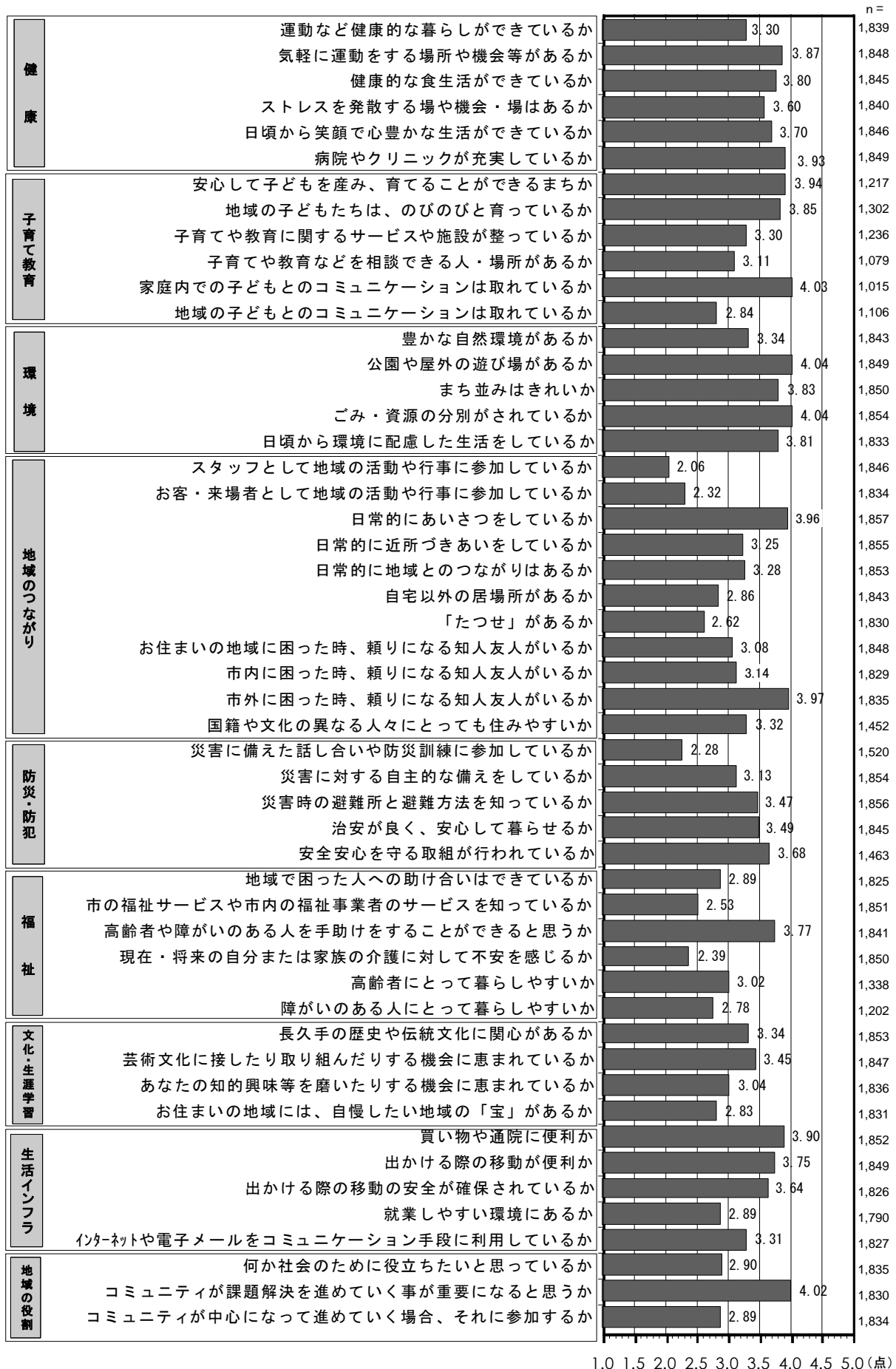
○「魅力的でない点」について小学校区別にみると、魅力的でない点があるという回答は南小学校区（59.5%）と市が洞小学校区（59.8%）で全体と比べて若干多くなっています（図3-4-5）。

図3-4-5 小学校区別「魅力的でない点あり」



○南小学校区では、魅力的な点があるという回答の割合が多くなっていますが、同時に、魅力的でない点があるという回答の割合も多くなっていることが特徴となっています。

第4章 暮らしやお住まいの地域（生活実感）について（評点一覧）



4-1 健康について（問8）

要点

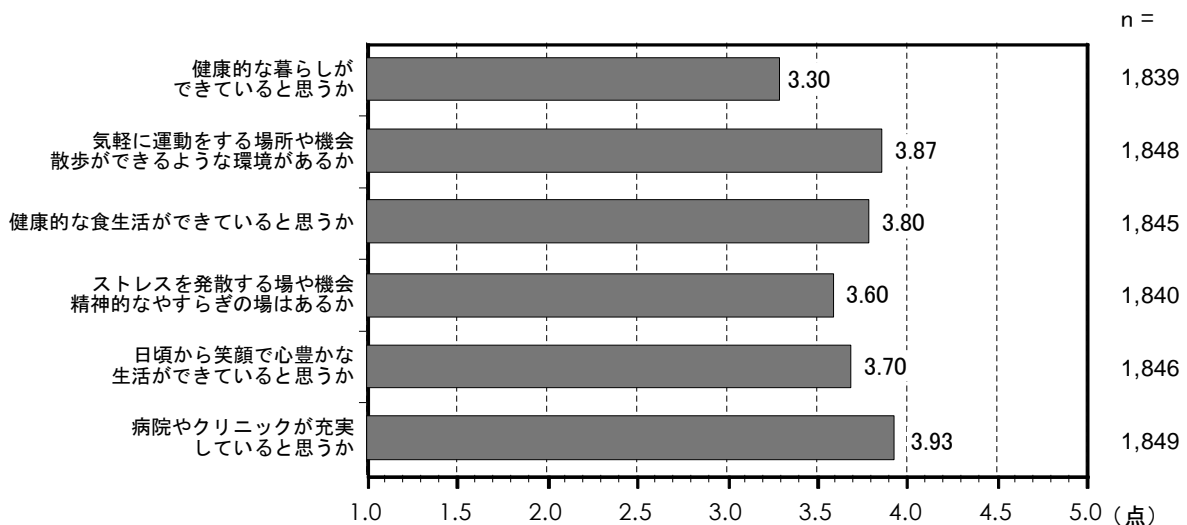
「病院やクリニックが充実していると思うか」の評点が最も高く、他の項目の評点も比較的高い水準にある一方で、「健康的な暮らしができていると思うか」の評点が、他の項目に比べて目立って低くなっています。

「健康的な暮らしができていると思うか」については、若い世代の評点が低くなっている一方で、70歳代や60歳代の評点が高くなっていることが特徴としてみられます。

全体

- 健康に関する6項目のうち、「病院やクリニックが充実していると思うか」の評点が3.93と最も高く、次いで「気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境があるか」(3.87)、「健康的な食生活ができていると思うか」(3.80)の順となっています。
- 一方、「(体を動かしたり運動したりと)健康的な暮らしができていると思うか」は、3.30と他の項目に比べて評点が低くなっています。
- このように、運動する場所や機会、環境が恵まれていると実感し、健康的な食生活ができているという回答者の割合に比べて、体を動かしたりするといった健康的な暮らしが実践できているという実感は低い水準にとどまっています(図4-1-1)。

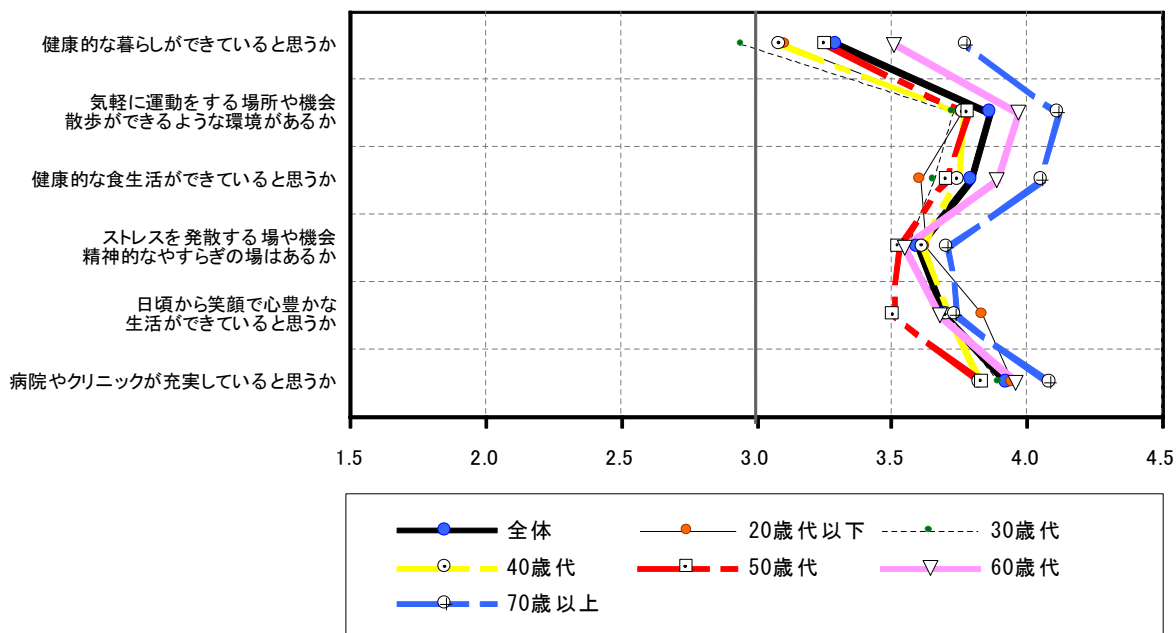
図4-1-1 健康について（評点）



○年齢別にみると、「(体を動かしたり運動したりと) 健康的な暮らしができていると思うか」において年齢差がみられます。比較的時間に余裕のある年齢層の70歳代(3.78)や60歳代(3.51)の評点が高くなっており、若い年齢層に比べると運動を実践しているような状況がうかがえます。

○加えて、70歳代では、「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていると思うか」を除く残りの5項目の評点が他の年齢層と比べて最も高くなっており、健康的な暮らしや運動環境、医療施設の充実度などを実感している年齢層であるといえます(図4-1-2)。

図4-1-2 年齢別「健康について(評点)」



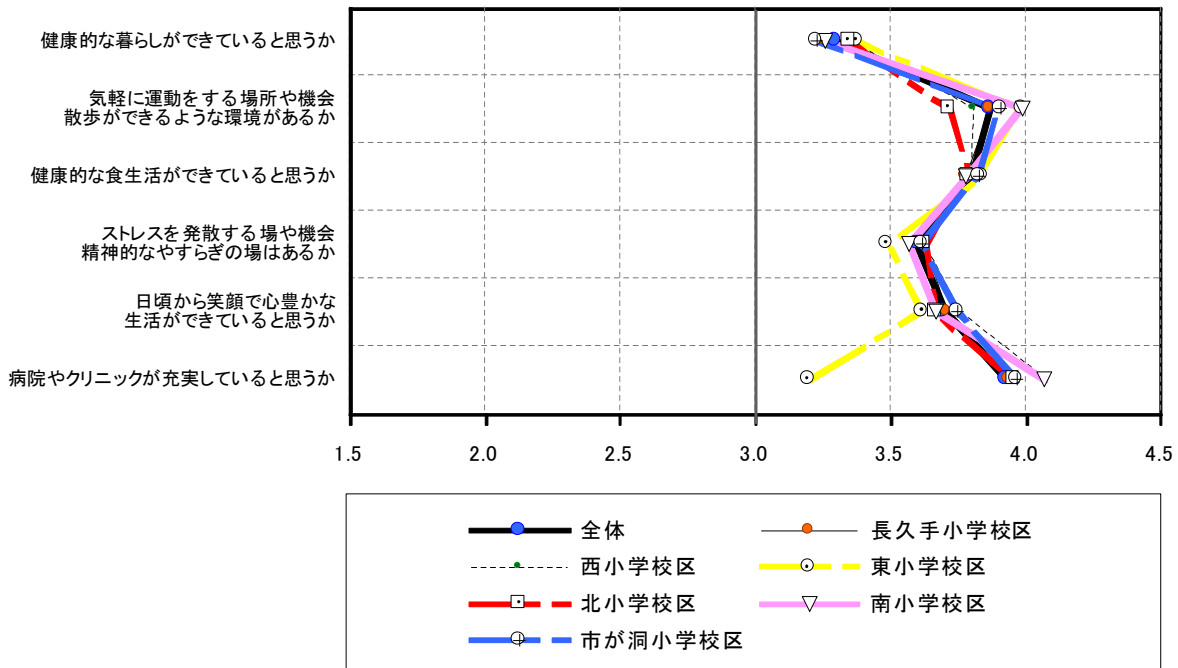
■調査隊からの提案■

20歳代から50歳代といった働き世代が、健康的な暮らしができていると思っていないので、働き盛り世代を主対象とした健康教室を愛知医大を含めた官民協働のチームで進めていけば良いと思います。

小学校区別

- 小学校区別にみると、「病院やクリニックが充実していると思うか」については、東小学校区の評点が低くなっています。
- 「病院やクリニックが充実していると思うか」以外の項目については、小学校区の違いによる差はほとんどみられません（図4-1-3）。

図4-1-3 小学校区別「健康について（評点）」



調査隊

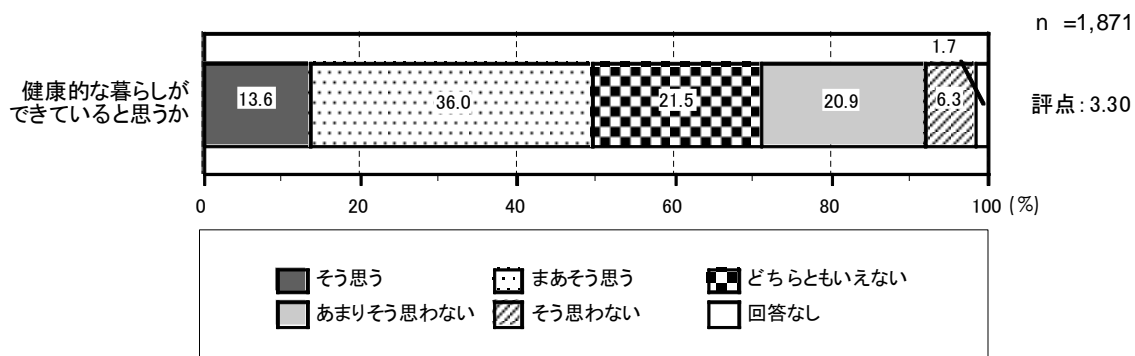
○東小学校区は、市内でも農村的な環境が最も色濃く残っており、人口密度が低いために市街地に比べて医療機関が身近なところに少ないことが結果に影響しているものと考えられます（図4-1-3）。

(1) 健康的な暮らし (問8 (1))

問8 (1) 体を動かしたり運動したりと健康的な暮らしができていますか。【〇は1つ】

○「(体を動かしたり運動したりと) 健康的な暮らしができていますか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は49.6%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(27.2%)を22.4ポイント上回っています(図4-1-4)。

図4-1-4 健康的な暮らし

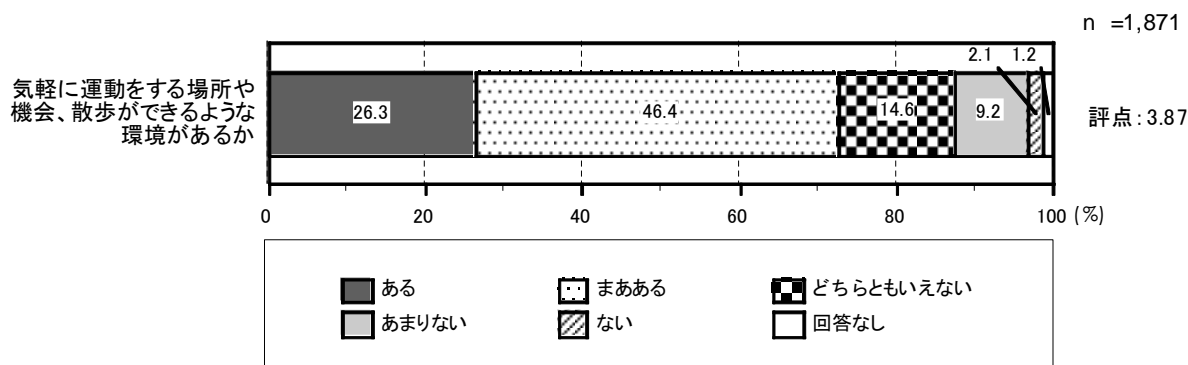


(2) 居住地域の運動環境 (問8 (2))

問8 (2) お住まいの地域では、気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境がありますか。【〇は1つ】

○「気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境があるか」について、「ある」と「まあある」を合わせた割合は72.7%となっており、「あまりない」と「ない」の合計(11.3%)を61.4ポイントも上回っています(図4-1-5)。

図4-1-5 居住地域の運動環境

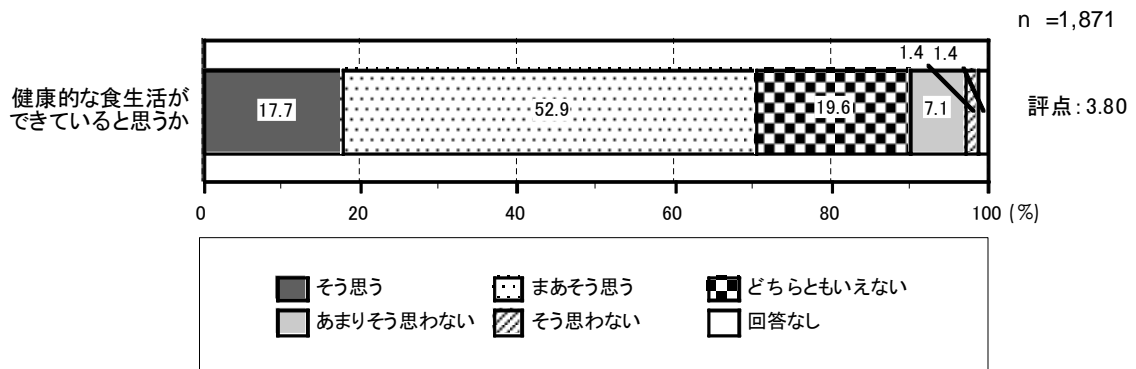


(3) 健康的な食生活 (問8 (3))

問8 (3) 健康的な食生活ができていると思いますか。【〇は1つ】

○「健康的な食生活ができていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は70.6%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(8.5%)を62.1ポイントも上回っています(図4-1-6)。

図4-1-6 健康的な食生活

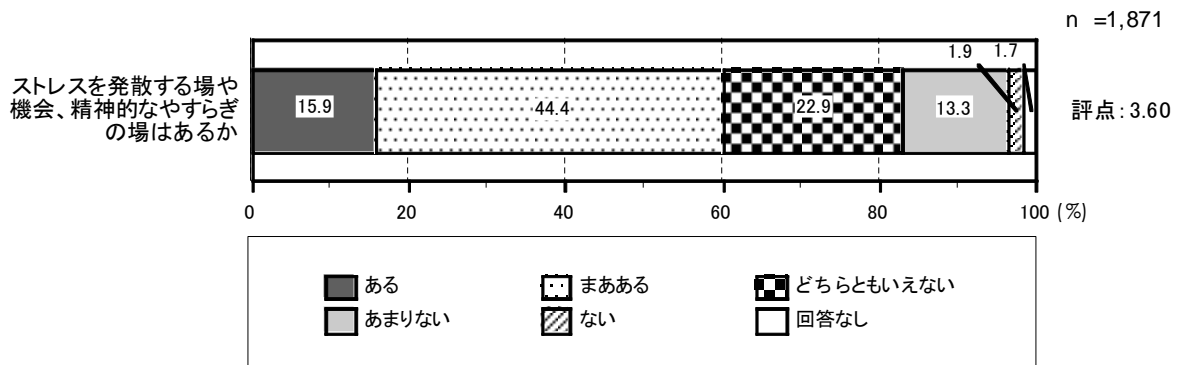


(4) 精神的安らぎ (問8 (4))

問8 (4) ストレスを発散する場や機会、精神的なやすらぎの場はありますか。【〇は1つ】

○「ストレスを発散する場や機会、精神的な安らぎの場があるか」について、「ある」と「まあある」を合わせた割合は60.3%となっており、「あまりない」と「ない」の合計(15.2%)を45.1ポイント上回っています(図4-1-7)。

図4-1-7 精神的安らぎ

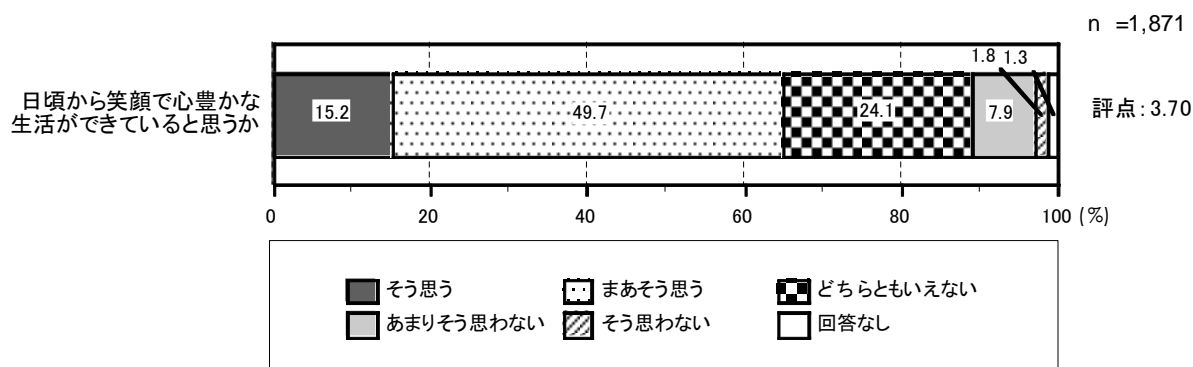


(5) 心豊かな生活 (問8 (5))

問8 (5) 日頃から笑顔で心豊かな生活ができていますか。【○は1つ】

○「日頃から笑顔で心豊かな生活ができていますか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は64.9%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(9.7%)を55.2ポイントも上回っています(図4-1-8)。

図4-1-8 心豊かな生活

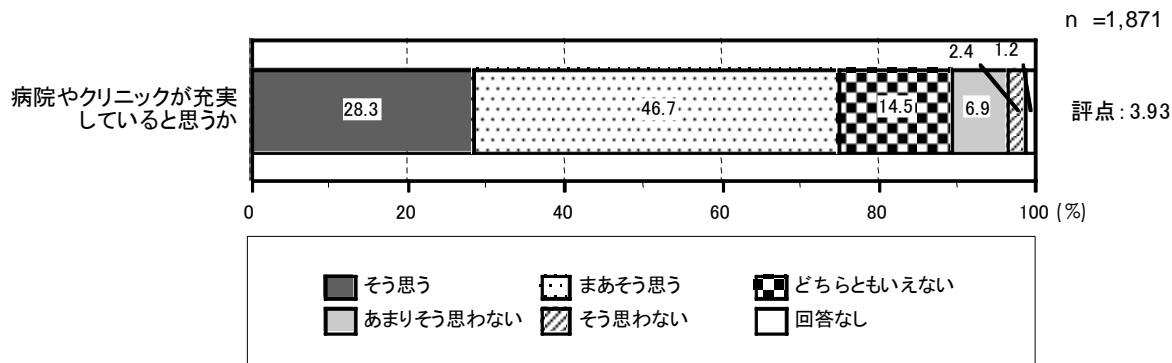


(6) 病院等の充実度 (問8 (6))

問8 (6) お住まいの地域では、病院やクリニックが充実していますか。【○は1つ】

○「(お住まいの地域では) 病院やクリニックが充実していますか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は75.0%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(9.3%)を65.7ポイントも上回っています(図4-1-9)。

図4-1-9 病院等の充実度



4-2 子育て・教育について（問9）

要点

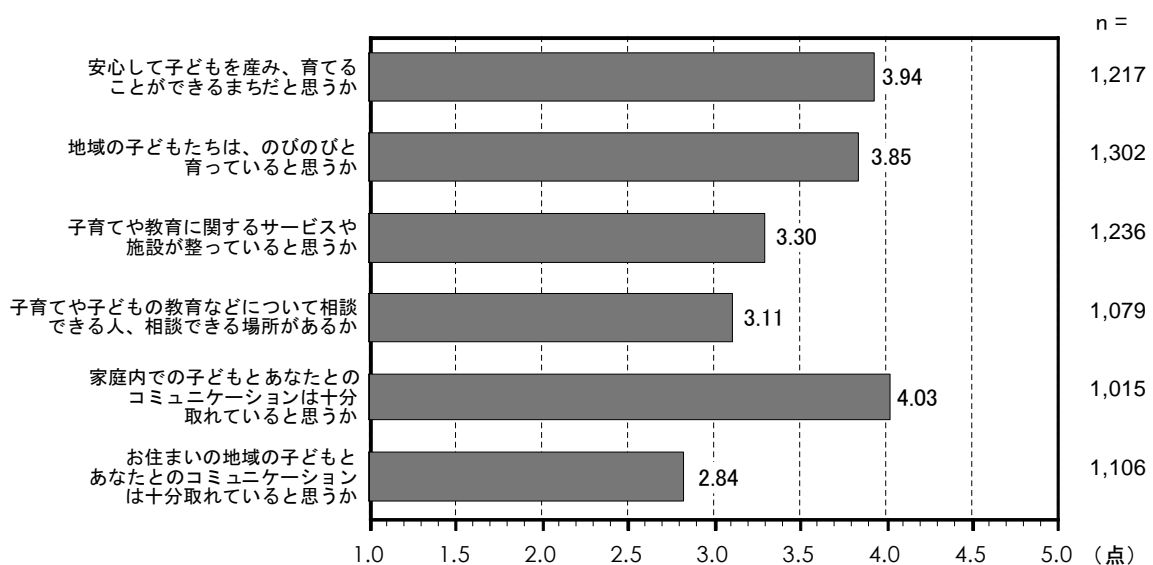
家庭内での子どもとのコミュニケーションは十分であるが、地域の子どもとのコミュニケーションについては十分でないことが特徴としてみられます。

また、安心して子どもを産み育てられるまちや地域の子どもたちがのびのび育っていることについての評点に比べて、子育て・教育に関するサービスや施設、相談できる人・場所についての評点は低い状況がみられます。

全体

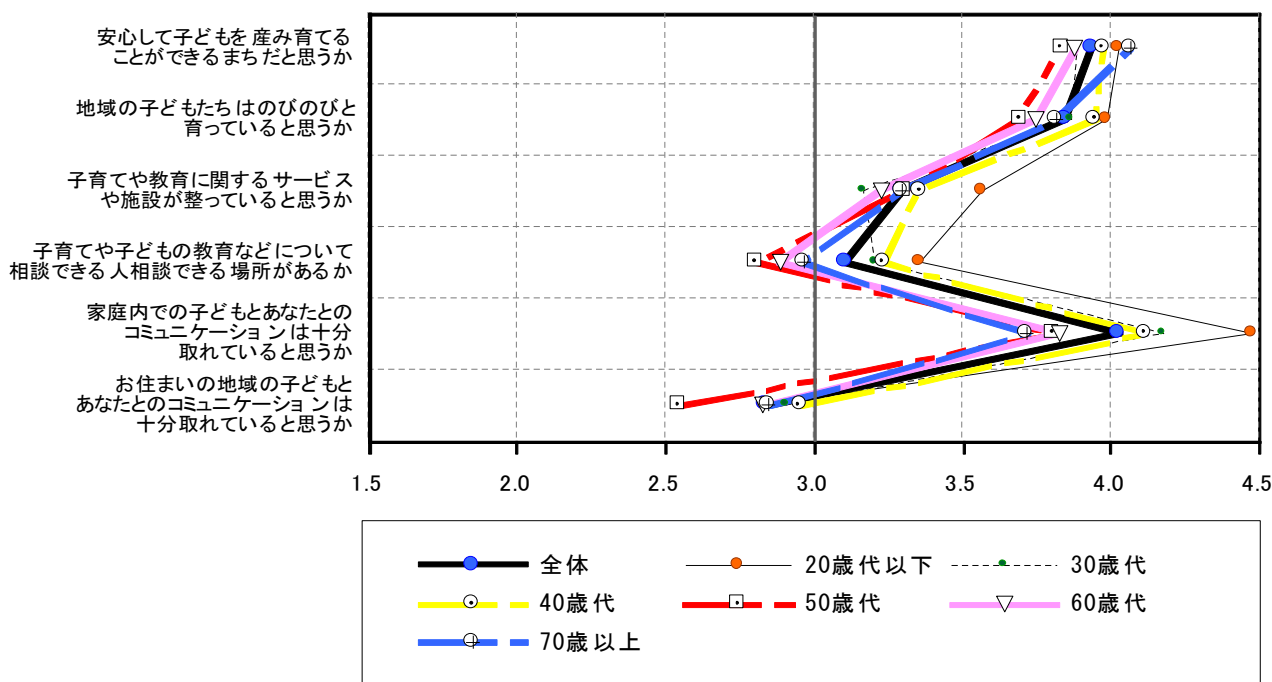
- 子育て・教育に関する6項目のうち、「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」の評点が4.03と最も高くなっています。
- その一方で、「お住まいの地域の子どもとあなたとのコミュニケーションが取れていると思うか」の評点は2.84と最も低くなっています。
- 同じ子どもとのコミュニケーションに関わる項目でありながら、家庭内での子どもとのコミュニケーションは十分であるが、地域の子どもとのコミュニケーションについては十分でないといえます。
- 「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」（4.03）に次いで「安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか」（3.94）と「地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思うか」（3.85）の評点が高くなっています。
- 一方、「子育てや子どもの教育などについて相談できる場所があるか」（3.11）と「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」（3.30）の評点は上記の3項目に比べて低くなっています。
- このように、長久手は、安心して子どもを産み育てられるまちや地域の子どもたちがのびのび育っていることについての評点に比べて、子育て・教育に関するサービスや施設、相談できる人・場所の評点は十分な評点が得られていないといえます（図4-2-1）。

図4-2-1 子育て・教育について（評点）



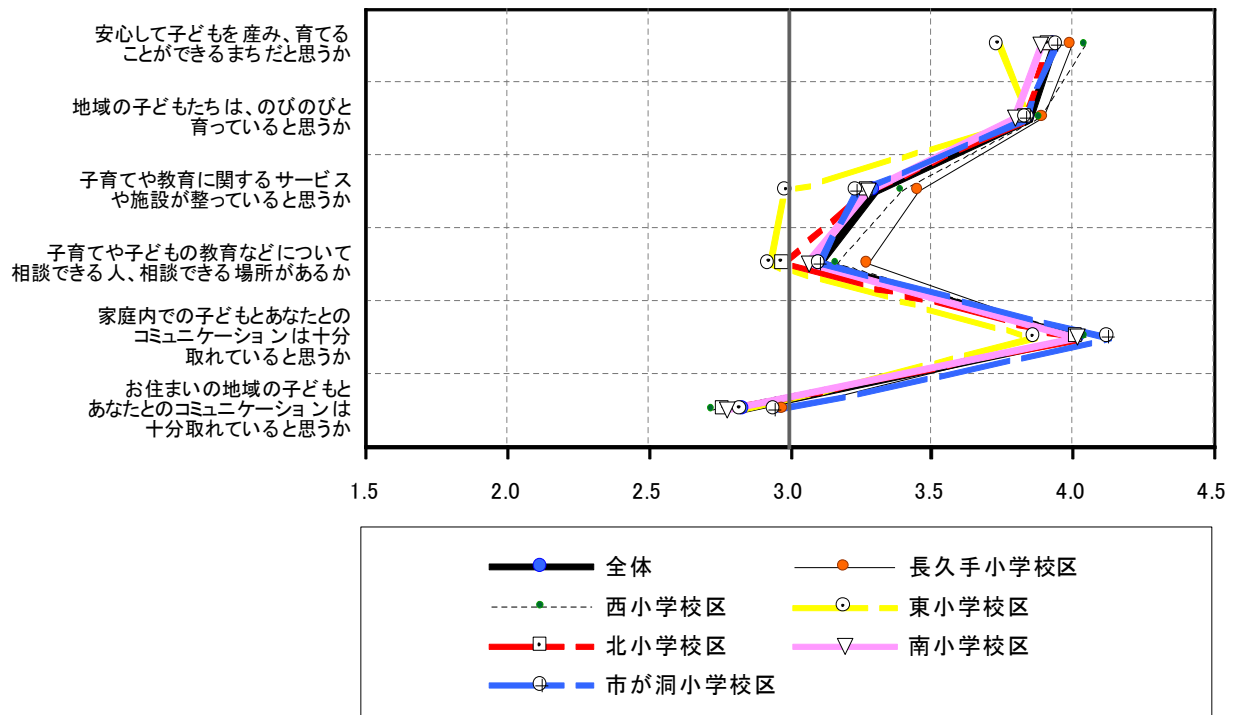
- 年齢別にみると、「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」については、20歳代以下(4.48)の評点が高くなっている一方で、70歳代(3.72)や50歳代(3.81)、60歳代(3.83)といった、子育て世代ではない中高年層における評点が全体よりも低くなっています。
- また、50歳代では、「お住まいの地域の子どもとあなたとのコミュニケーションが取れていると思うか」の評点についても、他の年齢層に比べて低くなっています。
- 20歳代以下では、「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」(4.48)をはじめ、「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」(3.57)や「子育てや子どもの教育などについて相談できる場所があるか」(3.36)、「地域の子どもたちはのびのびと育っていると思うか」の4項目において評点が最も高くなっていることが特徴としてみられます(図4-2-2)。

図4-2-2 年齢別「子育て・教育について(評点)」



- 小学校区別にみると、東小学校区では「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」(3.30)と「安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか」(3.94)が他の小学校区に比べて若干低くなっています。
- その他、一般的にみて特徴的な差はみられません(図4-2-3)。

図4-2-3 小学校区別「子育て・教育について(評点)」

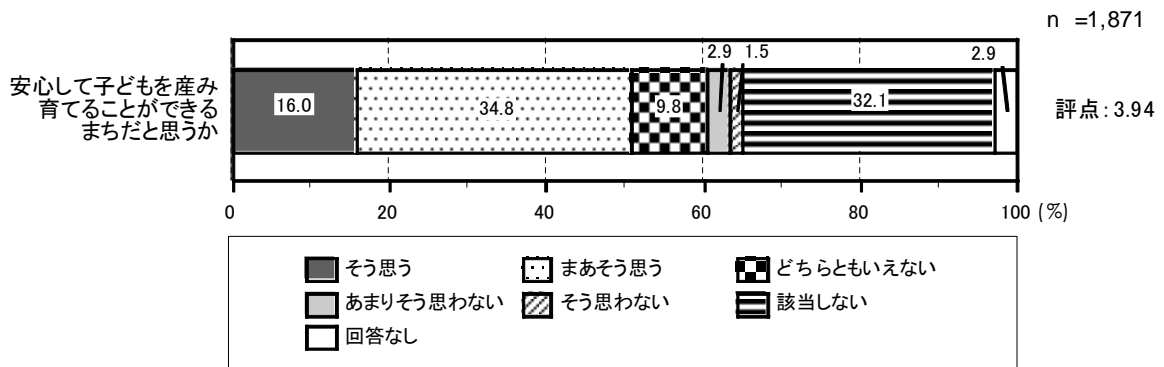


(1) 出産・育児 (問9 (1))

問9 (1) 長久手市は、安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思いますか。【〇は1つ】

○「安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は50.8%となっていますが、「該当しない」(32.1%)を除けば74.8%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば6.5%に相当)を68.3ポイントも上回っています(図4-2-4)。

図4-2-4 出産・育児

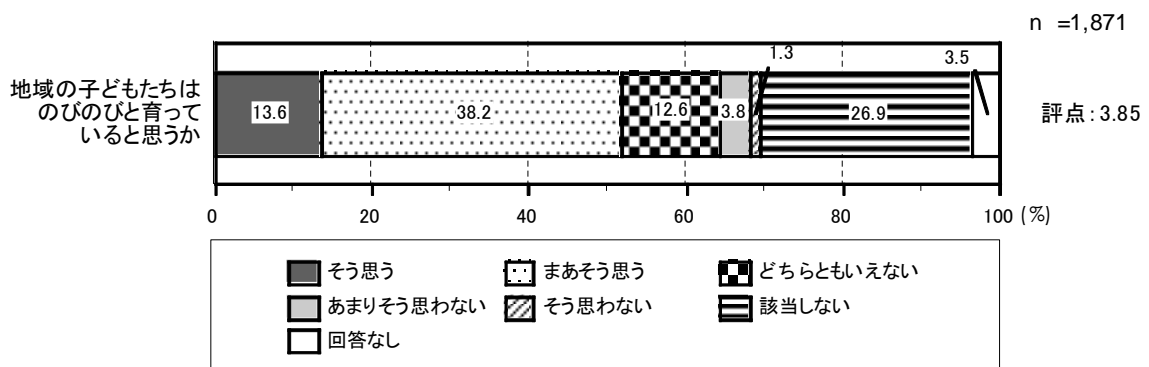


(2) 地域における子どもの成長 (問9 (2))

問9 (2) お住まいの地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思いますか。【〇は1つ】

○「地域の子どもたちは、のびのびと育っていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は51.8%となっていますが、「該当しない」(26.9%)を除けば70.9%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば7.0%に相当)を63.9ポイントも上回っています(図4-2-5)。

図4-2-5 地域における子どもの成長

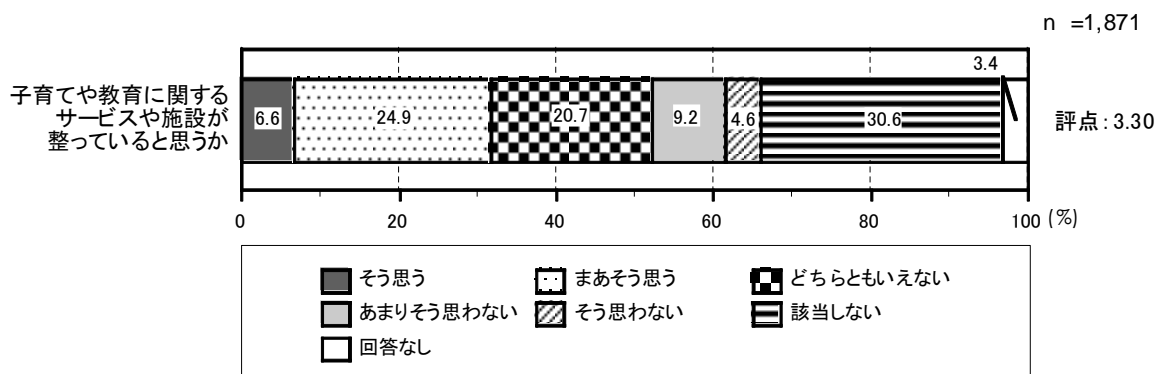


(3) 地域における子育て環境 (問9 (3))

問9 (3) お住まいの地域には、子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思いますか。
【〇は1つ】

○「子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は31.5%となっていますが、「該当しない」(30.6%)を除けば45.4%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば20.0%に相当)を25.4ポイント上回っています(図4-2-6)。

図4-2-6 地域における子育て環境

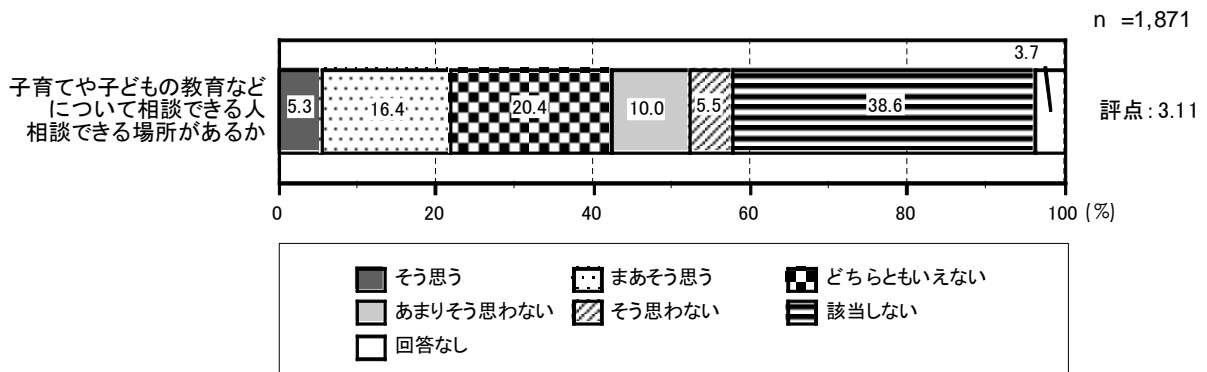


(4) 子育て・教育に関する相談 (問9 (4))

問9 (4) お住まいの地域には、子育てや子どもの教育などについて相談できる人がいる、あるいは、相談できる場所がありますか。【〇は1つ】

○「子育てや子どもの教育などについて相談できる人、相談できる場所があると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は21.7%となっていますが、「該当しない」(38.6%)を除けば35.3%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば25.2%に相当)を10.1ポイント上回っています(図4-2-7)。

図4-2-7 子育て・教育に関する相談



(5) 家庭内における子どもとのコミュニケーション (問9 (5) -1)

問9 (5) 子どもとのコミュニケーションは十分取れていると思いますか。【〇は1つ】

①家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーション

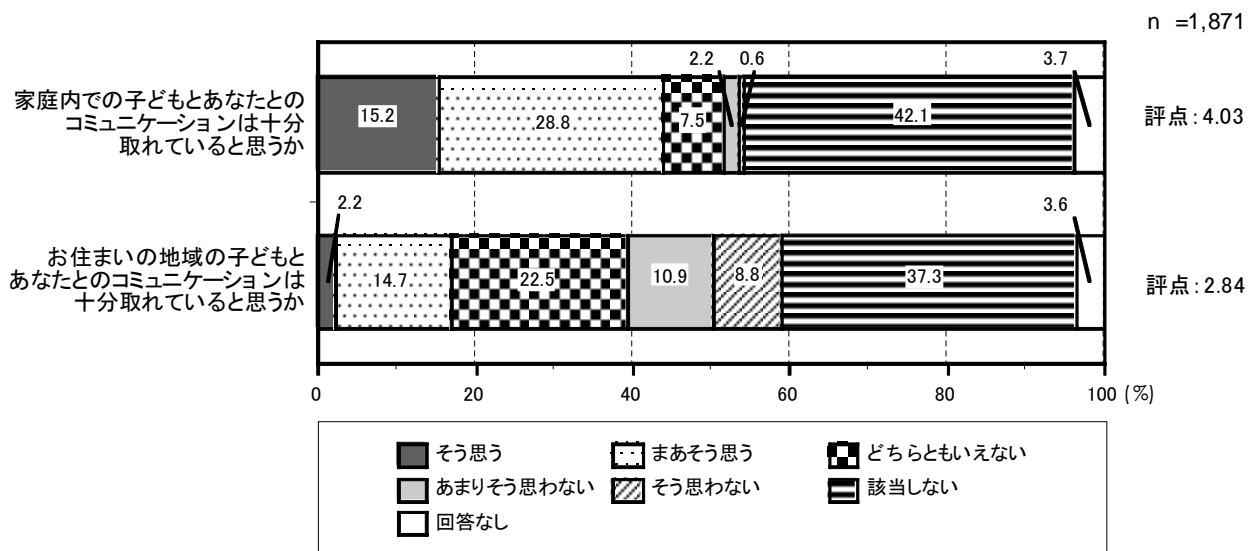
(6) 地域における子どもとのコミュニケーション (問9 (5) -2)

問9 (5) 子どもとのコミュニケーションは十分取れていると思いますか。【〇は1つ】

②お住まいの地域の子どものコミュニケーション

- 「家庭内での子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は44.0%となっていますが、「該当しない」(42.1%)を除けば76.0%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば4.8%に相当)を71.2ポイントも上回っています(図4-2-7)。
- 「お住まいの地域の子どものコミュニケーションが取れていると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は16.9%となっていますが、「該当しない」(37.3%)を除けば27.0%に相当し、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計(「該当しない」を除けば31.4%に相当)を4.4ポイント下回っています(図4-2-8)。
- このように、家庭内での子どもとのコミュニケーションに比べて、地域の子どものコミュニケーションについては十分でない状況がうかがえます。

図4-2-8 家庭内および地域における子どもとのコミュニケーション



4-3 自然やごみなどの環境について（問10）

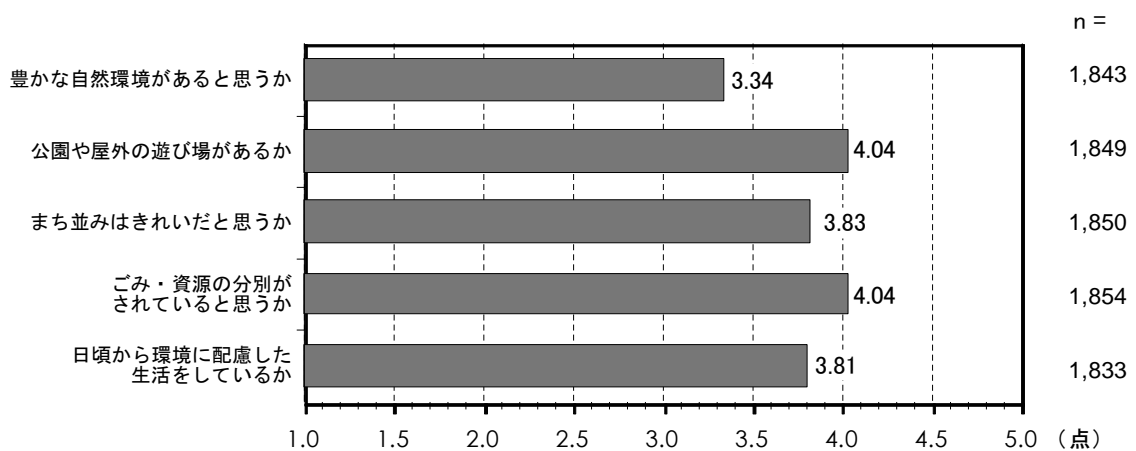
要点

公園や屋外の遊び場、ごみ・資源の分別の実践に対する実感は比較的高くなっています。その一方で、自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど豊かな自然環境があるという実感は、他の項目に比べて低くなっています。

全体

- 自然やごみなどの環境に関する5項目のうち、「公園や屋外の遊び場があると思うか」と「ごみ・資源の分別がされていると思うか」の評点がともに4.04と最も高くなっています。
- 一方、「（自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど）豊かな自然環境があると思うか」の評点は3.34と、他の項目に比べて低くなっています（図4-3-1）。

図4-3-1 自然やごみなどの環境について（評点）

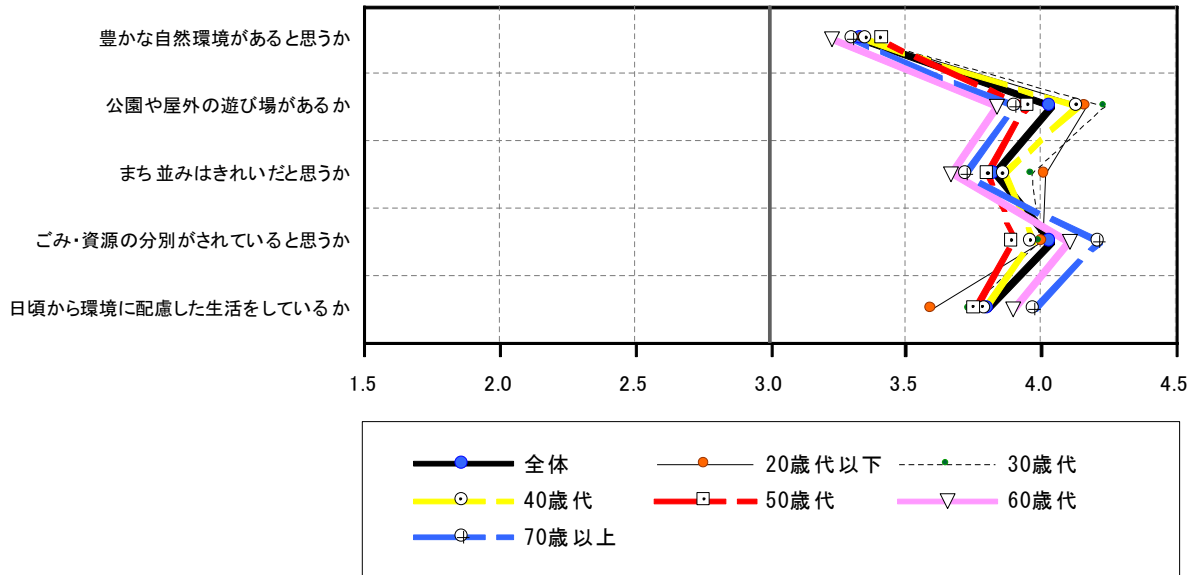


■調査隊からの提案■

長久手の場合、公園や遊び場などの環境条件は整っているため、有効利用を図っていくことを充実していくことが重要であると思います。例えば、身近な公園や遊び場が、まちづくりの拠点（イベントや井戸端会議の場）になったら良いと思います。朝のラジオ体操などを行うなど、もっと有効利用することが重要だと思います。

○年齢別にみると、「公園や屋外の遊び場があると思うか」「日頃から環境に配慮した生活をしているか」については、年齢によって若干の差がみられるものの、全般的に年齢による評点の差はあまりみられません（図4-3-2）。

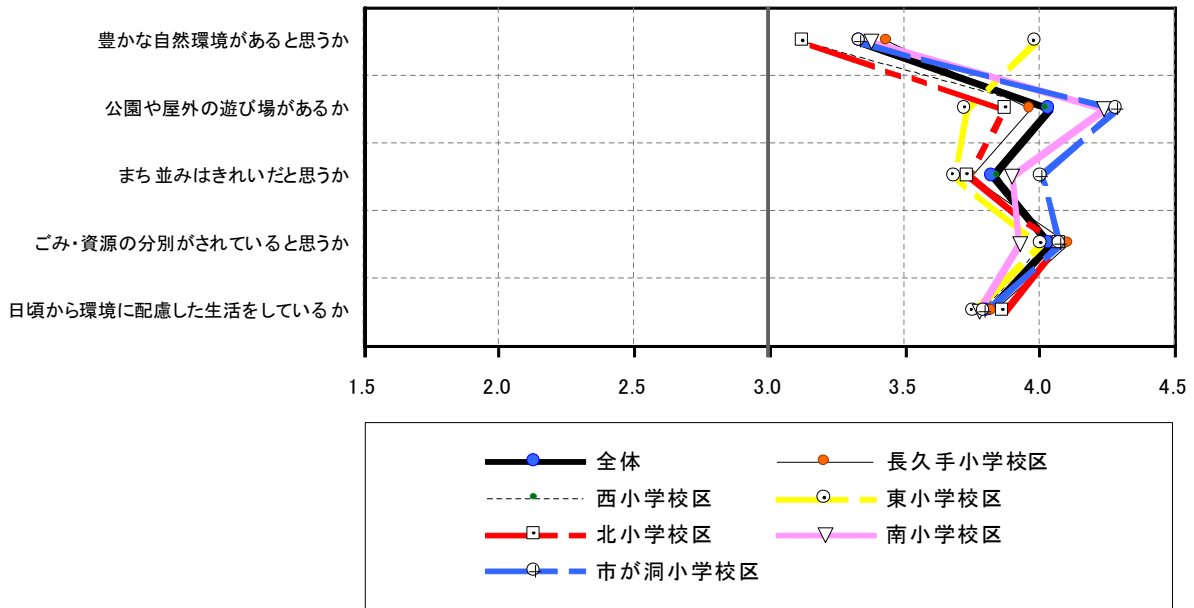
図4-3-2 年齢別「自然やごみなどの環境について（評点）」



小学校区別

- 小学校区別にみると、「(自然の生き物(動植物)に触れ合うことができるなど)豊かな自然環境があると思うか」の評点は、東小学校区(3.99)が他の小学校区に比べて高くなっていることが特徴としてみられます。
- 「公園や屋外の遊び場があると思うか」の評点は、市が洞小学校区(4.29)や南小学校区(4.24)で高く、東小学校区(3.73)で若干低くなっています(図4-2-3)。

図4-3-3 小学校区別「自然やごみなどの環境について(評点)」

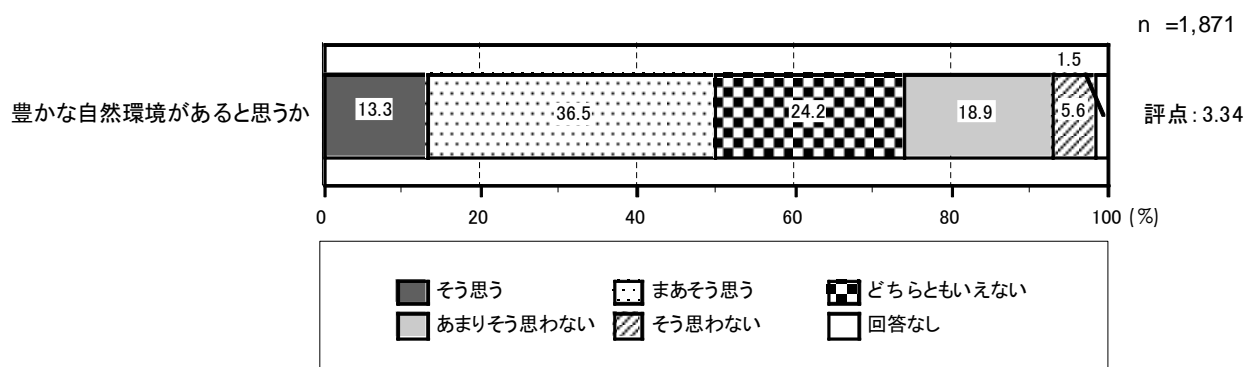


(1) 豊かな自然環境 (問 10 (1))

問 10 (1) お住まいの地域では、自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど、豊かな自然環境があると思いますか。【〇は1つ】

○「(自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど) 豊かな自然環境があると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は 49.8%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計 (24.5%) を 25.3 ポイント上回っています (図 4-3-4)。

図 4-3-4 豊かな自然環境

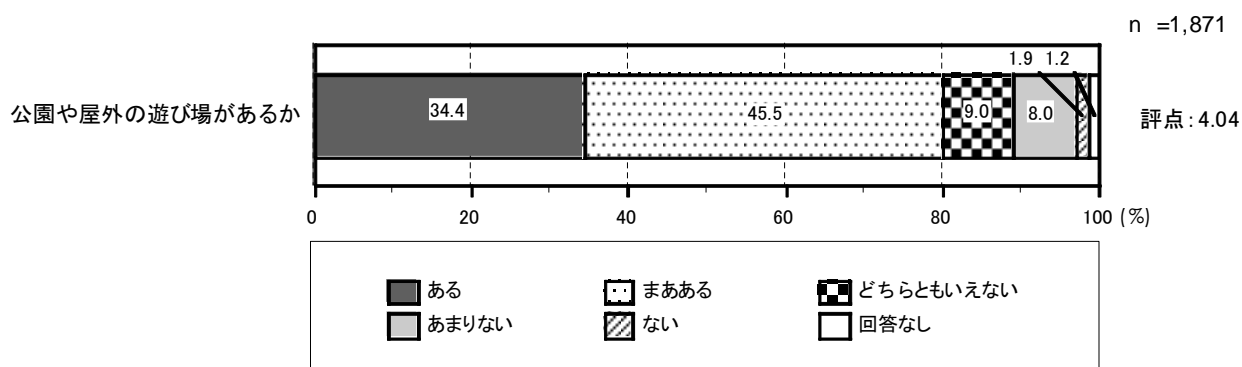


(2) 公園や遊び場 (問 10 (2))

問 10 (2) お住まいの地域には、公園や屋外の遊び場がありますか。【〇は1つ】

○「公園や屋外の遊び場があると思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は 79.9%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計 (9.9%) を 70.0 ポイントも上回っています (図 4-3-5)。

図 4-3-5 公園や遊び場

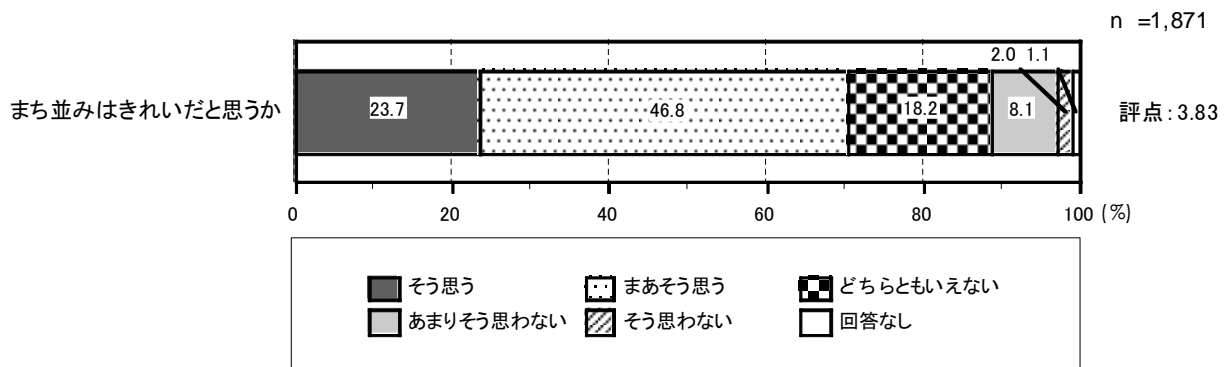


(3) まち並み (景観・風景) (問 10 (3))

問 10 (3) お住まいの地域のまち並み (景観・風景) はきれいだと思えますか。【〇は1つ】

○「まち並み (景観・風景) はきれいだと思うか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は70.5%となっており、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計 (10.1%) を60.4ポイントも上回っています (図4-3-6)。

図4-3-6 街並み (景観・風景)

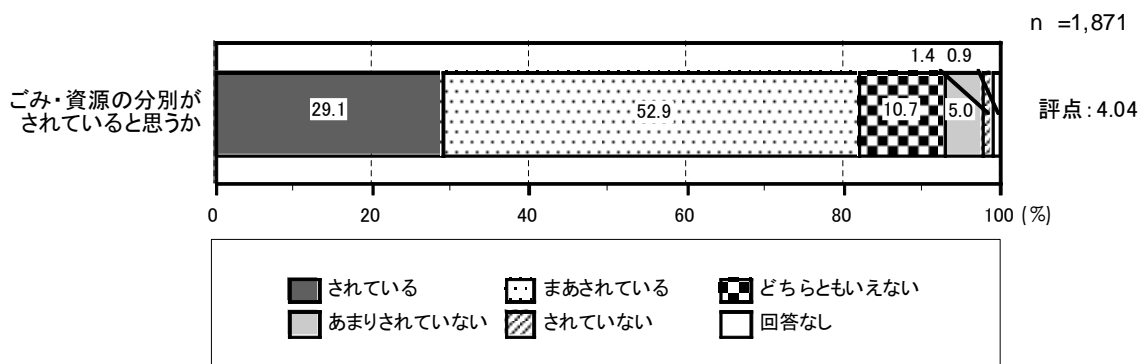


(4) ごみの分別 (問 10 (4))

問 10 (4) お住まいの地域では、ルールにしたがって、ごみ・資源の分別がされていると思えますか。【〇は1つ】

○「ルールにしたがってごみ・資源の分別がされていると思うか」について、「されている」と「まあされている」を合わせた割合は82.0%となっており、「あまりされていない」と「されていない」の合計 (6.4%) を75.6ポイントも上回っています (図4-3-7)。

図4-3-7 ごみの分別

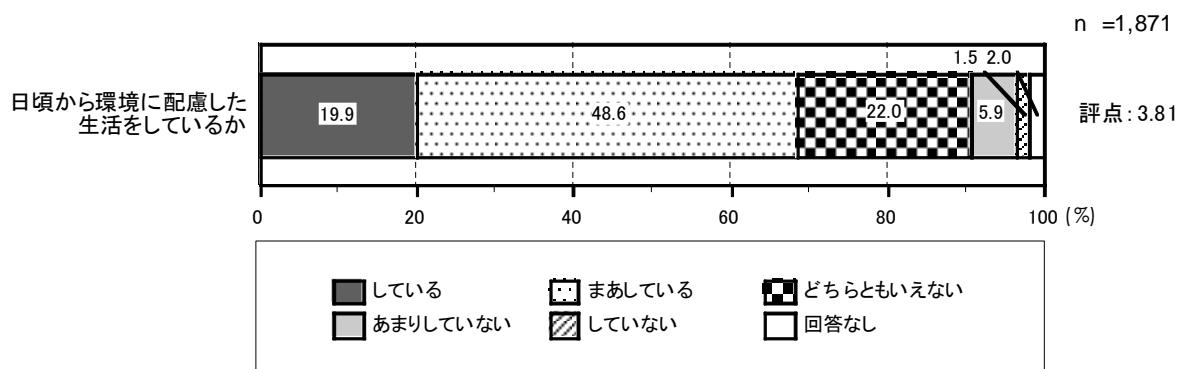


(5) 環境に配慮した生活 (問 10 (5))

問 10 (5) 節電や節水、環境に配慮した製品の購入など、日頃から環境に配慮した生活をしていますか。【〇は1つ】

○「節電や節水、環境に配慮した製品の購入など日頃から環境に配慮した生活をしていると思うか」について、「している」と「まあしている」を合わせた割合は68.5%となっており、「あまりしていない」と「していない」の合計(7.4%)を61.1ポイントも上回っています(図4-3-8)。

図4-3-8 環境に配慮した生活



4-4 人や地域のつながりについて（問11）

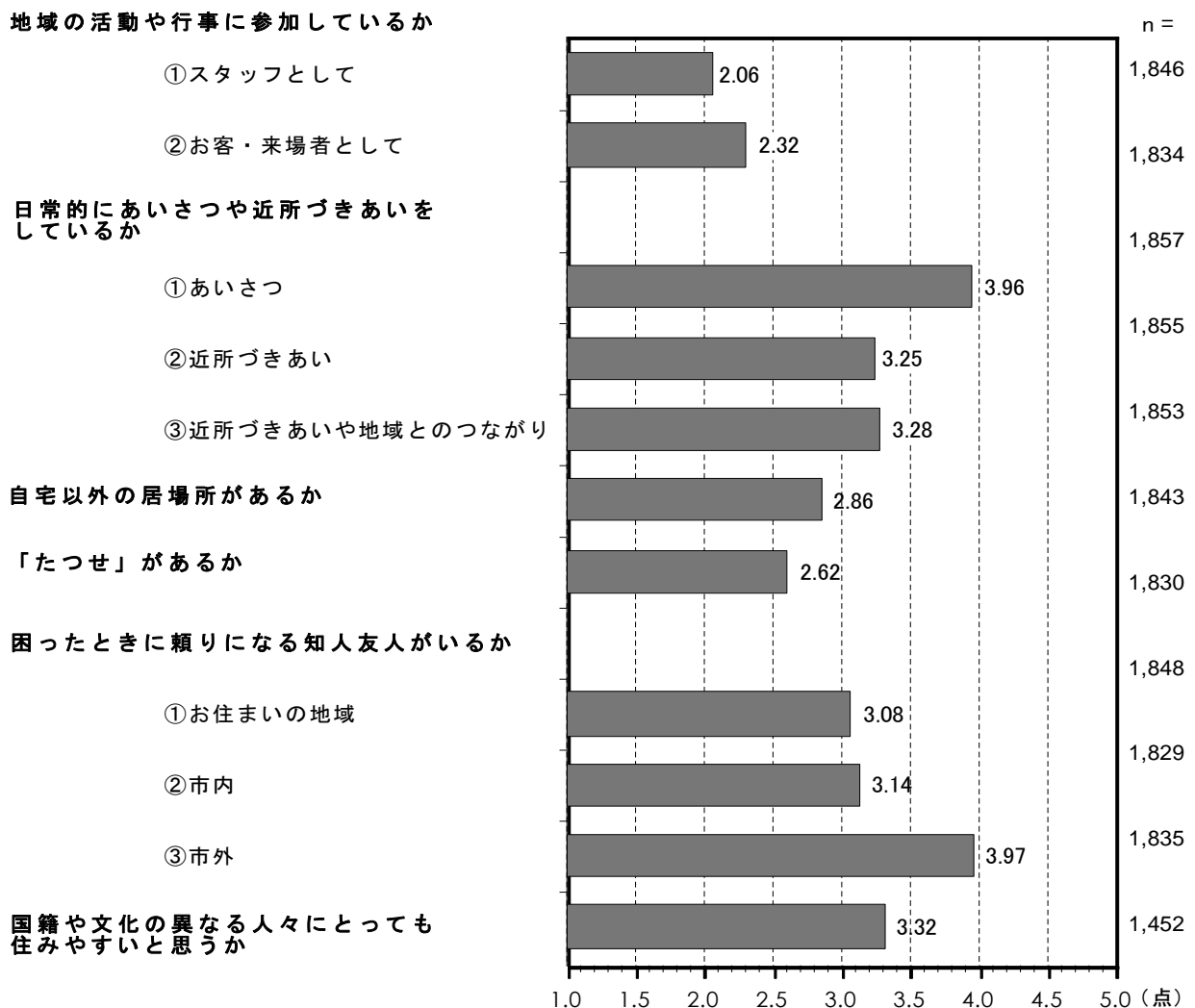
要点

日常的に「あいさつ」をしている回答者の評点は高いものの、地域を盛り上げていくための「地域の活動や行事に参加しているか」や、「たつせ」があるかの評点は低く、「人や地域のつながりについて」の分野は、他の分野に比較して全般的に評点が低くなっています。特に、地域活動や行事への参加、近所づきあいについては、20歳代以下や30歳代などの若年層の評点が低くなっています。また、「困ったときに頼りになる友人や知人がいるか」では、「市外」の評点が高くなっています。

全体

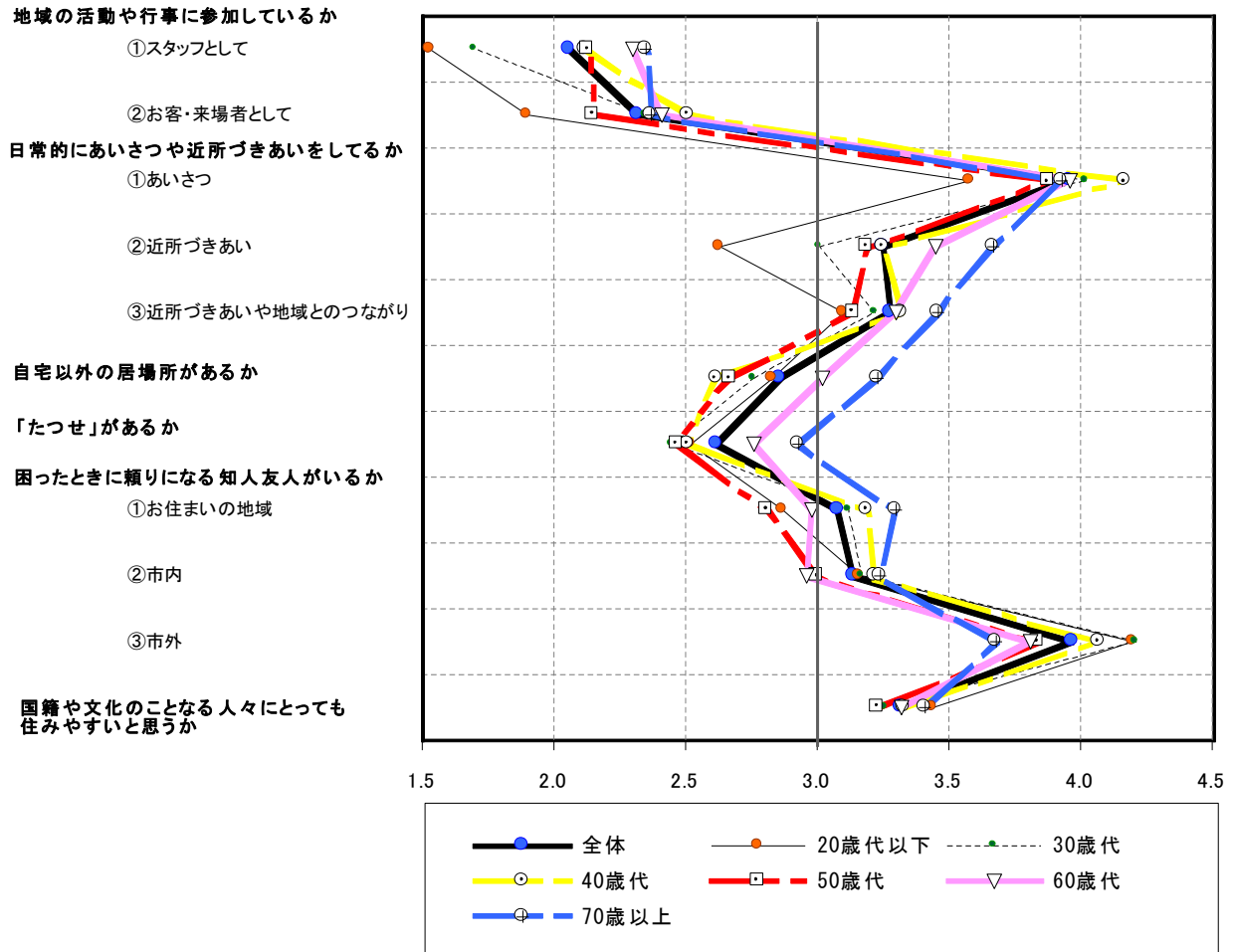
- 他の分野に比べると全般的に評点が低く、特に、「地域の活動や行事に参加しているか」における「スタッフとして」(2.06)や「お客・来場者として」(2.32)、「たつせ」があるか(2.62)、「自宅以外の居場所がある」(2.86)の評点などが低くなっています。
- 「困ったときに頼りになる友人や知人がいるか」については、「お住まいの地域」や「市内」に比べて「市外」の評点の方が高くなっています(図4-4-1)。

図4-4-1 人や地域のつながりについて（評点）



○「地域の活動や行事に参加しているか」や「近所づきあい」については、20歳代以下や30歳代など若年層よりも60歳代や70歳以上の高齢者層の評点の方が高くなっています（図4-4-2）。

図4-4-2 年齢別「人や地域のつながりについて（評点）」



■調査隊からの提案■

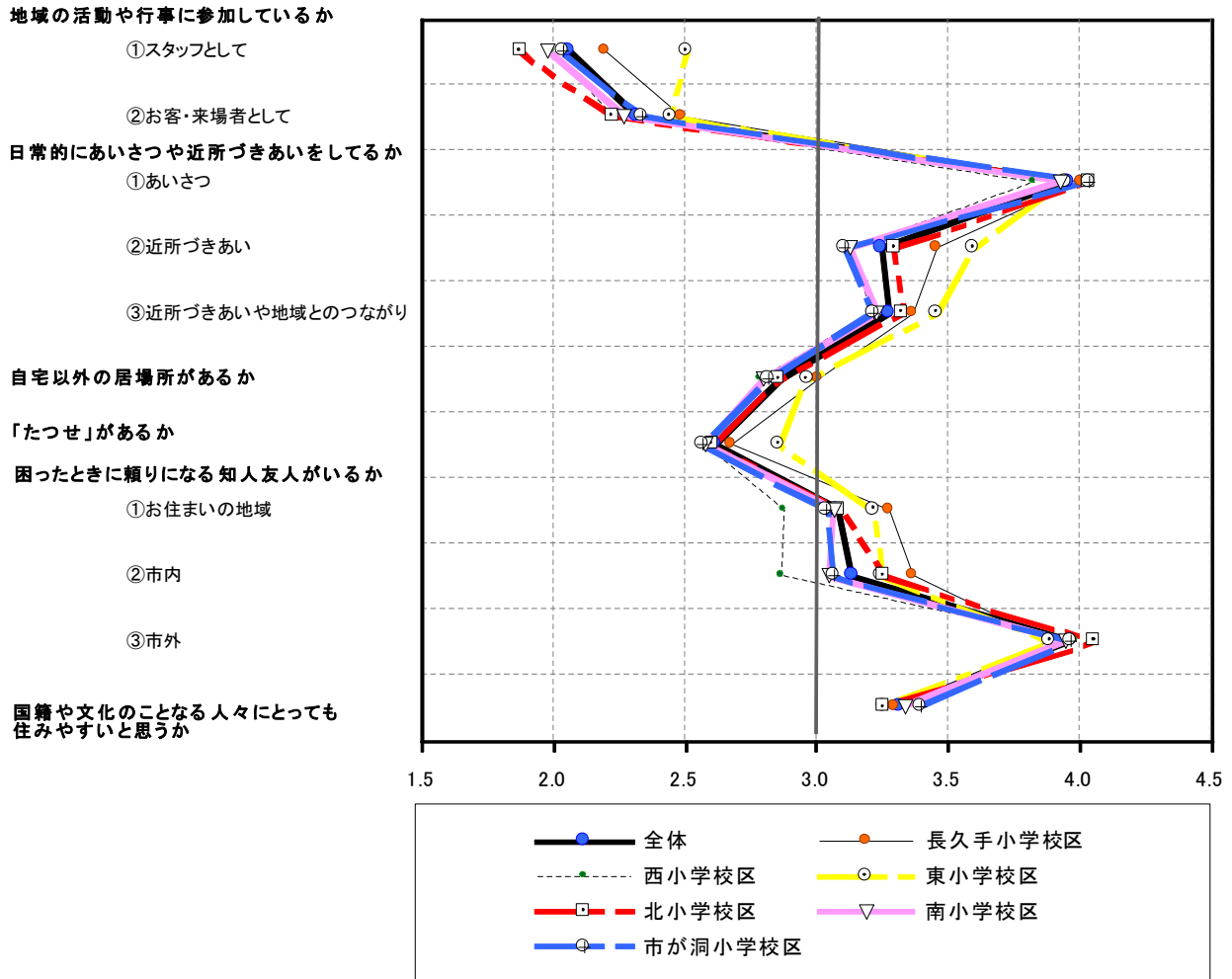
地域イベントにスタッフとして、来客として参加している人は共に低くなっています。参加している人が参加していない人に直接声をかけるのが一番ですが、フェイスブック等SNSを活用するのも有効だと思います。また、誘われた人に「〇〇さんに誘われて参加しました」カードを配布するなど、声掛けしやすい雰囲気をつくっていったらいいと思います。

■調査隊からの提案■

困った時に気軽に相談できる人が身近にいない市民が少なくありません。若い人たちが知り合うためのサロンを！

- 西小学校区では、「困ったときに頼りになる友人や知人がいるか」について「お住まいの地域」(2.88)や「市内」(2.87)の評点が、他の小学校区に比べて若干低くなっています。
- 東小学校区では、「地域の活動や行事に参加しているか」について「スタッフとして」の評点が2.51となっており、他の校区と比較すると高くなっています(図4-4-3)。

図4-4-3 小学校区別「人や地域のつながりについて(評点)」



○【問 2】大事だと思う分野では「4. つながり」の割合が低く (P.22)、さらに【問 13】福祉分野「(1) 地域の助け合い」(P. 80) 及び【問 18】地域の役割「地域コミュニティへの参加意思」(P. 98) においても評点が低くなっています。これらの結果は、この分野の評点が比較的低下していることとも関連した結果となっています。(図4-4-1)。

■調査隊からの提案■

日常的にあいさつしている人は比較的多くなっています。全市的に「あいさつ運動」のキャンペーンを行って、定着させていくとよいと思います。

(1) 地域を盛り上げていく活動や行事への参加－1 (問11(1)-1)

問11(1)-1 過去3年以内に、お住まいの地域を良くしたり、地域を盛り上げたりしていくための活動や行事に参加していますか。【〇は1つ】

①スタッフとして

(2) 地域を盛り上げていく活動や行事への参加－2 (問11(1)-2)

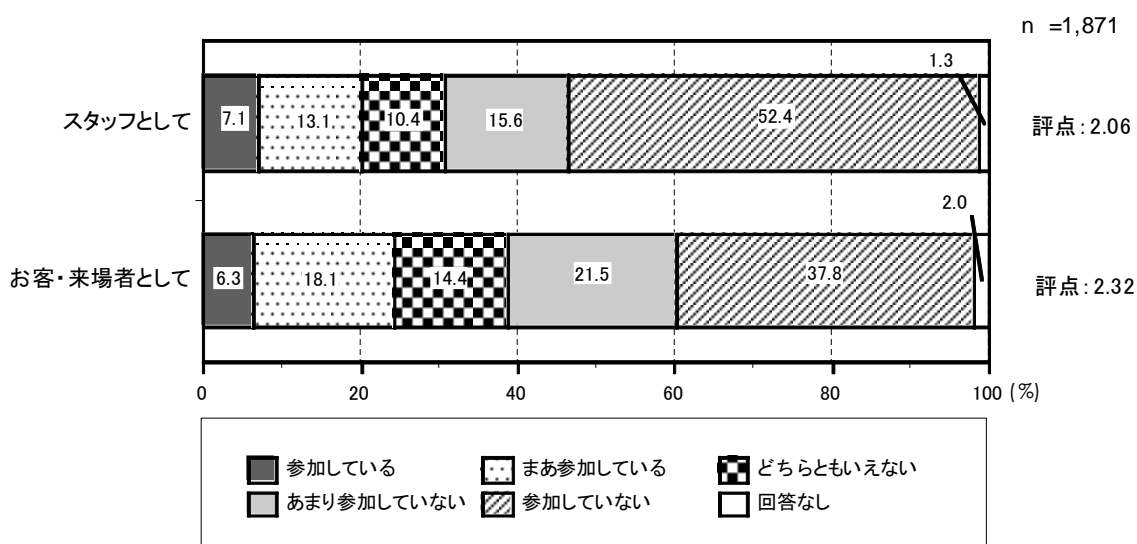
問11(1)-2 過去3年以内に、お住まいの地域を良くしたり、地域を盛り上げたりしていくための活動や行事に参加していますか。【〇は1つ】

②お客・来場者として

○「地域の活動や行事に参加しているか」について、スタッフとして「参加したことがある」は20.2%、「参加していない」は52.4%で、参加している回答者の割合は低くなっています。

○お客・来場者として「参加したことがある」は24.4%にとどまり、「スタッフとして」よりも4.2%は多いものの、それほど大きな違いは見られません(図4-4-4)。

図4-4-4 地域を盛り上げていく活動や行事への参加



(3) あいさつや近所づきあい—1 (問11 (2) -1)

問11 (2) -1 日常的にあいさつや近所づきあいをしていますか。また、近所づきあいや地域とのつながりに満足していますか。【〇は1つ】

① あいさつ

(4) あいさつや近所づきあい—2 (問11 (2) -2)

問11 (2) -2 日常的にあいさつや近所づきあいをしていますか。また、近所づきあいや地域とのつながりに満足していますか。【〇は1つ】

② 近所づきあい

(5) あいさつや近所づきあい—3 (問11 (2) -3)

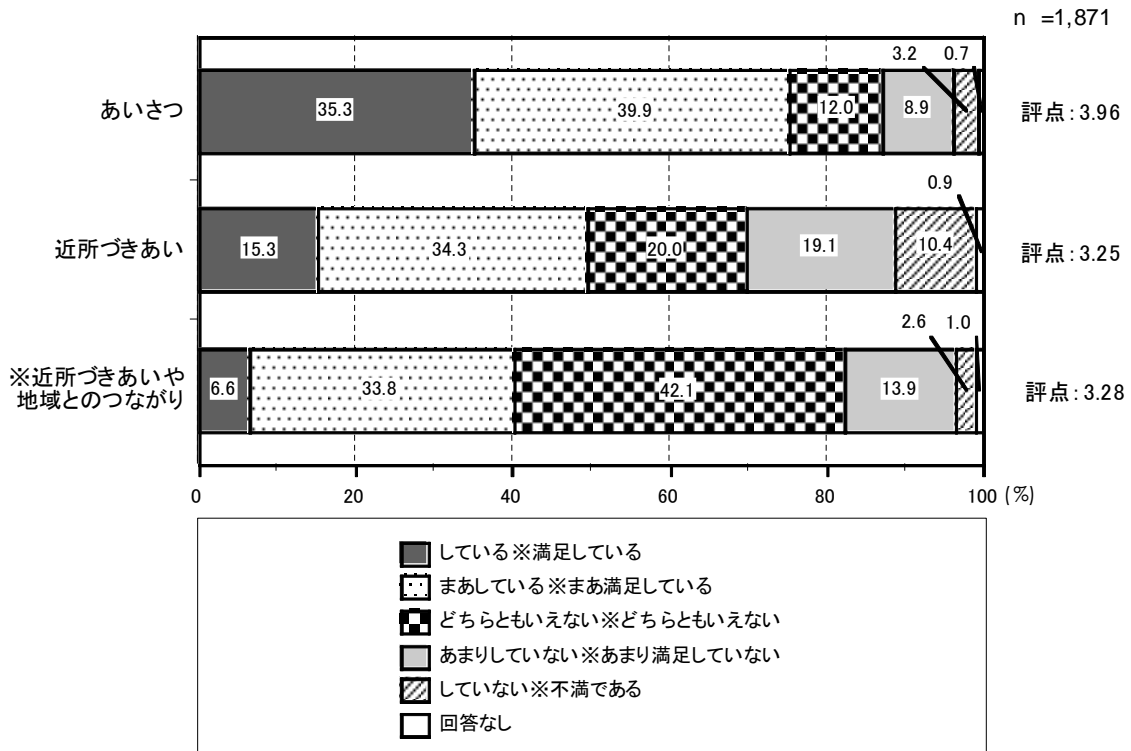
問11 (2) -3 日常的にあいさつや近所づきあいをしていますか。また、近所づきあいや地域とのつながりに満足していますか。【〇は1つ】

③ 近所づきあいや地域とのつながり

○日常的な「あいさつ」については、「している」と「まあしている」を合わせると 75.2%と高くなっています。一方で「近所づきあい」については、「している」と「まあしている」を合わせた割合が 49.6%と、ほぼ半数にとどまっています。

○また、「近所づきあいや地域とのつながり」の満足度については、「満足している」は 6.6%と低く、「まあ満足している」(33.8%) を合わせても 40.4%となっています (図 4-4-5)。

図 4-4-5 あいさつや近所づきあい

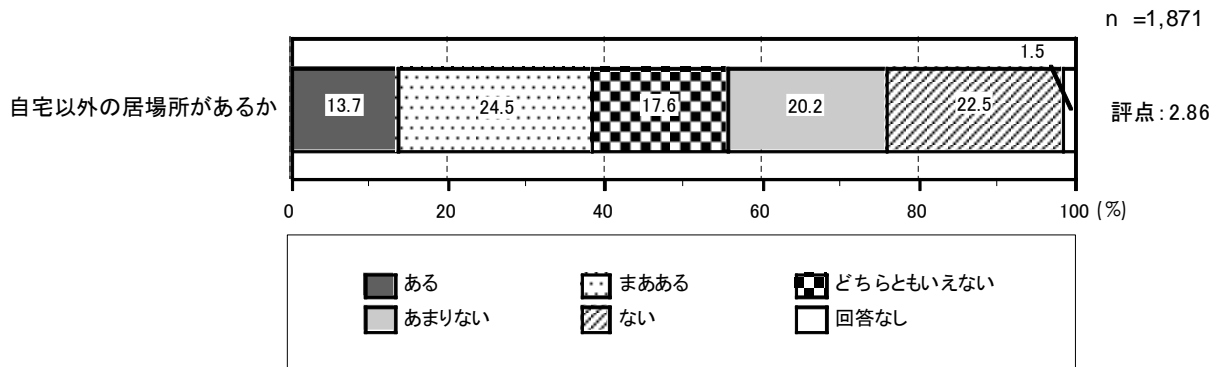


(6) 自宅以外の居場所 (問 11 (3))

問 11 (3) お住まいの地域には、自宅以外の居場所がありますか (集える場所、行きつけのお店など)。【〇は1つ】

○「まあある」が24.5%と最も高く、「ある」(13.7%) と合わせると38.2%の回答者が自宅以外の地域の居場所があると回答しています。一方で、「あまりない」(20.2%) と「ない」(22.5%) と合わせると42.7%となり、自宅以外の居場所がないと答えた回答者の割合の方が高くなっています (図 4-4-6)。

図 4-4-6 自宅以外の居場所



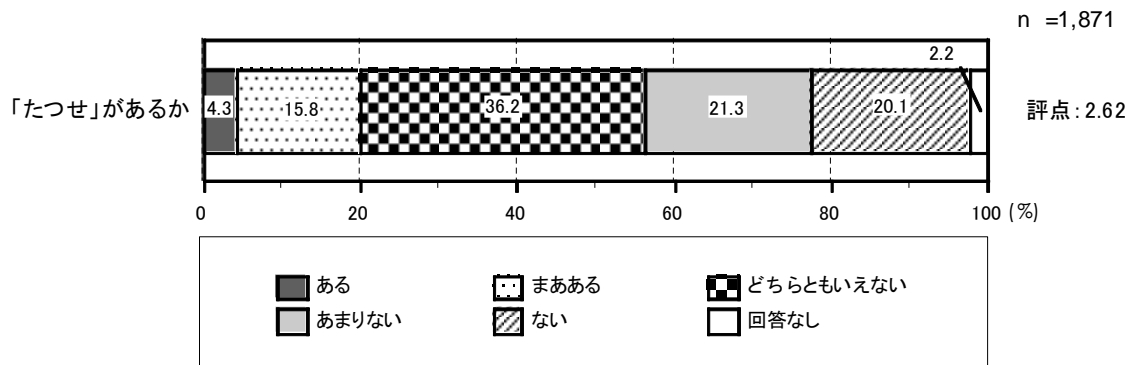
(7) 「たつせ」があるか (問 11 (4))

問 11 (4) お住まいの地域であなたは「たつせ」がありますか。【〇は1つ】

○「どちらともいえない」が36.2%で最も高く、次いで「あまりない」(21.3%) や「ない」(20.1%) が高くなっています。

○「ある」は4.3%と低く、「まあある」(15.8%) と合わせても20.1%となっています (図 4-4-7)。

図 4-4-7 「たつせ」があるか



調査隊

○「たつせ」がないという状況には、寂しさを感じる。

(8) 困ったときに頼りになる相談相手—1 (問11 (5) -1)

問11 (5) -1 困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。【○はそれぞれ1つ】

① 住まいの地域

(9) 困ったときに頼りになる相談相手—2 (問11 (5) -2)

問11 (5) -2 困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。【○はそれぞれ1つ】

② 市内

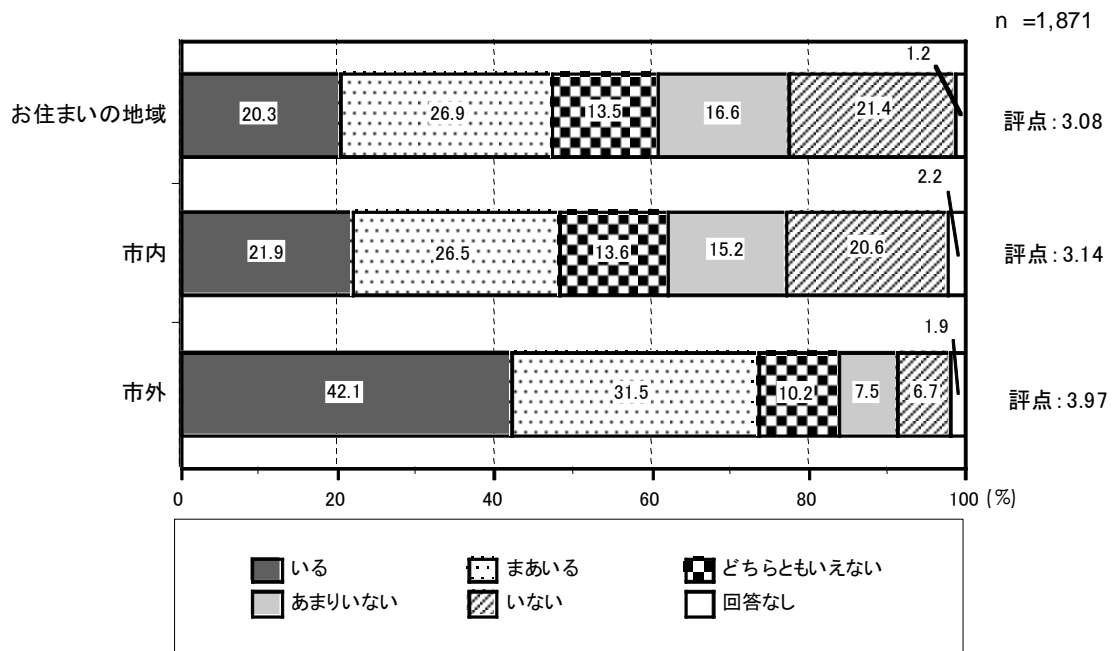
(10) 困ったときに頼りになる相談相手—3 (問11 (5) -3)

問11 (5) -3 困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。お住まいの地域、市内、市外それぞれについてお答えください。【○はそれぞれ1つ】

③ 市外

○「困ったときに頼りになる友人や知人がいるか」については、「お住まいの地域」では「いる」(20.3%)と「まあいる」(26.9%)の合計が47.2%、「市内」では合計48.4%、「市外」では合計73.6%となっており、「市外」の割合が最も高くなっています(図4-4-8)。

図4-4-8 困ったときに頼りになる相談相手

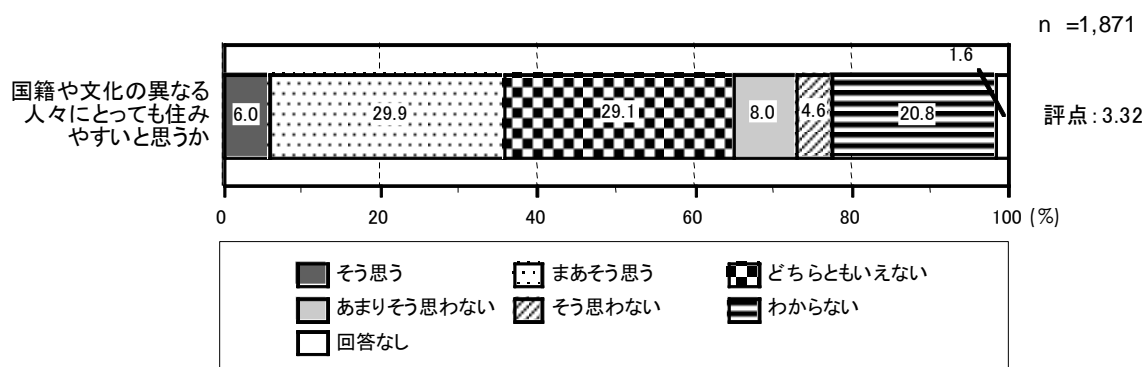


(11) 国籍・文化の異なる人にとっての住みやすさ (問11 (6))

問11 (6) 長久手市は、国籍や文化の異なる人々にとっても住みやすいと思いますか。【〇は1つ】

- 「国籍・文化の異なる人にとっての住みやすさ」については、「まあそう思う」が29.9%と最も高く、「そう思う」(6.0%) と合わせて35.9%の回答者が住みやすいと考えています。
- 一方で、「どちらともいえない」(29.1%) や「わからない」(20.8%) も多く、こうした問題に関する回答者の関心や認知度が低いことが考えられます (図4-4-9)。

図4-4-9 国籍・文化の異なる人にとっての住みやすさ



4-5 防災・防犯について（問12）

要点

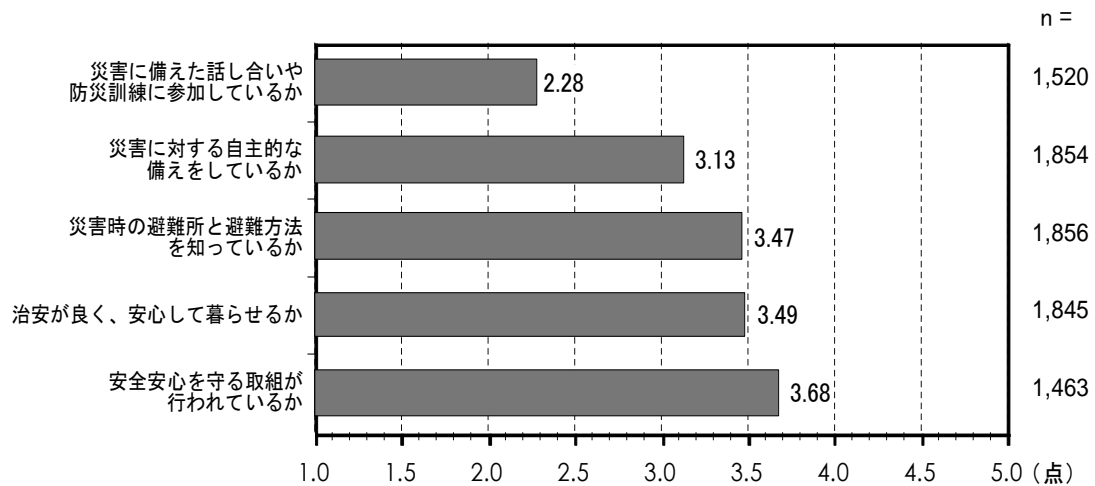
防災・防犯について「安全安心を守る取組が行われているか」の評点が最も高い一方で、「災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか」の評点が、他の項目に比べて低くなっています。

また、「災害時に対する自主的な備えをしているか」や「災害時の避難場所と避難方法を知っているか」では、20歳代以下の評点が低くなっています。

全体

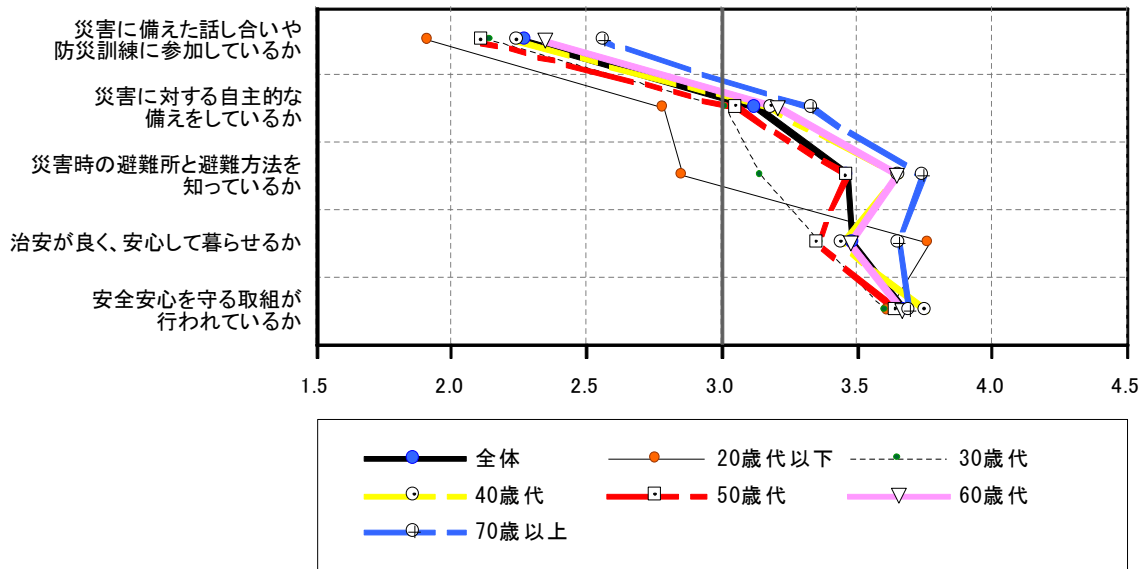
- 「安全安心な取組が行われているか」の評点が3.68と最も高く、次いで「治安がよく、安心して暮らせるか」（3.49）や「災害時の避難場所と避難方法を知っているか」（3.47）の順で高くなっています。
- 一方で、「災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか」の評点が2.28と最も低くなっています（図4-5-1）。

図4-5-1 防災・防犯について（評点）



- 「災害時の避難所と避難方法を知っているか」において年齢差がみられます。具体的には、20 歳代以下 (2.86) や30 歳代 (3.15) といった若い世代の評点が低い一方で、70 歳代 (3.75) や60 歳代 (3.65) の評点が高くなっています。
- 「安全安心を守る取組が行われているか」の項目では、年齢差はほとんどみられません (図 4-5-2)。

図 4-5-2 年齢別「防災・防犯について (評点)」

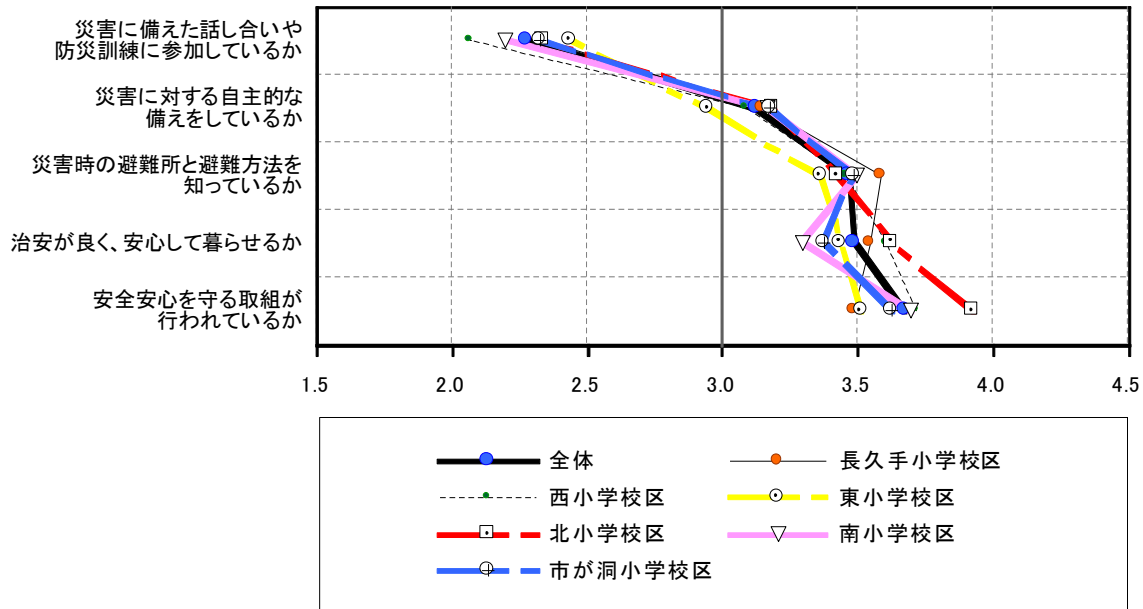


小学校区別

○全般的に、小学校区別に大きな違いはみられません。

○ただし、北小学校区では「安全安心を守る取組が行われているか」の評点が3.93で、他の小学校区よりも若干高くなっています（図4-5-3）。

図4-5-3 小学校区別「防災・防犯について（評点）」



調査隊

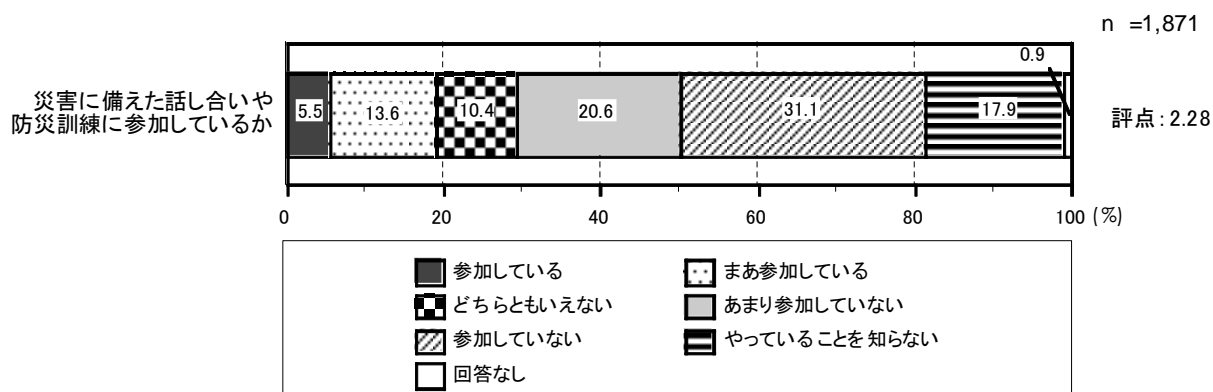
○「災害に備えた話し合いや防災訓練に参加しているか」は、「地域活動への参加」(P. 66)や「地域の助け合い」(P. 80)、「地域コミュニティへの参加」(P. 98)などのように、参加の有無を尋ねる他の設問と同様に評点が低くなっており、地域における各種活動への参加はあまり積極的でない状況が見受けられます（図4-5-1）。

(1) 災害に備えた話し合いや防災訓練への参加 (問 12 (1))

問 12 (1) お住まいの地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に参加していますか。【〇は1つ】

○「参加していない」が 31.1%で最も多く、次いで「あまり参加していない」(20.6%) や「やっていることを知らない」(17.9%) が多くなっており、参加しているのは 19.1%にとどまっています (図 4-5-4)。

図 4-5-4 災害に備えた話し合いや防災訓練への参加



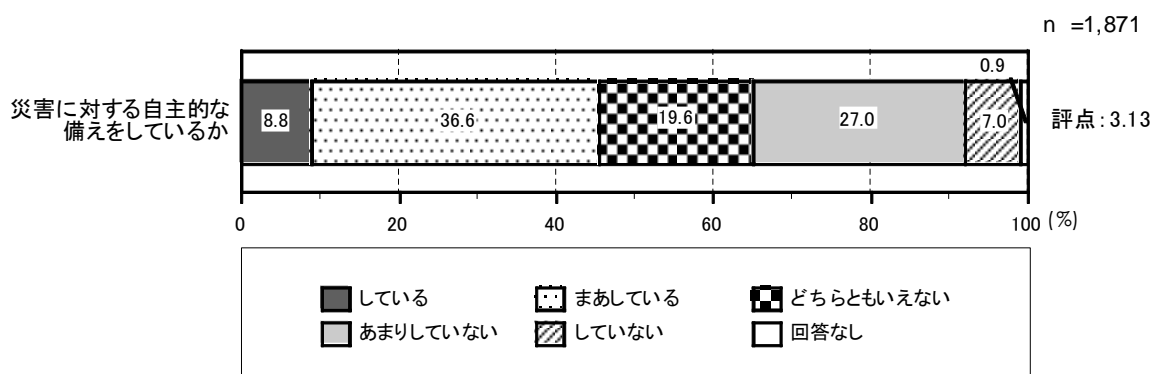
(2) 家庭内での災害に対する自主的備え (問 12 (2))

問 12 (2) あなたの家庭では、災害に対する自主的な備えをしていますか。【〇は1つ】

○「まあしている」が 36.6%と最も多く、「している」(8.8%) と合わせて 45.4%が家庭での自主的な災害対策をしていることがわかります。

○一方で、「あまりしていない」(27.0%) と「していない」(7.0%) を合わせると 34.0%あり、「どちらともいえない」も 19.6%あります。今後も、家庭における災害対策の必要性を普及啓発していくことが必要であるといえます (図 4-5-5)。

図 4-5-5 家庭内での災害に対する自主的備え

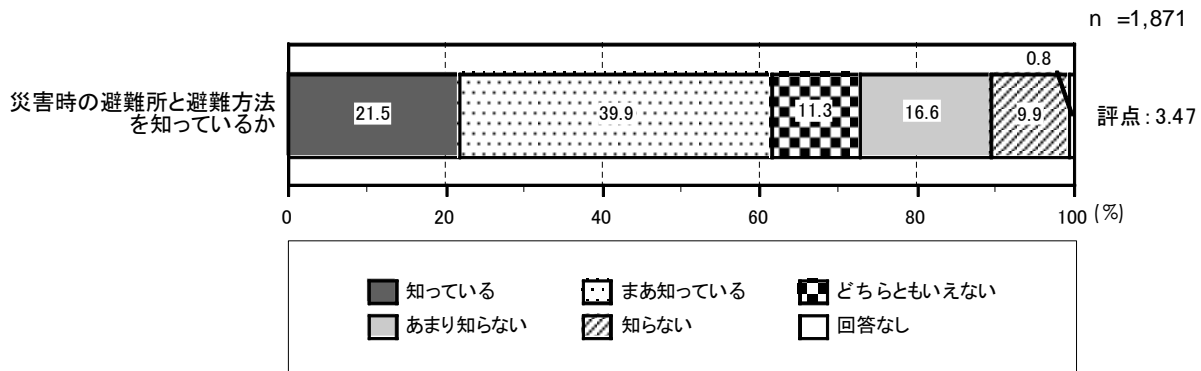


(3) 災害時における避難場所、避難方法の周知 (問 12 (3))

問 12 (3) 災害時の避難所と避難方法を知っていますか。【〇は1つ】

- 「まあ知っている」が39.9%と最も多く、次いで「知っている」が21.5%となっており、全体の約6割が災害時の避難場所や避難方法を知っていると回答しています。
- 一方で、「あまり知らない」(16.6%) や「知らない」(9.9%) を合わせると26.5%となり、全体の約4分の1を占めています (図 4-5-6)。

図 4-5-6 災害時における避難場所、避難方法の周知

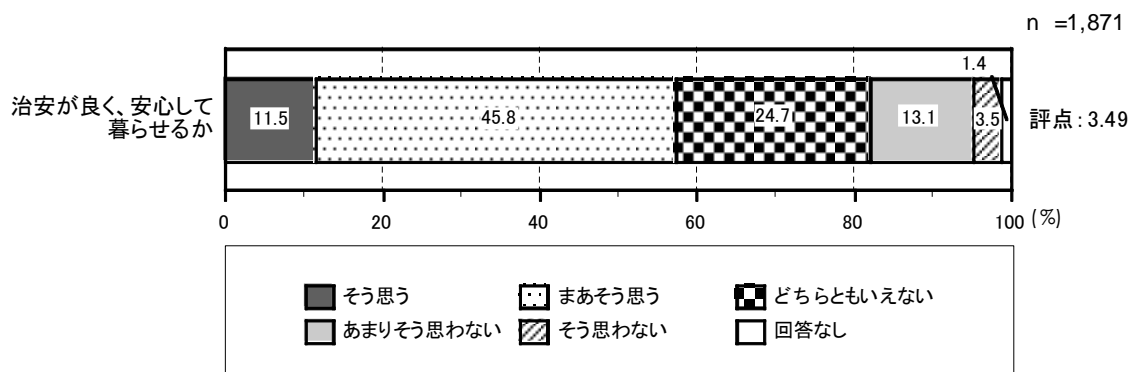


(4) 地域における治安 (問 12 (4))

問 12 (4) お住まいの地域は、治安が良く、安心して暮らせますか。【〇は1つ】

- 「まあそう思う」が45.8%と最も高く、「そう思う」(11.5%) と合わせると57.3%の回答者が治安がよいと感じています (図 4-5-7)。

図 4-5-7 地域における治安

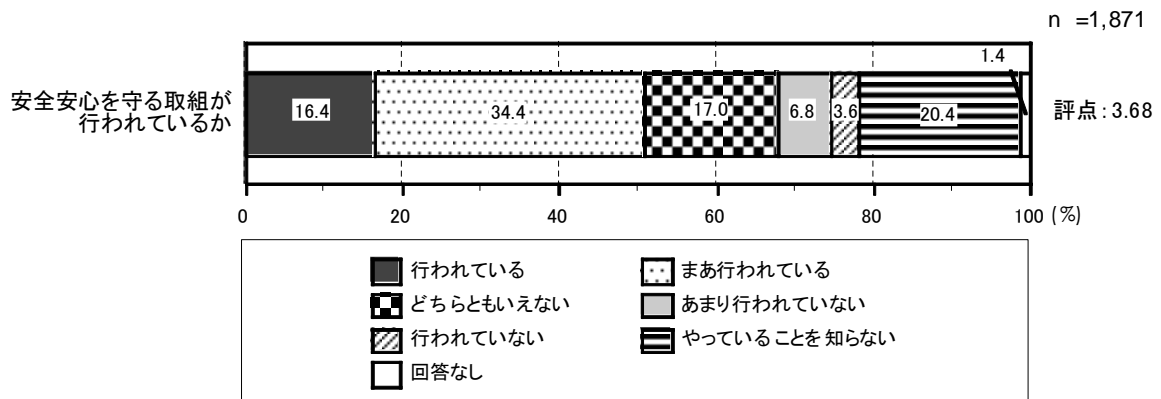


(5) 地域における安全安心の取り組み (問 12 (5))

問 12 (5) お住まいの地域では、住民による登下校の見守り、夜間パトロールや防犯灯設置など、安全安心を守る取組が行われていますか。【〇は1つ】

○地域における安全安心の取組が「まあ行われている」と考える回答者の割合が 34.4%で最も多く、「行われている」(16.4%) と合わせると約半数の 50.8%が“行われている”と認識しています。
○一方で「やっていることを知らない」が 20.4%みられます (図 4-5-8)。

図 4-5-8 地域における安全安心の取り組み



4-6 福祉について (問13)

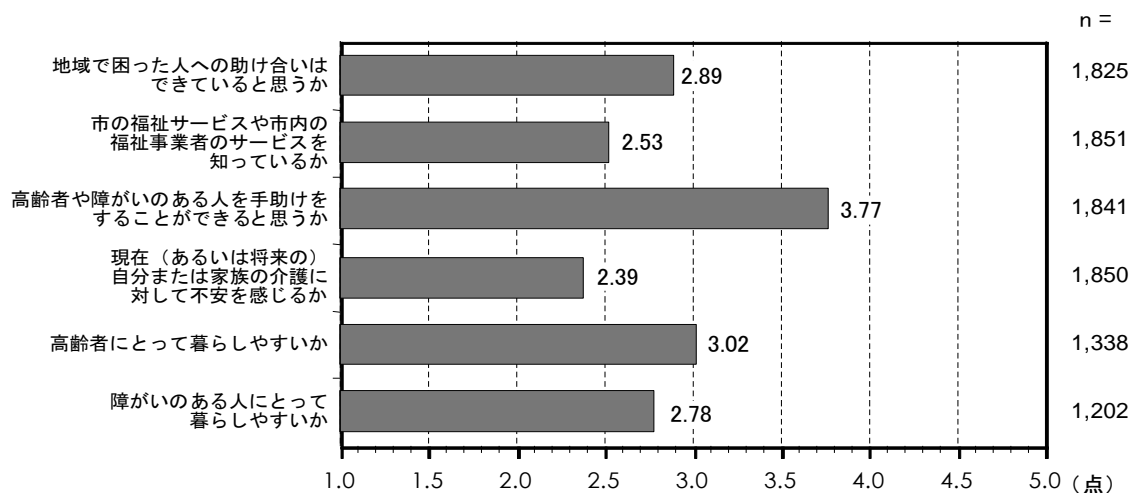
要点

「高齢者や障がいのある人を手助けすることができると思うか」の評点が最も高い一方で、「現在（あるいは将来）自分または家族の介護に対して不安を感じるか」や「市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか」は他の項目に比べて低くなっています。福祉サービスに関する認識不足の状況と合わせて、介護への不安を感じている回答者が多いことがわかります。

全体

- 「高齢者や障がいのある人を手助けすることができると思うか」の評点が 3.77 と最も高い一方で、「地域で困った人への助け合いはできていると思うか」の評点は 2.89 にとどまっています。
- また、「現在（あるいは将来）自分または家族の介護に対して不安を感じるか」(2.39) や「市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか」(2.53) と他の項目に比べて低くなっています (図 4-6-1)。

図 4-6-1 福祉について (評点)



調査隊

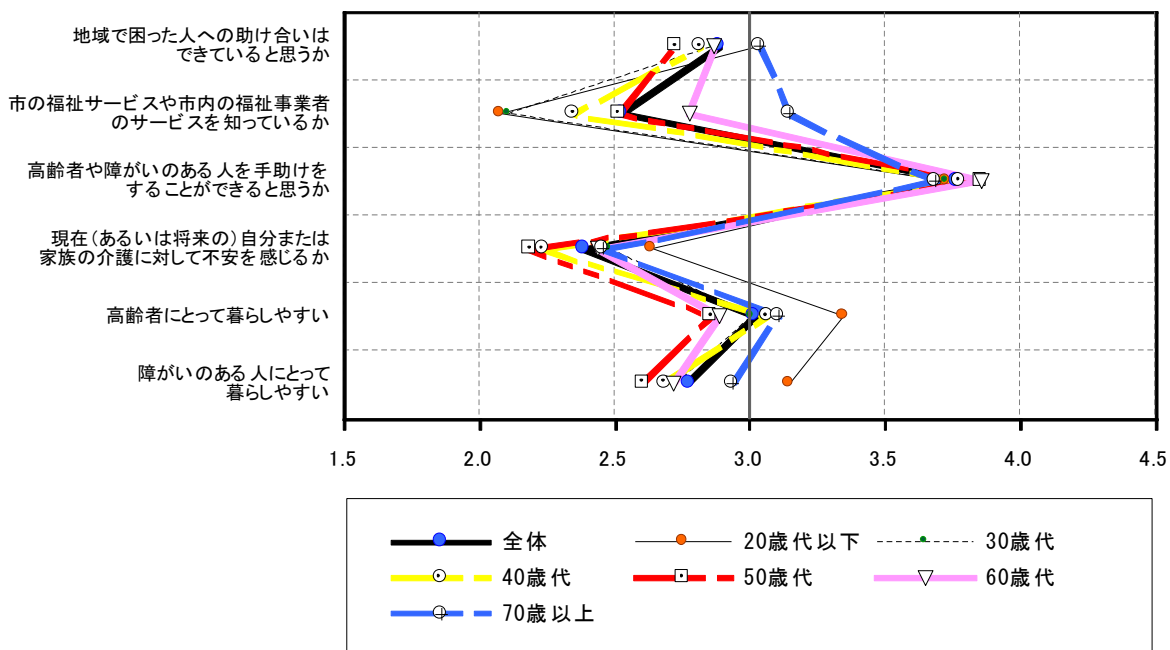
○福祉分野は他の分野に比べて評点が低いのが気になります (図 4-6-1)。

■調査隊からの提案■

市内の福祉サービスを知っている人が少ないという結果になっています。また、介護不安を抱く市民が少なくありません。福祉関連の事業所等をみんなで見学し、様々な介護福祉サービスや介護福祉施設を知る機会をつくってはどうか。参加者同士で不安に思っていることを共有する機会にもなると思います。

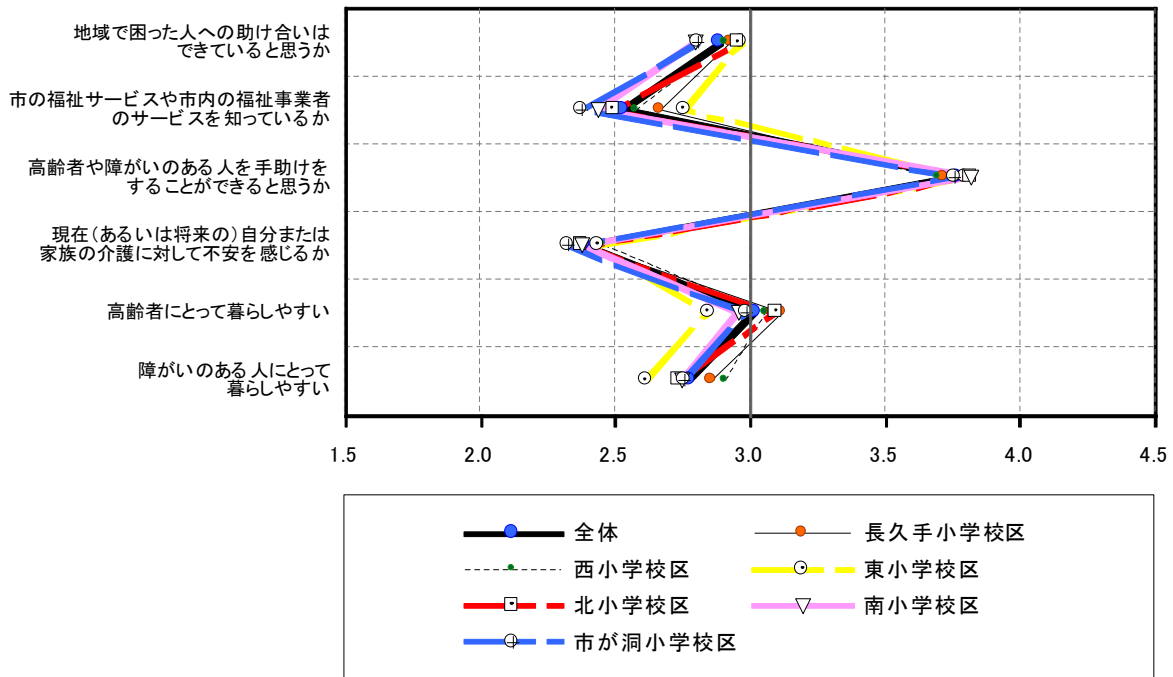
- 「市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っているか」において年齢差がみられます。具体的には、20歳代以下(2.08)や30歳代(2.11)といった若い世代の評点が低くなっているのに比べると、70歳代(3.15)の評点が高くなっています。
- また、「高齢者にとって暮らしやすい」「障がいのある人にとって暮らしやすい」では、いずれも20歳代以下の評点が他の年齢層よりも高くなっています(図4-6-2)。

図4-6-2 年齢別「福祉について(評点)」



○福祉分野に関する評点では、小学校区別による大きな違いはみられません（図4-6-3）。

図4-6-3 小学校区別「福祉について（評点）」



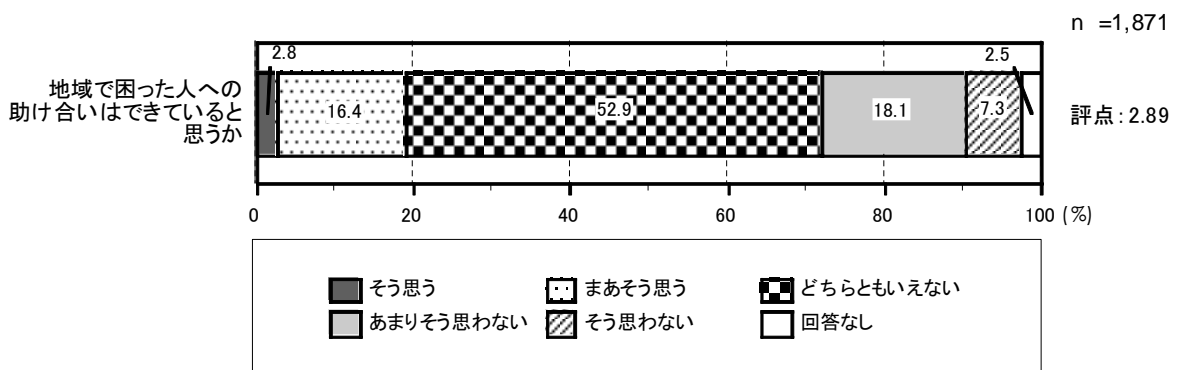
(1) 地域の助け合い (問 13 (1))

問 13 (1) お住まいの地域では、地域で困った人への助け合いはできていると思いますか。

【○は1つ】

○地域で困った人への助け合いができていると思うかについて、「そう思う」(2.8%)、「まあそう思う」(16.4%)の合計は19.2%と少なく、「どちらともいえない」が52.9%、「あまりそう思わない」(18.1%)、「そう思わない」(7.3%)の合計が25.4%と、地域での助け合いの意識は積極的であるとはいえない状況にあります(図4-6-4)。

図4-6-4 地域の助け合い

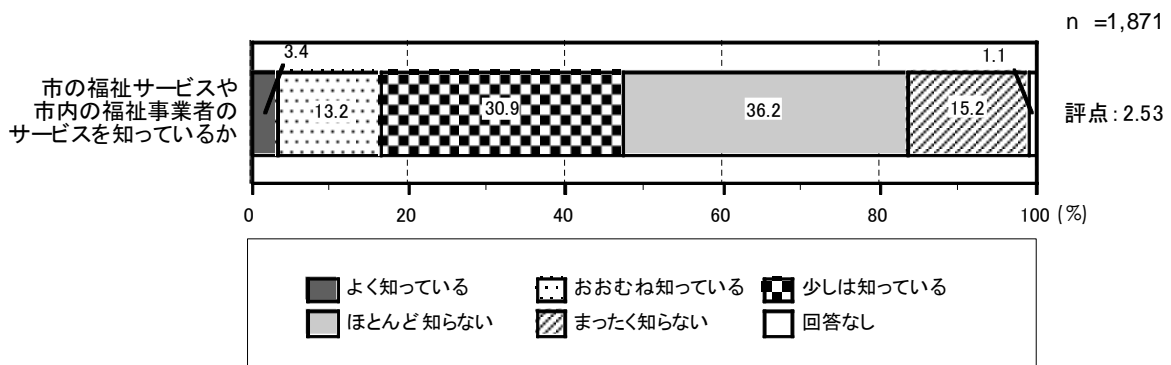


(2) 市・業者による福祉サービスの周知 (問 13 (2))

問 13 (2) 市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っていますか。【○は一つ】

○福祉サービスについて、「よく知っている」(3.4%)、「おおむね知っている」(13.2%)の合計は16.6%にとどまり、「少しは知っている」(30.9%)を合わせても半数弱となります。一方、「まったく知らない」(15.2%)、「ほとんど知らない」(36.2%)の合計は51.4%を占めており、今後も福祉に関する関心を高め、施策やサービスの内容を周知する必要があります(図4-6-5)。

図4-6-5 市・事業者による福祉サービスの周知

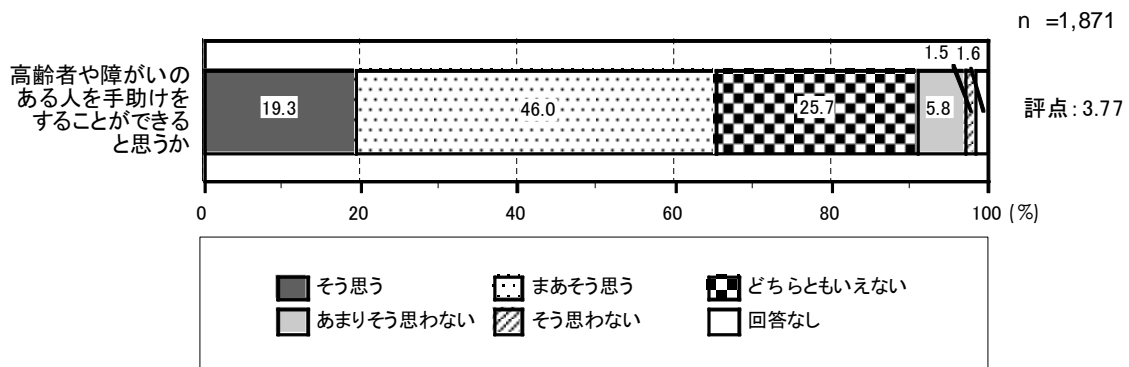


(3) 高齢者や障がい者を手助けできるか (問13 (3))

問13 (3) 高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人など、まちで困っている人がいるとき、手助けをすることができますか。【○は1つ】

○高齢者や障がい者などまちで困った人を見かけたとき手助けするかについて、「まあそう思う」が46.0%で最も高く、「そう思う」(19.3%)と合わせると65.3%を占めています。「そう思わない」(1.5%)、「あまりそう思わない」(5.8%)を合わせた7.3%を大きく上回っています。(図4-6-6)。

図4-6-6 高齢者や障がい者を手助けできるか

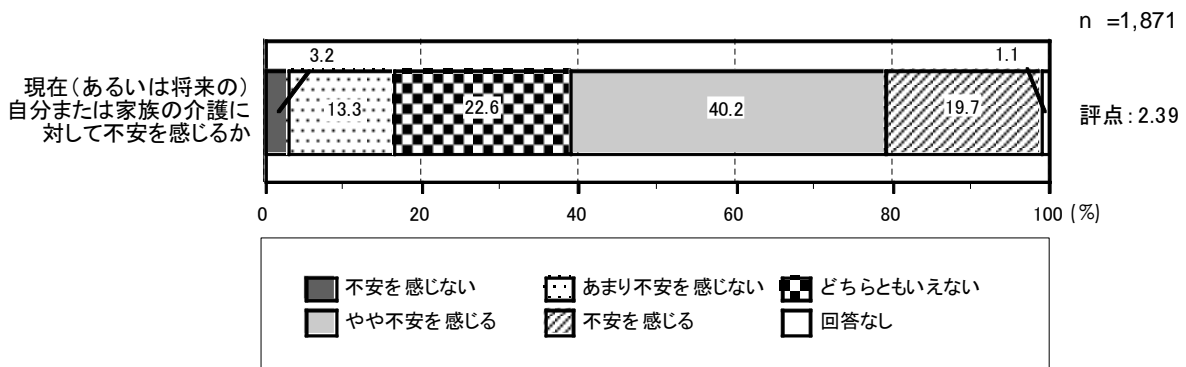


(4) 自分または家族の介護についての不安 (問13 (4))

問13 (4) 現在 (あるいは将来の)、自分または家族の介護に対して不安を感じますか。【○は1つ】

○現在 (あるいは将来の) 介護に対する不安の有無について、「やや不安を感じる」が40.2%と最も高く、「不安を感じる」(19.7%)と合わせると59.9%と高くなっています。「不安を感じない」(3.2%)、「あまり不安を感じない」(13.3%)の割合は合計で16.5%にとどまっています。

図4-6-7 自分または家族の介護についての不安



(5) 地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいかー1 (問13 (5) -1)

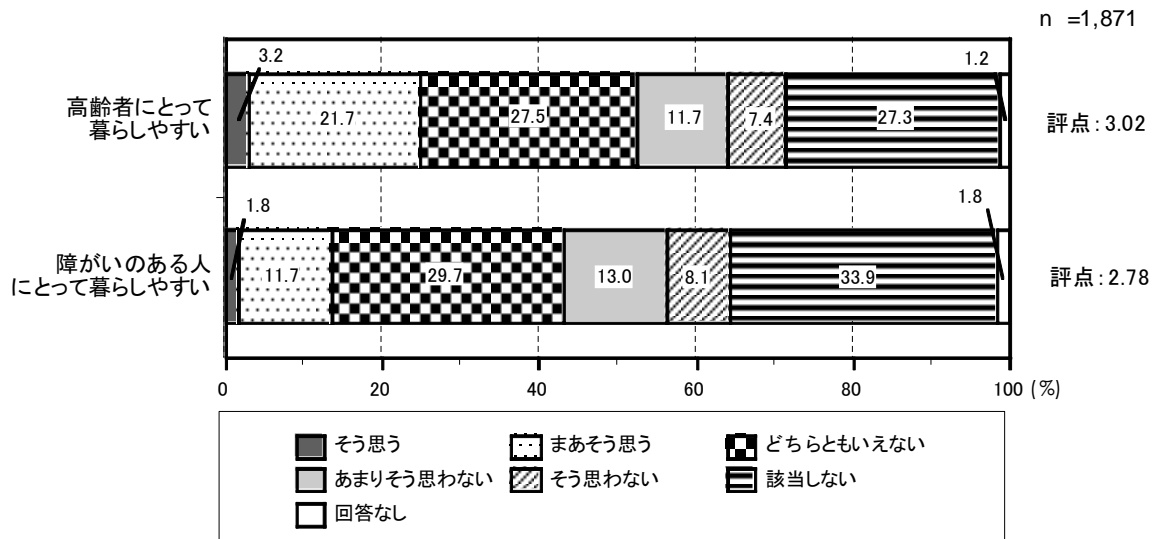
問13 (5) -1 お住まいの地域は、高齢者にとって暮らしやすい地域であると思いますか。障がいのある人にとって暮らしやすい地域であると思いますか。【〇は1つ】
①高齢者にとって暮らしやすい

(6) 地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいかー2 (問13 (5) -2)

問13 (5) -2 お住まいの地域は、高齢者にとって暮らしやすい地域であると思いますか。障がいのある人にとって暮らしやすい地域であると思いますか。【〇は1つ】
②障がいのある人にとって暮らしやすい

- 「高齢者や障がいのある人にとって暮らしやすい地域であるか」について、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は、高齢者24.9%と低く、障がい者では13.5%とさらに低い割合にとどまっています。
- ただし、「該当しない」(高齢者：27.3%、障がい者：33.9%)を除けば、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は、高齢者では34.3%に相当し、障がい者でも20.4%に相当します。
- 同様に「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計は、「該当しない」を除けば、高齢者では26.3%、障がい者で31.9%に相当します。
- したがって、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた割合は、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた割合よりも、高齢者では8.0ポイント上回っていることに相当する一方で、障がい者では11.5ポイント下回っていることに相当することとなります(図4-6-8)。

図4-6-8 地域が高齢者・障がい者にとって暮らしやすいか



4-7 文化・生涯学習について（問14）

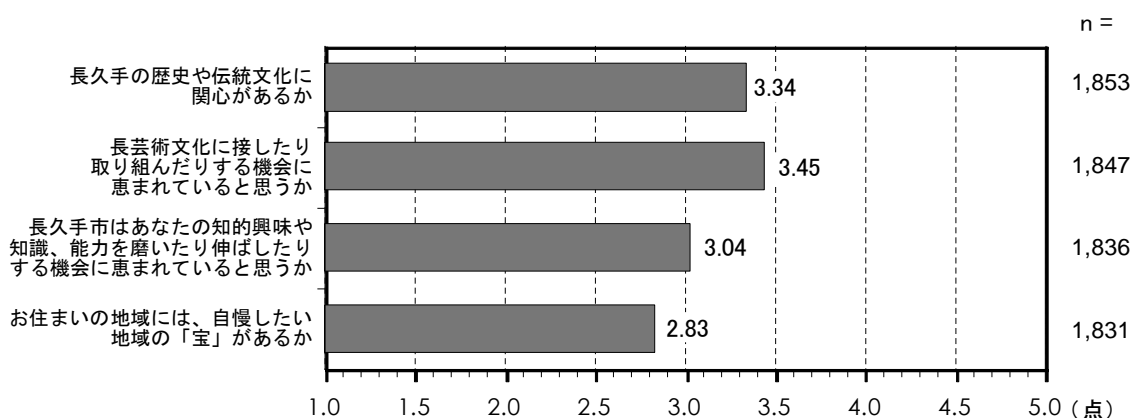
要点

「長久手市は芸術文化に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思うか」の評点が最も高い一方で、「お住まいの地域には、自慢したい「宝」があるか」の評点が他の項目に比べて低くなっています。また、「長久手市はあなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会に恵まれていると思うか」の評点は、歴史や伝統文化への関心、芸術文化に親しむ機会と比べて低くなっています。

全体

- 「長久手市は芸術文化に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思うか」の評点が3.45と最も高い一方で、「お住まいの地域には、自慢したい「宝」があるか」の評点が2.83と低くなっています。
- 「長久手市はあなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会に恵まれていると思うか」の評点も3.04と他の項目と比べると若干低くなっています（図4-7-1）。

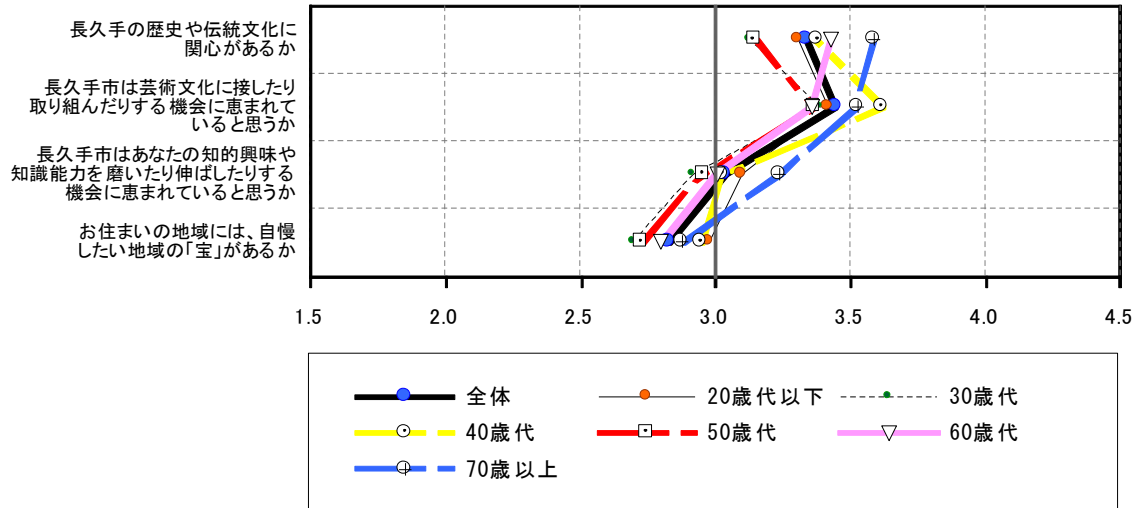
図4-7-1 文化・生涯学習について（評点）



年齢別

○30歳代と50歳代の評点が全体的に比べて若干低くなっていますが、年齢別による大きな違いはみられません（図4-7-2）。

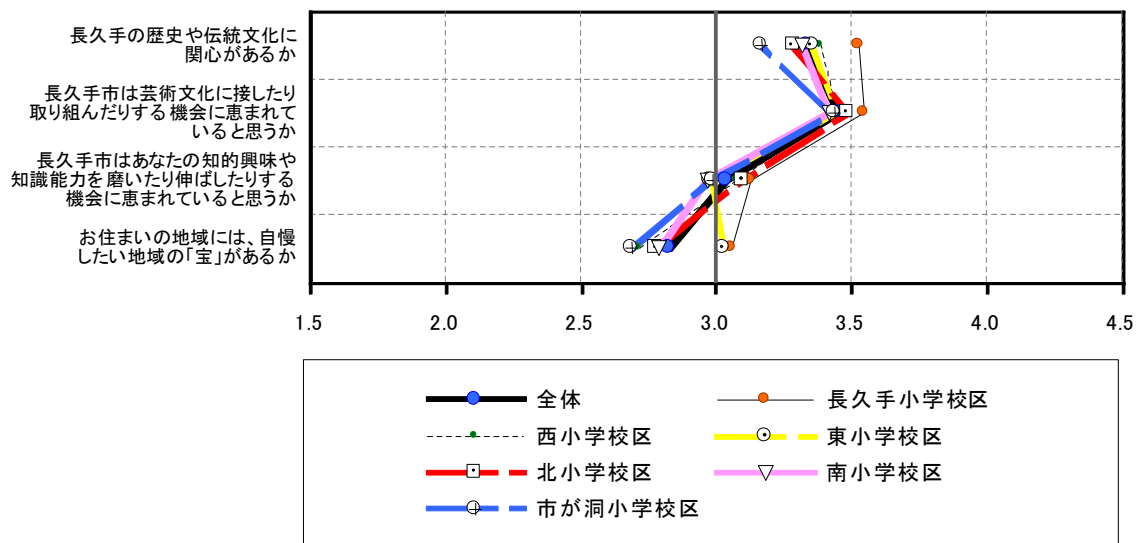
図4-7-2 年齢別「文化・生涯学習について（評点）」



小学校区別

○小学校区別に見ても、全体と比べて大きな違いは見られません。
○ただし、長久手小学校区がすべての項目で全体よりも評点が高く、自慢したい地域の「宝」は東小学校区でも高くなっています。市が洞小学校区は、歴史・伝統文化への関心が最も低いといった傾向もみられます（図4-7-3）。

図4-7-3 小学校区別「文化・生涯学習について（評点）」

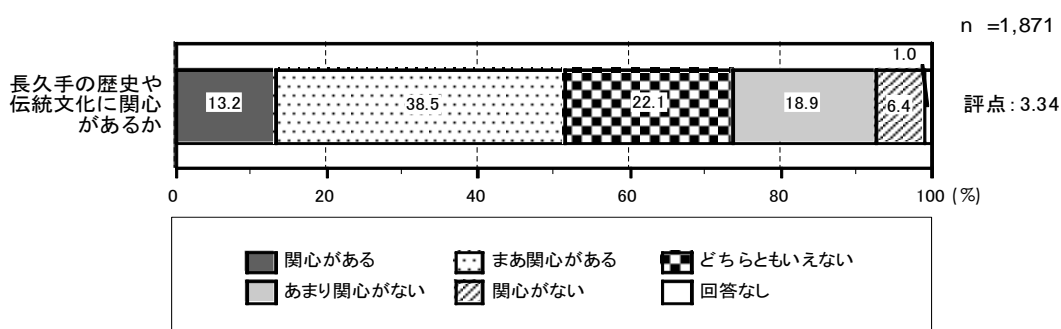


(1) 伝統・文化への関心 (問 14 (1))

問 14 (1) 長久手の歴史や伝統文化（「小牧・長久手の戦い」の地になったことや地域の昔話、棒の手等のお祭りなど）に関心がありますか。【〇は1つ】

○伝統・文化への関心は、「まあ関心がある」が 38.5%と最も高く、「関心がある」(13.2%) と合わせた割合は 51.7%で、「あまり関心がない」(18.9%) 及び「関心がない」(6.4%) を合わせた 25.3%より高くなっています (図 4-7-4)。

図 4-7-4 伝統・文化への関心

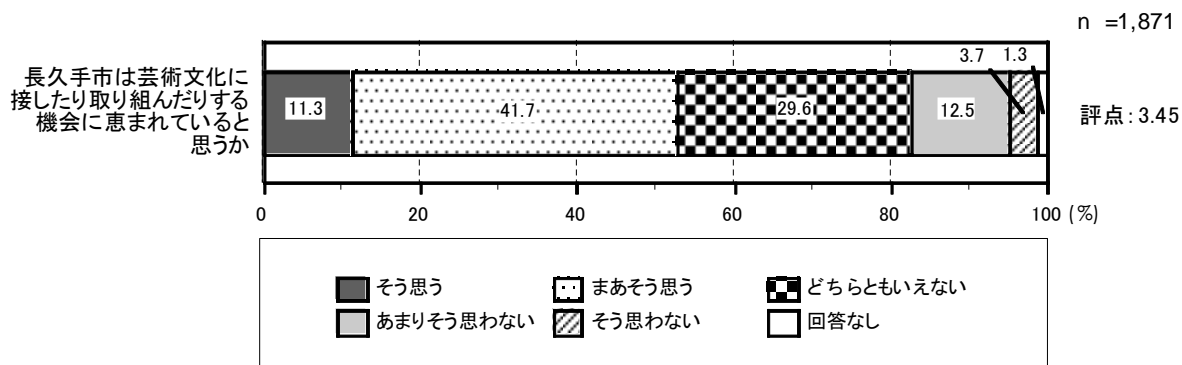


(2) 芸術文化に接する機会 (問 14 (2))

問 14 (2) 長久手市は、芸術文化（演劇やコンサート、美術展など）に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思いますか。【〇は1つ】

○「芸術文化に接する機会に恵まれているか」について、「まあそう思う」が 41.7%で最も高く、「そう思う」(11.3%) と合わせた割合は 53.0%で、「あまりそう思わない」(12.5%) 及び「そう思わない」(3.7%) を合わせた 16.2%より高くなっています (図 4-7-5)。

図 4-7-5 芸術文化に接する機会

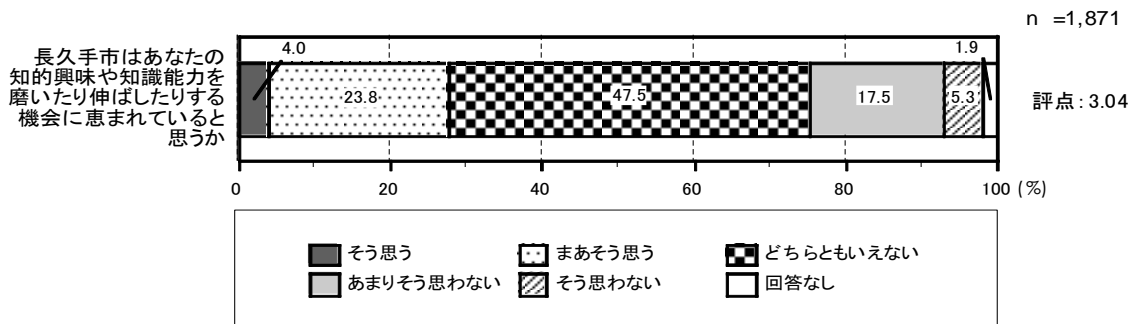


(3) 知識・能力を伸ばす機会 (問 14 (3))

問 14 (3) 長久手市は、あなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会（生涯学習活動を行う機会）に恵まれていると思いますか。【〇は1つ】

- 「自己の興味や知識・能力を伸ばす機会に恵まれているか」について、「どちらともいえない」の 47.5% が最も高くなっています。
- 「そう思う」(4.0%)、「まあそう思う」(23.8%) の合計は 27.8% で、「あまりそう思わない」(17.5%) 及び「そう思わない」(5.3%) の合計 22.8% より若干多くなっています (図 4-7-6)。

図 4-7-6 知識・能力を伸ばす機会

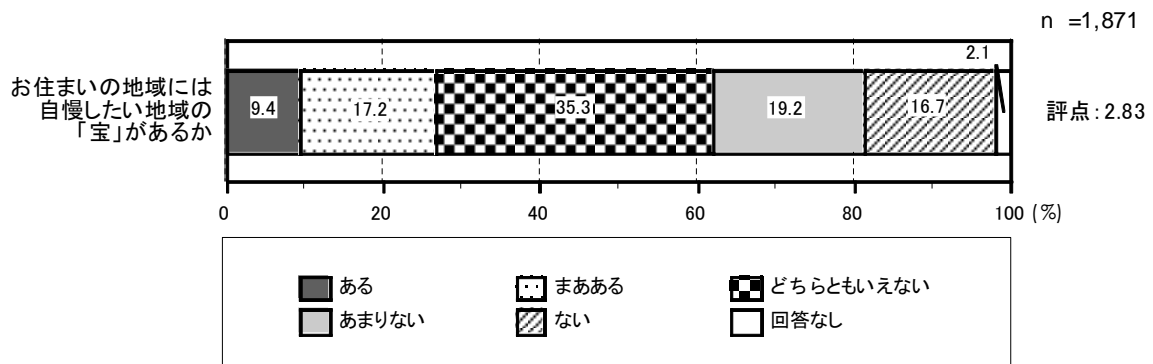


(4) 地域における自慢すべき「宝」の有無 (問 14 (4))

問 14 (4) お住まいの地域には、自慢したい地域の「宝」(風景や産物、文化、行事など)がありますか。【〇は1つ】

- 地域における自慢すべき「宝」の有無について、「どちらともいえない」の 35.3% が最も高くなっています。
- 「ある」(9.4%)、「まあある」(17.2%) の合計は 26.6% であり、「あまりない」(19.2%) 及び「ない」(16.7%) を合わせた 35.9% を大きく下回っています。

図 4-7-7 地域における自慢すべき「宝」の有無



(4) で「1. ある」「2. まあある」に「○」を付けた方は、あなたがお住まいの地域の「宝」であると思うものを、具体的にあげてください。

○モリコロパークやリニモ、各種公園などを含む「各種施設・公園」の件数が最も多くなっています。

○また、「棒の手」や「長湫の警固祭り」「岩作のオマント」、さらには各地の祭りなどの「伝統文化」、「古戦場」や史跡、寺社なども数多くあげられています。

○さらに、自然・緑地や景観、各種行事、地産地消の特産品、子どもが多いことなど、生活者の視点からバラエティに富んだ地域の「宝」があげられています(表4-7-1)。

表4-7-1 地域における自慢すべき「宝」(その1)

<p>■ 1. 伝統文化 (127 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棒の手 (47) ・長湫の警固祭り、岩作のオマント (34) ・各種祭り (20) <ul style="list-style-type: none"> 秋祭り、九万九千日祭り 秋葉山行者祭り 古戦場まつり、納涼祭り、天王祭り 神社の祭り、さくら祭り、盆踊り 等 ・火縄銃 (4) ・歴史 (4) ・神楽 (3) ・長久手の合戦 (2) ・その他 (13) <ul style="list-style-type: none"> お月見どろぼう、県の無形文化財 子供獅子、左義長、太鼓、大黒 山車、長久手城址、神輿、昔話 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・色金山歴史公園 (6) ・各種公共施設 (6) <ul style="list-style-type: none"> 歴史資料館、福祉施設 等 ・図書館 (5) ・色金山歴史公園 (4)・せせらぎの径 (4) ・トヨタ博物館 (3) ・名都美術館 (3) ・各種大学 (2) ・福祉の家 (2) ・愛知医大 (2) ・その他 (7) <ul style="list-style-type: none"> たいようの杜、地下鉄の車庫 未来的な建物、リニモ駅周辺 モリコロパークの観覧車 等
<p>■ 2. 史跡、寺社・仏閣 (58 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古戦場 (25) ・史跡 (9) ・景行天皇社 (7) ・塚 (6) ・寺社 (8) <ul style="list-style-type: none"> 富士社、安昌寺、永見寺、三光院 等 ・弘法 (2) ・その他 (1) <ul style="list-style-type: none"> 行燈 	<p>■ 4. 自然・景観 (71 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然・緑地 (16) ・様々な小動物・昆虫 (9) <ul style="list-style-type: none"> カワセミやキジ、ホタルなどの生き物 ・自然景観 (7) <ul style="list-style-type: none"> 田園風景、季節の風景 田舎の風景 ・街並み (6) ・田園・田畑(東小周辺など) (6) ・緑地 (5) ・香流川などの河川 (4) ・桜 (4) <ul style="list-style-type: none"> 杵ヶ池公園の桜、古戦場の桜 血の池公園の桜 等 ・杵ヶ池 (2) ・山並み (2) <ul style="list-style-type: none"> 御嶽山、伊吹山 等 ・紅葉 (2) <ul style="list-style-type: none"> 文化の家周辺 等 ・街路樹 (2) ・その他 (6) <ul style="list-style-type: none"> たいようの杜から名東区に抜ける森 ピエールプレジューズから見る風景 自宅の寒椿、青い空、林、土筆 等
<p>■ 3. 各種施設・公園 (194 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モリコロパーク (42) ・リニモ (23) ・文化の家 (21) ・古戦場公園 (17) ・各種公園 (17) <ul style="list-style-type: none"> 鴨田公園、交通公園、児童遊園 青少年公園、桧ヶ根公園、原邸公園 等 ・杵ヶ池公園 (12) ・あぐりん村 (9) ・長久手温泉ござらっせ (9) 	

表4-7-1 地域における自慢すべき「宝」(その2)

<p>■ 5. 行事、イベント (22 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 花火大会 (9) • 地区の祭り (5) <ul style="list-style-type: none"> 校区夏祭り 北部自治会連合会主催夏祭り 夏祭り 等 • 運動会 (2) <ul style="list-style-type: none"> 校区運動会 等 • 文化の家のコンサート (2) • その他のイベント (4) <ul style="list-style-type: none"> トヨタクラシックカーフェスティバル リニモクリスマストレイン はなみずき駅周辺のクリスマスネーション 、東谷山祭り 等 	<p>■ 6. その他 (19 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住みやすさ (3) <ul style="list-style-type: none"> 住みよい環境 新興住宅地のオシャレな感じ きれいな新築の家 • 地産地消の特産品 (3) <ul style="list-style-type: none"> 米粉パン、農産物、 地産地消の取組 • 子ども関連の取組 (3) <ul style="list-style-type: none"> 子供会、小学校PTA、 平成こども塾、アピタの子ども商店 • 子どもが多いこと (3) • 安全安心な取組 (3) <ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織、婦人消防団 安心メール • 住民 (2) <ul style="list-style-type: none"> ひと、地域のお年寄り • その他 (2) <ul style="list-style-type: none"> 地域の名称、長久手ソング 等
--	--

4-8 生活インフラについて (問 15)

要点

「買い物や通院に便利か」の評点が最も高く、次いで「出かける際の移動が便利かや「出かける際の移動の安全が確保されていると思うか」など交通基盤や公共交通に関する評点はいずれも高くなっています。一方で、「就業しやすい環境にあると思うか」の評点が低くなっています。

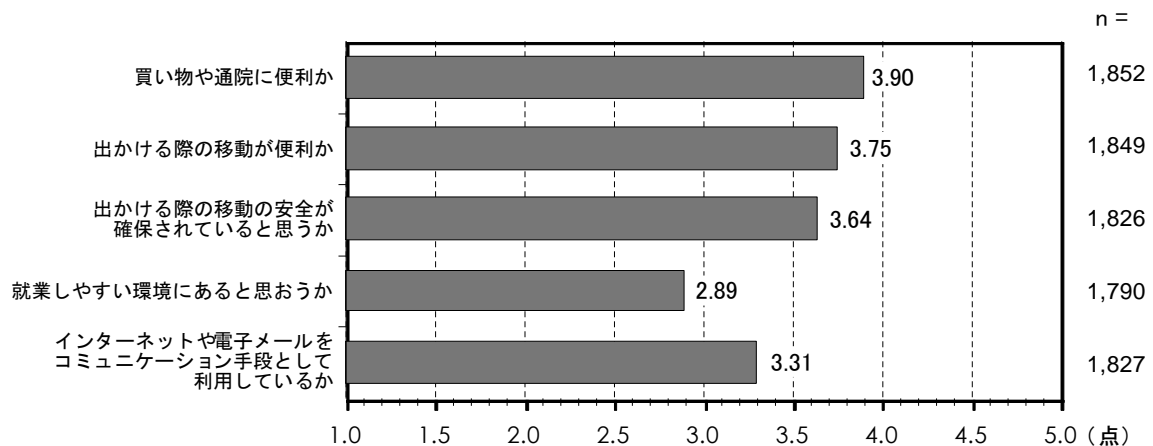
年齢別にみると、「インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか」で20歳代以下をはじめとする若い世代の評点が高くなっています。

また、小学校区別にみると、移動手段や移動の安全、インターネット利用などで東小学校区の評点が低くなっています。

全体

○「買い物や通院に便利か」の評点が3.90と最も高くなっています。また、「出かける際の移動が便利か」(3.75)や「出かける際の移動の安全が確保されていると思うか」(3.64)などの評点も高くなっています。一方で、「就業しやすい環境にあると思うか」の評点が2.89と低くなっています(図4-8-1)。

図4-8-1 生活インフラについて (評点)

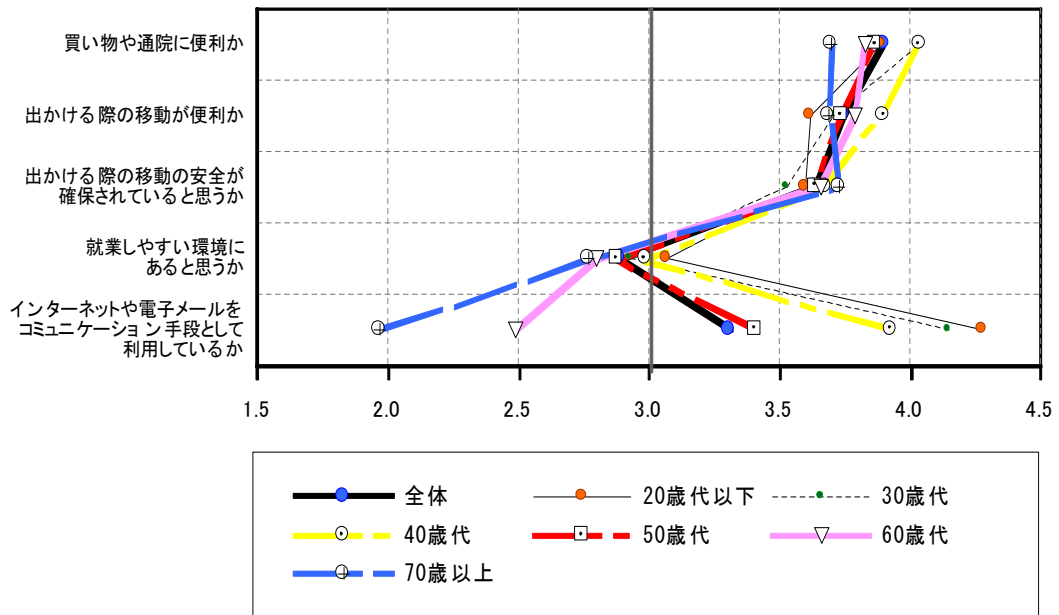


調査隊

○「買い物」や「移動」は便利と感じている人の割合が高いが、それに比べ就業しやすい環境にはないと感じている人の割合が高いことがわかります。(図4-8-1)。

○「インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているか」において大きな年齢差がみられます。具体的には、20歳代以下(4.28)をはじめ、30歳代(4.15)、40歳代(3.93)といった若い世代の評点が高くなる一方で、70歳以上(1.97)や60歳代(2.49)の評点が全体を大きく下回っています(図4-8-2)。

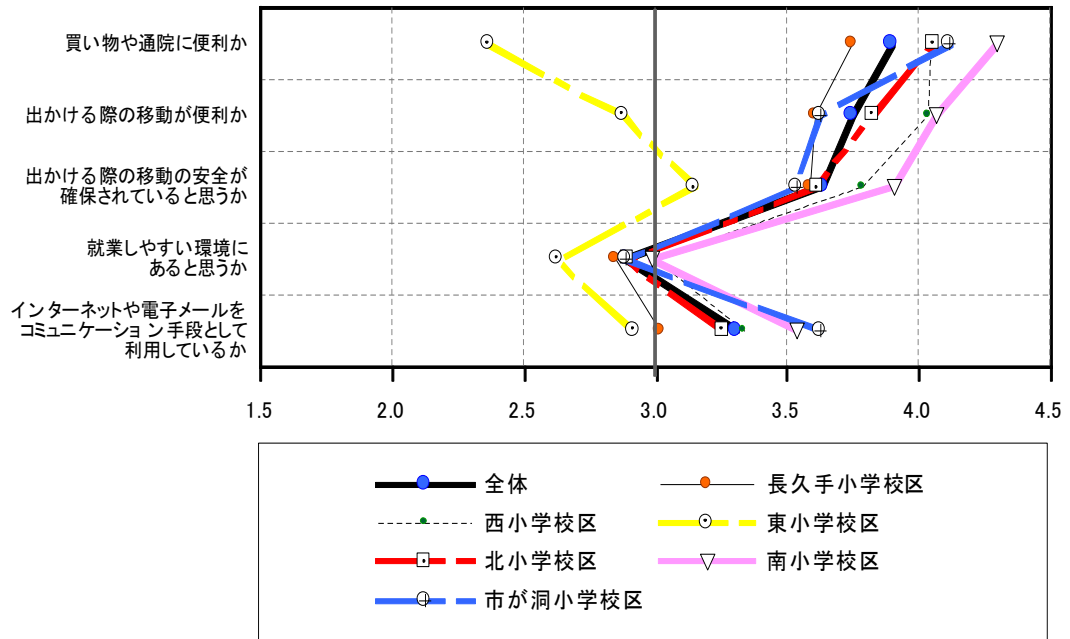
図4-8-2 年齢別「生活インフラについて(評点)」



小学校区別

- 「買い物や通院に便利か」については、南小学校区（4.30）や西小学校区（4.05）が他の小学校区よりも評点が高い一方で、東小学校区（2.37）では、評点が低くなっています。
- 東小学校区では、全ての項目で他の小学校区よりも評点が低くなっています（図4-8-3）。

図4-8-3 小学校区別「生活インフラについて（評点）」

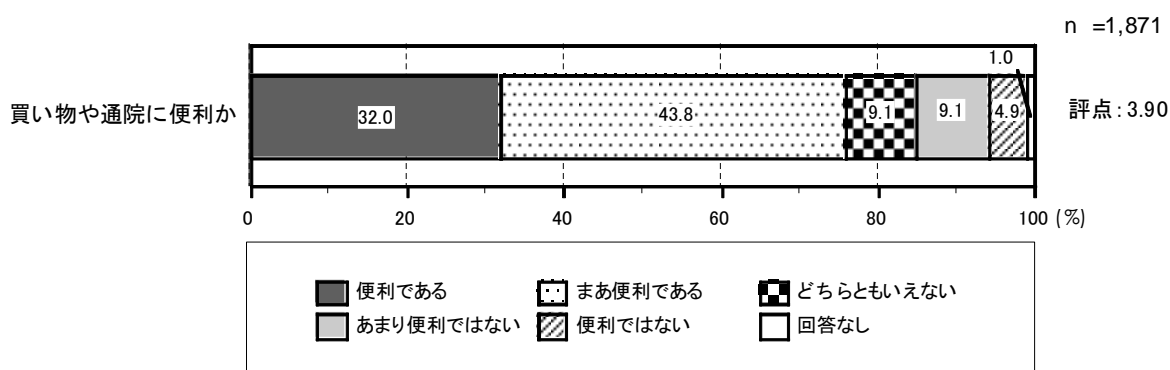


(1) 買い物、通院の便 (問 15 (1))

問 15 (1) お住まいの地域は、買い物や通院に便利ですか。【○は1つ】

○買い物や通院の利便性について、「まあ便利である」が 43.8%で最も高く、「便利である」(32.0%) と合わせた割合は 75.8%で、「便利でない」(4.9%) 及び「あまり便利でない」(9.1%) の合計 14.0%を大きく上回っています (図 4-8-4)。

図 4-8-4 買い物、通院の便

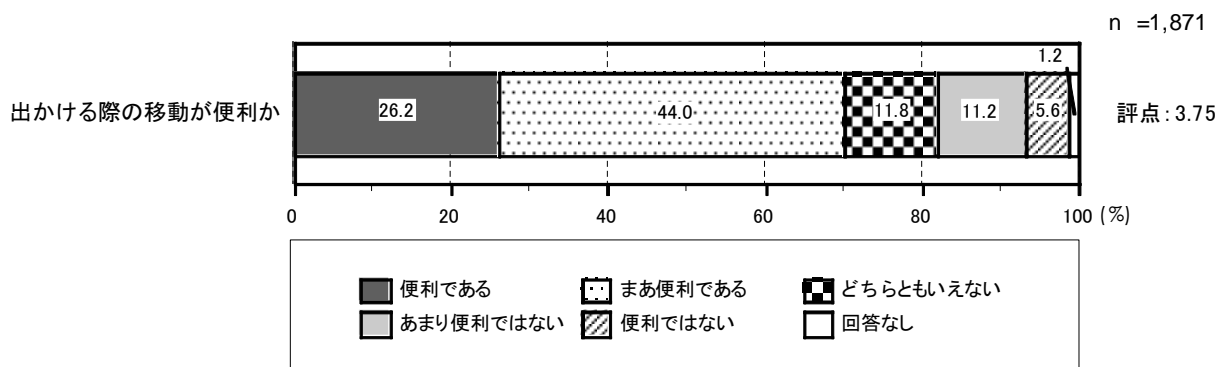


(2) 出かける際の移動の便 (問 15 (2))

問 15 (2) お住まいの地域は、出かける際の移動が便利ですか。【○は1つ】

○出かける際の移動が便利かについて、「まあ便利である」が 44.0%で最も高く、「便利である」(26.2%) と合わせた割合は 70.2%で、「便利でない」(5.6%) 及び「あまり便利でない」(11.2%) の合計 16.8%を大きく上回っています (図 4-8-5)。

図 4-8-5 出かける際の移動の便

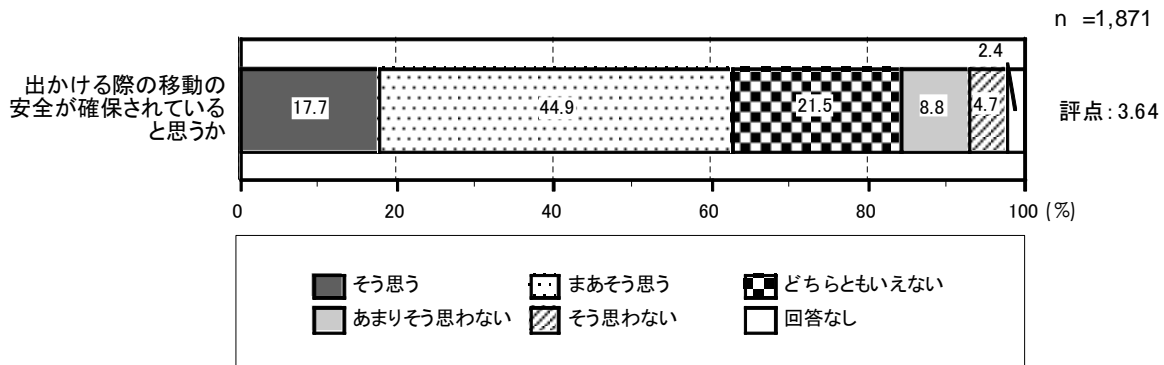


(3) 出かける際の移動の安全 (問 15 (3))

問 15 (3) お住まいの地域は、出かける際の移動の安全が確保されていると思いますか。【〇は1つ】

○出かける際の移動の安全について、「まあそう思う」が 44.9%で最も高く、「そう思う」(17.7%) と合わせた割合は 62.6%で、「そう思わない」(4.7%) 及び「あまりそう思わない」(8.8%) の合計 13.5%を大きく上回っています (図 4-8-6)。

図 4-8-6 出かける際の移動の安全



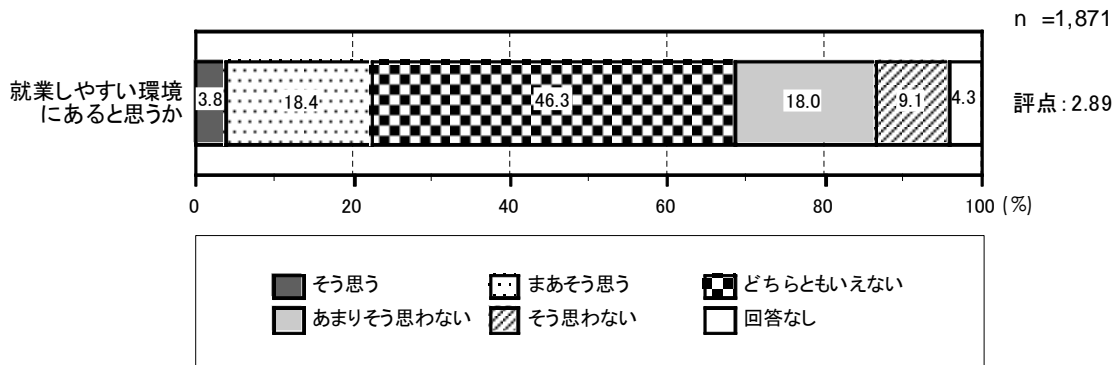
(4) 就業環境 (問 15 (4))

問 15 (4) お住まいの地域 (長久手市及びその周辺地域) では、仕事が見つかりやすく就業しやすい環境 (パート労働も含む) にあると思いますか。【〇は1つ】

○住まいの地域が就業しやすい環境にあると思うかについて、「どちらともいえない」が 46.3%と最も多くなっています。

○「そう思う」(3.8%) 及び「まあそう思う」(18.4%) を合わせた割合は 22.2%で、「そう思わない」(9.1%) 及び「あまりそう思わない」(18.0%) の合計 27.1%より若干少なくなっています (図 4-8-7)。

図 4-8-7 就業環境

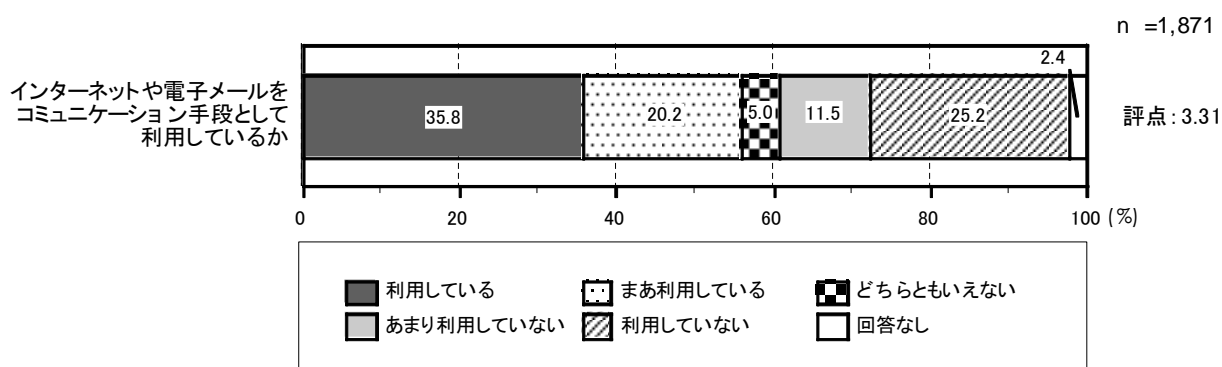


(5) インターネットや電子メールの利用 (問 15 (5))

問 15 (5) インターネット (ツイッターやフェイスブック、ライン等も含む) や電子メールをコミュニケーション手段として利用していますか。【○は1つ】

○インターネットや電子メールをコミュニケーション手段として利用しているかについて、「利用している」が35.8%で最も高く、「まあ利用している」(20.2%) と合わせた割合は56.0%あり、半数以上がインターネット等を利用しています (図4-8-8)。

図4-8-8 インターネットや電子メールの利用



4-9 まちづくりにおける地域の役割について（問16）～（問18）

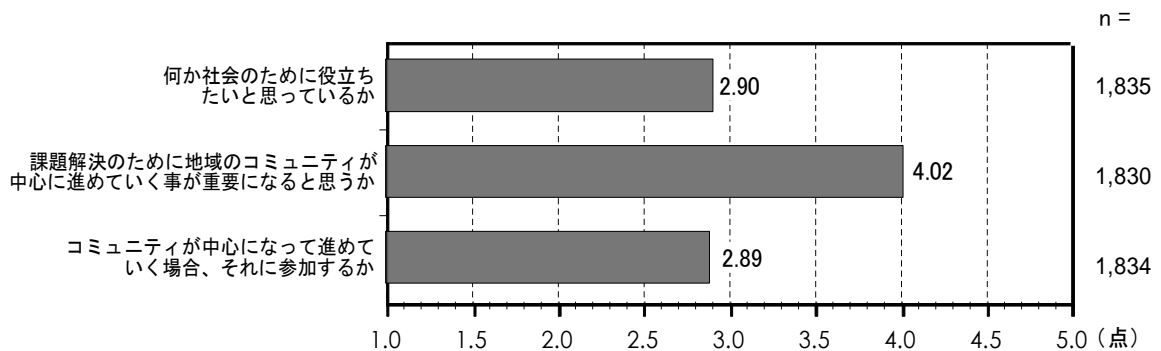
要点

「課題解決のために地域のコミュニティが中心に進めていく事が重要になると思うか」の評点が最も高い一方で、「何か社会のために役立ちたいと思っているか」や「コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか」の評点が低い水準にとどまっています。地域が主体となったコミュニティ活動の重要性への理解に比べて、自らが地域づくりの担い手として役割を持ち活動に参加するという意識は低い状況にあることがうかがえます。

全体

○「課題解決のために地域のコミュニティが中心に進めていく事が重要になると思うか」の評点が4.02に比べて、「コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか」の評点が2.89と低く、また「何か社会のために役立ちたいと思っているか」の評点も2.90と低くなっています（図4-9-1）。

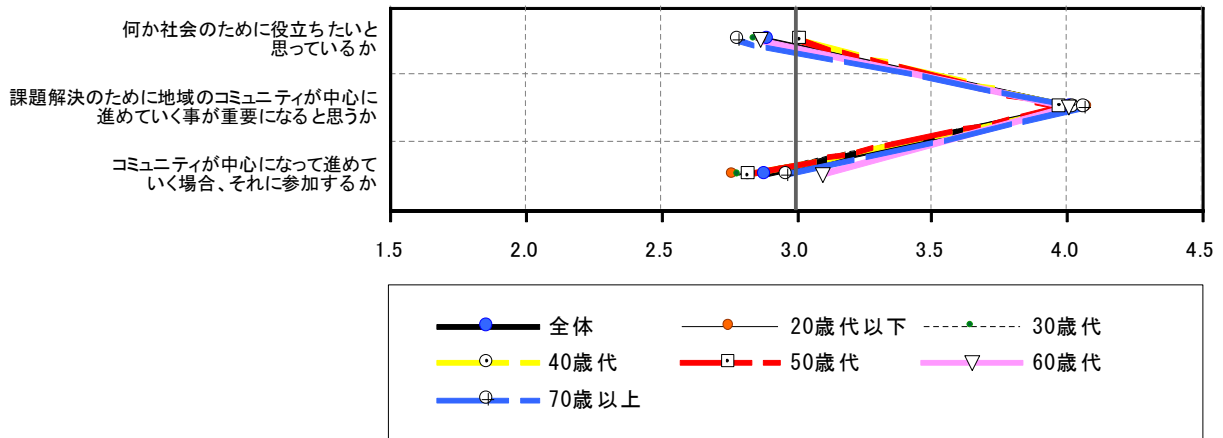
図4-9-1 まちづくりにおける地域の役割について（評点）



年齢別

○「コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加するか」について、60 歳代 (3.10) や 70 歳代 (2.97) の評点が若干高くなっていますが、年齢別による大きな違いはみられません (図 4-9-2)。

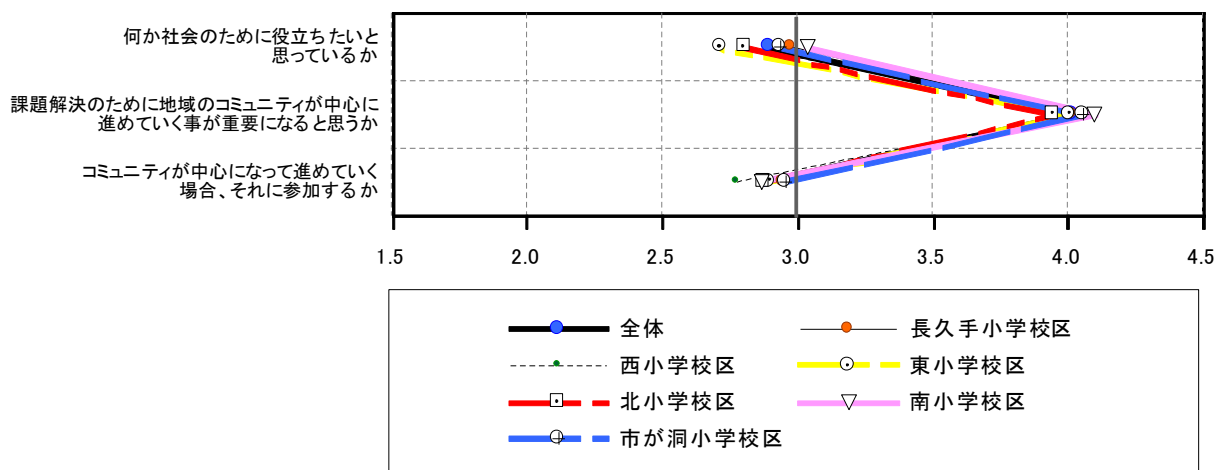
図 4-9-2 年齢別「まちづくりにおける地域の役割について (評点)」



小学校区別

○小学校区別に見ても、全体平均と比べて大きな違いは見られません (図 4-9-3)。

図 4-9-3 小学校区別「まちづくりにおける地域の役割について (評点)」

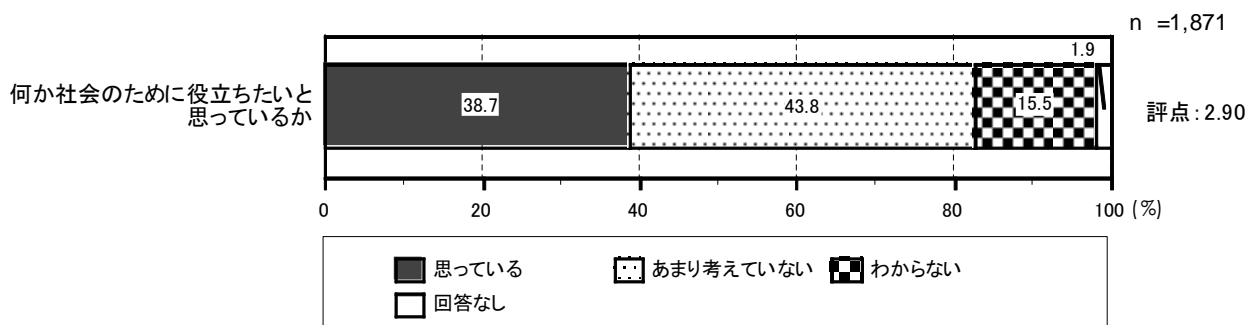


(1) 地域における社会貢献の意思 (問16)

問16 あなたは、日ごろ地域社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。【〇は1つ】

○社会のために役立ちたいと思っているかについて、「あまり考えていない」が43.8%と最も高く、「思っている」(38.7%)を5.1ポイント上回っています(図4-9-4)。

図4-9-4 地域における社会貢献の意思

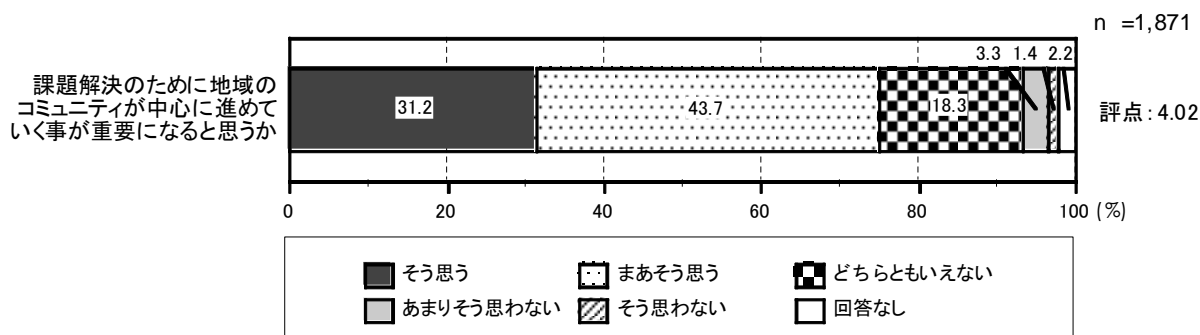


(2) 課題解決におけるコミュニティの重要性 (問17)

問17 地域にはさまざまな課題があると思われませんが、このような課題を解決していくためには、地域のコミュニティが中心になって進めていくことが今後ますます重要になると思いますか。【〇は1つ】

○地域の課題解決のためにコミュニティの役割が重要かについて、「まあそう思う」が43.7%で最も高く、「そう思う」(31.2%)との合計は74.9%で、多くの回答者が地域コミュニティの重要性を認識しています(図4-9-5)。

図4-9-5 課題解決におけるコミュニティの重要性

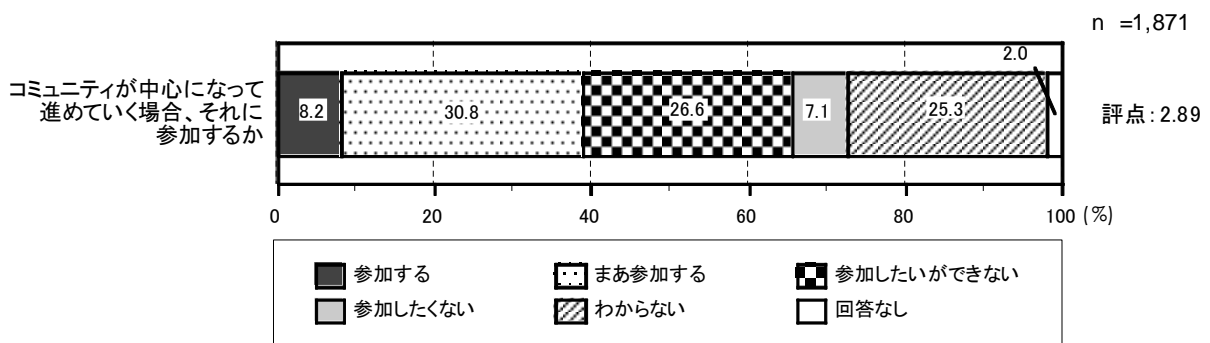


(3) 地域コミュニティへの参加の意思 (問18)

問18 問17のような取組などを地域コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加しますか。
【〇は1つ】

- 地域コミュニティへの参加の意思について、「まあ参加する」が30.8%で最も高く、「参加する」(8.2%)と合わせた割合は39.0%となっています。さらに、「参加したいができない」の26.6%を加えると、全体の約7割が参加の意向を示しています。
- 「参加したくない」は7.1%にとどまっています。(図4-9-6)。

図4-9-6 地域コミュニティへの参加の意思



■調査隊からの提案■

コミュニティによる地域活動に「参加できない」「したくない」という人が少なくありません。「地域デビューの日」として地域活動をしていくノウハウを学ぶ講演会&ワークショップや、月一回一時間程度の自由解散のお茶会(飲み会)を開催してはどうでしょうか。何か生まれればラッキーというくらいのスタンスで。

問18で「3. 参加したいができない」「4. 参加したくない」に「○」を付けた方は、その理由をご記入ください。

- 「仕事で忙しい」ことを理由にあげた意見が最も多く180件あります。
- 次いで「子育てで忙しい」(77件)、「とにかく時間がない」(49件)、「家族の介護で忙しい」などの忙しさに関する意見、「健康上の理由」(51件)や「高齢のため」(48件)など加齢による健康や体力の衰えなどの意見も多くみられます。
- 一方で、必要性を感じつつも「ご近所づきあいが煩わしく面倒」という意見や、「参加のきっかけや機会、必要な情報が不足」しているために参加できないという意見、必要性を感じつつも「苦手、自信がない」といった意見など、コミュニティ活動への参加を促進するための問題点や課題も指摘されています(図4-9-7)。

図4-9-7 地域コミュニティの活動に「参加したいができない」「参加したくない」理由

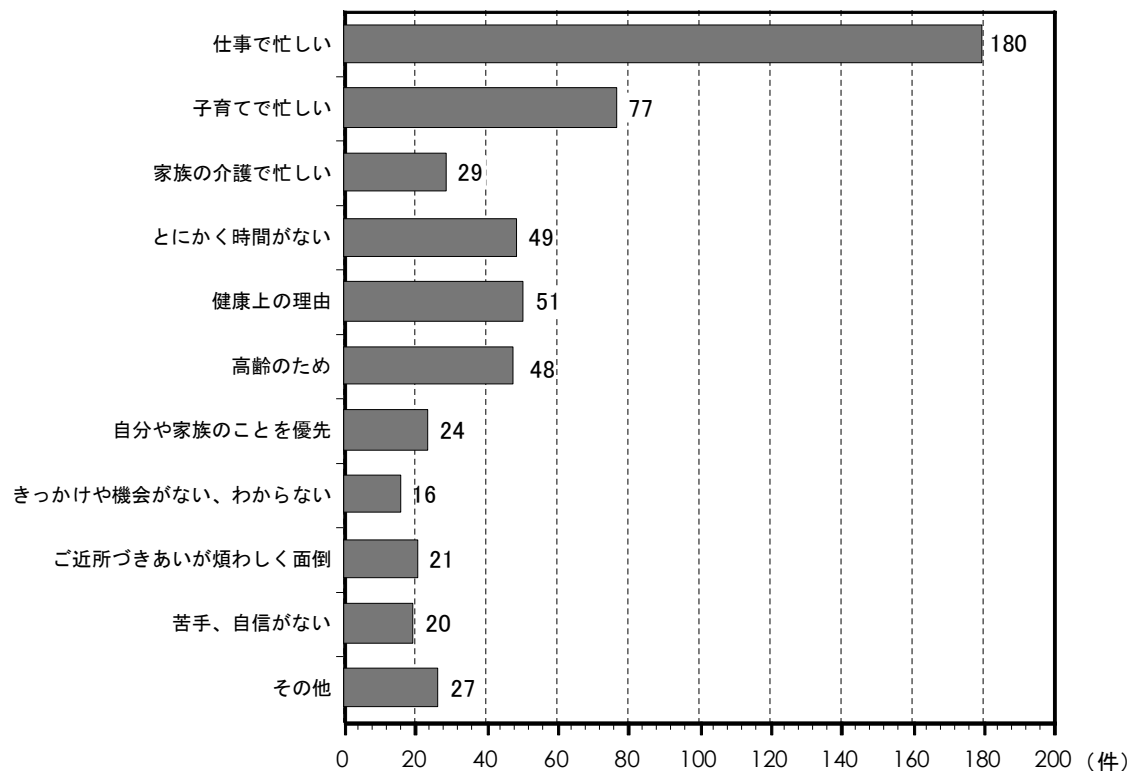


表 4-9-1 地域コミュニティの活動に「参加したいができない」「参加したくない」主な理由（抜粋）

分類	主なご意見（抜粋）
1：仕事で忙しい	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務先が市外で平日は時間的に不可能。休日も時間が少ない。 ・自営業なので時間、休日が少ない。 ・仕事があり、コミュニティの集まりは夜や土日が多いため。 ・仕事に拘束される時間が長く、余力がない。 ・パート勤務で時間の余裕がない。 ・夫婦共働きで毎日が精一杯。
2：子育てで忙しい	<ul style="list-style-type: none"> ・育児に追われ、自由になる時間がない。 ・子育てしていると暇がない。 ・子供を預けてまで参加することはしにくい。 ・子供が小さいので、あと数年は難しい。 ・子供の用事で自由になる時間がない。 ・孫達のめんどうに明け暮れているため。
3：家族の介護で忙しい	<ul style="list-style-type: none"> ・介護生活のため、自分の思うような行動がとれない。 ・親の介護が優先。 ・家族に体調が悪い者がおり、時間的余裕がない。 ・県外に高齢者の母がいるため、まずは自分の母から。 ・自宅に93歳の義母と同居しているので自由時間がない。
4：とにかく時間がない	<ul style="list-style-type: none"> ・家にいない時間が多い。 ・学業が忙しいため。 ・時間的余裕がない。 ・平日は時間的に難しい。 ・時間調整ができない。 ・他のボランティアをやっている。
5：健康上の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・移動するのに車椅子を使用しているため。 ・足、腰が痛いので。 ・自分自身の健康に不安がある。 ・体力がない。 ・身体障がい者のため。
6：高齢のため	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢のためにできることは少ないと思う。 ・年齢的に参加すると、かえって足手まといになる気がする。 ・年齢的に心配だから。 ・もうすぐ高齢になり貢献できない。
7：自分や家族のことを優先	<ul style="list-style-type: none"> ・家の用事で忙しいが、落ち着いたら参加したい。 ・家族に問題を抱えているため。 ・自分たちのことで精一杯である。 ・自分の時間を大切にしたい。
8：参加のきっかけや機会、必要な情報が不足	<ul style="list-style-type: none"> ・きっかけがない。 ・コミュニティの参加の仕方が分からない。 ・どんなコミュニティがあるか知らない。 ・参加の手段がわからない。 ・どのような取り組みがあるかわからない。 ・参加するにはかなり勇気がいると思う。
9：ご近所づきあいが煩わしく面倒	<ul style="list-style-type: none"> ・昔からの住民中心の中へは入りづらいから。 ・旧来の絆が強く一般者が参加しがたい。 ・他の地域から来た人に対しオープンでない。 ・隣、近所とは距離を置いて付き合いたい。 ・人間関係がめんどう。
10：苦手、自信がない	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とつながるのは苦手。 ・自分にできる自信がない。 ・必要性は感じるが、今の自分にできることがあるか不安。 ・人前で話したりするのが苦手。 ・人付き合いが好きではないため。
11：その他	<ul style="list-style-type: none"> ・県外から転入してきたため、地元とは思えない。 ・参加したいと思う行事に出会ったことがないため。 ・参加しても若い人の発言は受け入れてもらえない気がする。 ・定年でようやくのんびりしているところ。 ・何かトラブルが発生しそう。

第5章 総括

(1) 今後に向けて

ながくて幸せ実感アンケート（以下「幸せ実感アンケート」という。）は、「ながくて幸せのモノサシづくり」を進めるにあたって、その基礎的な知見を得るため、アンケートの実施を通じて、長久手の姿や市民の皆様の暮らしの状況等を確認することを目的として実施しました。

本市がこれまで行ったアンケート調査については、その成果を検証し、様々な形で市政運営などに反映してきました。今回実施した幸せ実感アンケートについても、その成果を活用・発展させていくために、3つの取組を実施していきます。

1. 定期的な幸せ実感アンケートの実施による、幸福度の傾向の把握

一定期間ごとに、この幸せ実感アンケートを実施し、結果を公表することで、定点観測的に本市や各地区の状態、変化を把握し、今後のまちづくりを市民の皆様と考えていくための道具として活用します。

2. 幸せ実感アンケートの集計・分析結果をまちづくりに活用

現在本市が、新しいまちの仕組みづくりとして進めている小学校区単位のまちづくりにおいて、その地区の状態を把握するための道具として、この幸せ実感アンケート結果を活用していきます。

3. 「気づき」のきっかけとして、幸せ実感アンケートの集計結果を公開

公共データの積極的な公開と活用を促進する目的から、ながくて幸せ実感アンケートの調査結果の基礎データを公開します。利用者が効果的にデータを活用し、様々な「気づき」を発見していただくことにより、地域が活性化することを期待します。

これらは、「ながくて幸せのモノサシづくり」を構成する取組として、今後順次事業を実施していく予定です。

(2) 総括（ながくて幸せのモノサシづくりアドバイザー）

住みやすく幸せ度の高いまち長久手づくりの序章 ～幸せのモノサシづくりの意義と幸せ実感アンケート結果の活用～

ながくて幸せのモノサシづくりアドバイザー
関西大学教授 草郷孝好

ながくて幸せのモノサシづくりの取り組みが始まって1年半が経過、ここに幸せ実感アンケート結果及び幸せ実感調査隊活動報告書（詳細は資料編参照）をまとめることができました。まず、この報告書の厚さに驚き、次に、報告書のページを繰ってみて、その中身の濃さに深い感動を覚えているのは私だけではないでしょう。今回の幸せ実感調査隊の活動に関しては、「一体何を目指している活動なのか」、「なぜ市民主導なのか」、「長久手のまちづくりに活用できるものなのか」など、実に多くの質問や懸念を耳にしていただけに、この報告書を読み通して、改めて、市民と市職員の持つ知恵、活力と協力があれば、長久手市を日本で一番住みやすい、そして、幸せ度の高いまちづくりを目指していけることを確認することができました。本稿は、報告書の「おわりに」にあたるのですが、長久手の住みやすさと幸せ度の高いまちづくり活動の本格的な「はじまり」にもあたるでしょう。そこで、幸せのモノサシづくりや幸せ実感調査に関する活動について、これまでに投げかけられた5つの問いに答える形で、今回の取り組みが市内のそこかしこでさまざまな形で始まろうとしている市民主体のまちづくり活動とどのようにつながるのか、その活動の意義と今後の長久手のまちづくりへの活用の可能性を展望してみたいと思います。

問1 まちづくりになぜ市民の幸せが大切なのか？

日本一住みやすい幸せ度の高いまちを目指す長久手市ですが、これは長久手だけではなく、日本政府の掲げる1つの大切な目標でもあります。では、なぜ、今の時代に、市民の幸福に関心を持つのかという点についてですが、これは、市民がどのような豊かさを志向しているかということと密接に関連しています。市民の考える豊かさの中身は、この40年間ですいぶんと変化してきました。内閣府が毎年実施している「国民生活に関する世論調査」を見てみると、そのことがよくわかります。この調査の中に、物の豊かさと心の豊かさのどちらが重要かを尋ねる質問があります。平成26年6月実施の調査結果を見てみると、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」を選択した人が63パーセント、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」を選択した人は31パーセントでした。1970年代までは、物の豊かさを志向する人の割合の方が高かったのですが、80年代には完全に逆転し、以後、心の豊かさを重視する割合が確実に増加し、今年は、物の豊かさを選択した人の2倍強になっています。

物の豊かさを実現するには、収入や雇用が重視されるわけで、経済対策を重視していくことが重要視されます。では、果たして、経済基盤が強化されれば、自然と心の豊かさも高まっていくもの

でしょうか。残念ながら、先進国の経験を見てみると、どうやらそう単純な話ではないようです。すべての人が物の豊かさが大切である、とは考えていないように、反対に、すべての人が心の豊かさの方が大切だと考えているわけでもありません。要するに、人々の価値基準は多様であり、経済的な豊かさを実現すればそれでよいという時代ではなくなっているわけです。そこで、政府も、人々の幸福度や生活への満足度などの国民の生活実感を調べ、それを幸せな国づくりを検討するうえでの指針にしようという動きが生まれてきたわけです。一体、国民は、どの程度幸福なのだろうか、国民の間で幸福度にどの程度のばらつきや格差があるのだろうか、また、各々の幸福な生活をどのように捉えているのだろうか、幸せを左右する要因はどのようなものだろうか、などを確かめていくことが必要と考えるようになってきたのです。

近年、幸福を左右する要因に注目した研究が世界各地で急速に進み、今では、経済基盤に加えて、健康、家族や隣人・知人とのつながりは国や地域関係なく大切な要素と考えられるようになってきました。また、これら3つ以外の要素でも、教育、生活環境、文化、自然などが大切であることがわかってきました。豊かな心を持つ住民によるまちづくりを実現するためには、経済基盤以外にも、力を入れていく必要がある要素があるという理解が生まれ、実際のまちづくりに活かすようになってきたのです。

このように、市民の幸せを測り、市民の幸せに影響を与える要因を探っていくことが住みやすい長久手市を実現するために欠かせないので、市民の幸せを重視し、調べていく必要があるとなってきたわけです。長久手市でも、住みやすいまちとは、市民が幸せをしっかりと感じ取れる生活ができてきていることと考え、住みやすさのバロメーターにもなるであろう幸せのモノサシづくりを掲げ、その最初の試みとして、幸せ実感調査を開始することにしました。

問2 では、幸せ実感調査隊のような取り組みはどれくらい広がってきているのですか？

幸せ実感調査隊の活動は、日本では、長久手市が最初に導入したとあってよいと思います。調査隊メンバーを公募で市民から、そして、市役所から若手有志に参加を呼びかけて発足、10回に及ぶワークショップを平日の夜に開催しました。そして、調査隊のみなさんを中心にして、長久手市のまちの住みやすさと幸せ診断のための調査を行いました。この取り組みは、市民主導で、生活の質を高めるための取り組みとして斬新であるとの評価が徐々になされてきています。実際、長久手市も主要なメンバーである「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合」（通称「幸せリーグ」）を通じて、他の行政体からの関心を集めていますので、今後、似たような取り組みが全国へと広がっていく可能性もあります。

また、幸せリーグとは別ルートで、長久手市の取り組みがホームページに掲載されているのを参考にして、住民主体のまちづくりの取り組みに活かしていただいた事例も出てきています。それは、2004年に発生した中越地震によって大きな被害を受けた新潟県長岡市川口地域の取り組みで、地震から10年を経過し、今後10年のまちの姿を構想していくための住民によるまちづくりの活動の一環として、「長久手方式」を取り入れ、住民メンバー主導で生活実感調査を設計し、調査実施と分析、そして、住民対象のワークショップやセミナーを行っています。このように、市民が自ら動いて、自分のまちづくりに関わっていく新しい公共の時代が着実に始まっています。長久手はその先鞭をつけているまちであるといえます。

問3 ながくて幸せのモノサシづくりの過程で幸せ実感調査を最初に行ったのはなぜですか？

長久手市は住みやすく、幸せ度の高いまちをつくることを目標にしているわけですが、実際に、どこまで住みやすさや幸せ度が改善していくのかを確かめていく必要があります、それにはそれを測る尺度としてのモノサシが有効です。ながくての幸せのモノサシづくりのモノサシとは、住みやすいまちをイメージし、幸せ度の高いまちを実現するためのモノサシになるわけです。

モノサシを持つことで、住みやすいかどうか、幸せ度が上がるかどうかを確かめていくことができるのと、長久手市の生活の中で、住みやすい点やそうでない点、幸せを左右する大事な要素（経済基盤、健康、人とのつながりなど）の中で、よい状況にあるものとそうでないものとを確かめていくことができます。このようなモノサシを持つためには、まず、現在の長久手市の生活に関する調査を実施し、それを出発点として、長久手の生活の変化を確かめていくことを目指しています。そのために、現在の長久手市の住みやすさや幸せ度合いを市民目線で確かめておくために、「今のながくての幸せを測る！」をテーマに、モノサシづくりの最初に市民の幸せ実感調査に取り組むことにしました。

問4 市民調査隊のメンバーは調査の素人だと思えますが、それを頼りにできるのでしょうか？

一般に「調査」と聞けば、行政の専門官、学者や研究者、各分野の専門コンサルタントが行うものと考えられています。確かに、専門性の高い課題、たとえば、生活環境調査であれば、水質検査、窒素濃度や二酸化炭素量の計測など、素人では手に負えないものばかりですから、専門家に委ねるしか方法はありません。しかし、長久手の生活に関する調査を行う場合には、長久手市民が生活当事者です。つまり、長久手市民こそ、長年の生活経験をもとに、当事者の視点に立って、長久手がどのようなまちであってほしいかを構想したり、また、長久手の生活のどのような点を伸ばすべきか、あるいは、改善すべきかを見つけ出ししていくことができる「市民生活の専門家」といえるのです。この報告書の中で詳細に報告していますが、今回の幸せ実感調査では、長久手市の生活を多面的に評価・診断するために必要な設問を調査隊メンバーが工夫を重ねて、設計しました。その結果、長久手の独自性を映した設問が取り入れられており、長久手らしい質問票に仕上がっています。ただ、市民メンバー主導の調査によって、長久手の住みやすさや幸せを確かめるために活用できるデータといえるかどうかという心配はあります。この点に関しては、今回のアンケート調査によって収集されたデータをもとにして、調査データの活用の問題がないかどうかを確認しました。確認の結果（資料編 P. 208 参照）、市民調査隊の設計した質問票による調査データは、長久手市の住みやすさ、幸せ度などの生活実感、また、幸せ度を左右する主要な要素を適切にカバーしていることがわかりました。長久手市の住みやすさや幸せ度を確かめていくための調査として、活用できると考えています。

問5 幸せ実感調査の使い道はどのようなものになるのでしょうか？

まず、幸せ実感調査は誰のものか、誰のために行うのか、そして、誰が使うのか、を確認しておくことが重要です。従来、行政が実施する調査の多くは、市民の関心から出発したものというよりも、行政職員によって、生活に支障をきたしている課題を想定した上での調査であると思います。その結果は、行政サービスの改善や政策づくりなどの参考として利用されてきました。しかし、長久手の幸せ実感調査は、長久手市の生活当事者である市民、そして、その生活を支援するパートナ

一である市役所の職員によって企画されました。その利用は、長久手市の生活の当事者である住民自身になります。幸せ実感調査は、長久手市民のものであり、市民のために行い、そして、市民自身が積極的に使うものなのです。

幸せ実感調査は、市民の目線で長久手市の総合的な住みやすさや市民の幸せ実感を確認するものであって、住みやすいまち、幸せ度の高いまち長久手を実現するために活用していくものです。もちろん、従来の調査同様に、市役所、学校、病院などの個別の行政サービスの改善にも活用できるでしょうし、それにとどまらず、地域全体の生活改善につながるような市民活動に活用できる調査でもあるのです。

では、幸せ実感調査の使い道ですが、まず、健康診断のような使い道があります。たとえば、体重が急増した場合には、警告サインとなりますし、逆に、堅調な数値であれば、安心感を持って生活できるでしょう。これと同じで、幸せ実感調査を実施したことで、長久手市の生活現状を評価することができます。幸福度が高いのかどうかを確認したり、幸福度のばらつきを確認したりすることで、長久手市の現状に安心したり、問題意識を持つこととなります。住みやすさや幸せ度を多面的に調査することで、今の長久手市の長所や短所をより丁寧に確かめることができます。そして、長所や短所が把握できれば、今後、長久手のまちづくりに何をすべきかを長久手市の市民と職員が協働して考えて、行動に移していけると思います。そのためには、幸せ実感調査を多くの市民に知ってもらうことで、長久手のまちづくりのためのアイデアを出したり、住みやすい長久手づくりに汗をかいてもらうことを目指していくことが大切になります。

また、別の使い道も考えられます。住みやすさや幸せ度というと、住みやすさが〇〇点、幸福度がXX点というように、数字で表すわけですが、このように数字だけになってしまうと、どこことなく殺伐とした印象を持ちます。そこで、市民が住みやすいと感じる長久手の生活は、具体的にどのようなものだろうか、また、幸せを感じる長久手の暮らしは、具体的にどのようなものだろうか、を市民同士で語り合っていくきっかけとして、幸せ実感調査の結果を活用する方法です。たとえば、幸せ度が10点満点で8点同士の地元の人に集ってもらい、8点をつけた幸せを感じる生活をとことん語り合ってもらい、その語りの中から、長久手市の良さや課題に肉付けをしていくことになるかもしれません。また、その語り合いから、市民活動を見つけ出すきっかけになるかもしれません。幸せ実感調査は、このような市民同士のつながりを促すような活用の仕方もあると思いますし、そのような工夫が重要になってくると思います。

ながくて幸せ実感調査隊による幸せ実感調査のおかげで長久手市の生活現状を知る貴重な手がかりを得ることができました。長久手を愛する幸せ実感調査隊メンバーのみなさんに心からの賛辞をおくります。調査隊の志を継いで、長久手では、市民と行政が幸せ実感調査データを日常的に活用していくことでしょう。ながくて幸せのモノサシづくりの活動を幹の太い息の長い活動に育てていくことで、市民主体のまちづくりがますます本格化していくことを期待しています。そして、近い将来、長久手市が幸せ度の高い、日本一住みやすいまちになることを信じていますし、その実現をぜひ目指していきたいものです。

ながくて幸せ実感アンケート 報告書

～みんなでつくろう 幸せのモノサシ～

平成26年12月

発行 長久手市
愛知県長久手市岩作城の内60番地1
編集 長久手市行政経営部経営管理課
電話 (0561) 56-0600 (直通)
ホームページは <http://www.city.nagakute.lg.jp/>